「防災教育」
学校・地域連携事業
実施事例集

平成 27 年度指定校



新潟市防災マスコットキャラクター
キョージョ

平成 28 年 2 月
新潟市教育委員会



新潟市防災マスコットキャラクター
ジージョ

「防災教育」学校・地域連携事業

実施事例集

（平成 27 年度指定校）

平成 28 年 2 月

新潟市教育委員会

目　次

1．本事業の概要 ---------- 1

2．平成 27 年度指定校における防災教育

１）新潟市立南浜中学校区（北区）---------- 3
南浜中学校、南浜小学校、太夫浜小学校

２）新潟市立濁川中学校区（北区）---------- 17
濁川中学校、濁川小学校

３）新潟市立東石山中学校区（東区）---------- 27
東石山中学校、東中野山小学校、南中野山小学校

４）新潟市立下山中学校区（東区）---------- 41
下山中学校、下山小学校

５）新潟市立関屋中学校区（中央区）---------- 51
関屋中学校、浜浦小学校、関屋小学校、有明台小学校

６）新潟市立曽野木中学校区（江南区）---------- 69
曽野木中学校、曽野木小学校、東曽野木小学校

７）新潟市立両川中学校区（江南区）---------- 83
両川中学校、両川小学校

８）新潟市立小須戸中学校区（秋葉区）---------- 93
小須戸中学校、小須戸小学校、矢代田小学校

９）新潟市立白根第一中学校区（南区）---------- 107
白根第一中学校、小林小学校、白根小学校

10）新潟市立黒埼中学校区（西区）---------- 121
黒埼中学校、大野小学校、黒埼南小学校、山田小学校、立仏小学校

11）新潟市立西川中学校区（西蒲区）---------- 143
西川中学校、曽根小学校、鎧郷小学校、升潟小学校

１．本事業の概要

（１）本事業の目的と実施方針

本事業の目的は､教育ビジョンで新潟市が目指す子どもの姿･市民の姿の実現に向け、市内各校が行う防災教育の内容が、家庭や地域と連携した実践的な取組となり、学校に定着し継続したものとなるよう支援することです。

実施方針としては、新潟市教育委員会が新潟県「ふるさと新潟防災教育推進事業（学校実践)」に申請し、その補助金を活用して事業を進めていきます。平成２７年度から平成３１年度の５年間で、市内全小・中・中等教育・特別支援学校を支援し、各校の新潟県「防災教育プログラム」必須項目を含む各学校の地域の特色に応じた防災教育の自校化にむけた、防災教育実践の専門的な支援、コミュニティ協議会等との地域連携のサポートを行います。

（２）平成２７年度の取組の概要

①「防災教育」学校・地域連携事業説明会・防災教育プログラム研修会

期　日　：　平成２７年5月１４日（木）

時　間　：　１３：３０～１６：３０

会　場　：　白山浦庁舎　７号棟　４０５会議室

参加者　：　平成２７年度指定校担当者、地域教育コーディネーター

内　容　：　事業概要の説明、平成２６年度先行実践校の発表、中学校区ごとのグループワーク（地域と連携した防災教育を推進する上での課題等）

② 各中学校区での防災教育支援サポート

期　日　：　平成２７年6月～1月　約3回程度

時　間　：　１５：００～１６：３０頃

会　場　：　各中学校区小・中学校

参加者　：　各中学校区担当、中学校区支援担当者（コンソーシアム）

内　容　：　地域連携の意義とその方法についての検討、学校ごとの取組についての情報共有自校化プラン、年間指導計画、実践事例作成サポート

③「防災教育」学校・地域連携事業指定校報告会兼研修会

期　日　：　平成２８年２月２５日（木）

時　間　：　１３：３０～１６：３０

会　場　：　白山浦庁舎　７号棟　４０５会議室

参加者　：　平成２７年度指定校担当者・平成２８年度指定校担当者

内　容　：　平成２７年度指定校代表による「自校化プラン、年間指導計画、実践事例」報告発表　／　平成２７年度、２８年度指定校合同グループワーク（地域と連携した防災教育の意義とその課題等）

（３）平成２７年度「防災教育」学校・地域連携事業指定校

区	学校名	区	学校名	区	学校名
北区	南浜小学校	江南区	曽野木小学校	西区	大野小学校
	太夫浜小学校		両川小学校		黒埼南小学校
	濁川小学校		東曽野木小学校		山田小学校
	南浜中学校		曽野木中学校		立仏小学校
	濁川中学校		両川中学校		黒埼中学校
東区	下山小学校	秋葉区	小須戸小学校	西蒲区	曽根小学校
	東中野山小学校		矢代田小学校		鎧郷小学校
	南中野山小学校		小須戸中学校		升潟小学校
	東石山中学校	南区	小林小学校		西川中学校
	下山中学校		白根小学校		
中央区	浜浦小学校		白根第一中学校		
	関屋小学校				
	有明台小学校				
	関屋中学校				

計３４校

２．平成 27 年度指定校における防災教育

１）新潟市立南浜中学校区（北区）

対象校：南浜中学校、南浜小学校、太夫浜小学校

①　中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第 1 回	平成 27 年 6 月 30 日 15：30～16：30 会場：南浜中学校	・今年度の各校における防災教育について（意見交換） ・南浜中学校の年間カリキュラムに基づいた進捗について（情報共有）
第 2 回	平成 27 年 8 月 3 日 10：00～11：30 会場：南浜中学校	・各校における防災教育実践の進捗について（情報共有・意見交換）
第 3 回	平成 27 年 11 月 5 日 15：30～16：30 会場：南浜中学校	・各校における防災教育実践の進捗について（情報共有・意見交換） ・地域での防災訓練、学校で行われた避難訓練等を実施した際の内容について（情報共有） ・今後のコンソーシアムへの要望について

②　各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
南浜中学校	平成 27 年 7 月 22 日	参観	【学習内容】南浜中学校での地区集会（地区ごとに分かれ、自治会役員と生徒が避難所の対応について話し合うワークショップ）を見学 ※NST 報道取材あり
太夫浜小学校	平成 27 年 8 月 31 日	電話相談 資料提供	9/7 の参観日（避難訓練＋引き渡し訓練）に関する相談を受け、保護者への配布資料を提供した。
太夫浜小学校	平成 27 年 9 月 7 日	参観	参観日に合わせて行われた避難訓練＋引き渡し訓練を見学。子どもたちを通して各家庭へ書類を配布し、親子で集合場所や連絡手段について確認するよう、担当職員へ促す。
太夫浜小学校	平成 27 年 10 月 13 日	資料提供	10/18 の地域総合防災訓練時に使用する DVD の貸し出し（青少年赤十字プログラム）
南浜小学校	平成 27 年 11 月 17 日	参観	避難訓練＋引き渡し訓練を見学。低・中・高学年毎に防災訓練への臨み方を伝えたが、ポイントとなるのは自助。次年度は高学年中心に防災を考え、自校化を目指したいとのこと。

【6/30 第 1 回中学校区 MTG の記録】



【7/22 南浜中学校　地区集会の様子】



【9/7 太夫浜小学校　避難訓練の様子】



【9/7　太夫浜小学校　引き渡し訓練の様子】



学校名：新潟市立南浜中学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	○　長岡平野西縁断層帯、新津断層、月岡断層いずれの地震においても震度5強～6弱と推測されている。新潟地震において建物の倒壊等の被害は少なかった。 ○　東港埋立地付近は液状化危険度が高い。 ○　海岸から標高が14m以上となったところに住宅が集中している。第１次避難所である島見公園や旧埋蔵文化財センターはもっとも標高が高い地域にある。そこからやや標高が下がり、南浜中学校は標高9.0mに立地している。太夫浜小学校区陽光団地付近は、6～8mとやや低い。 ○　付近に大きな川はなく、洪水の危険は少ない。 ○　学区内に土砂崩れ警戒区域がある。南浜小学校付近はイエローゾーン、太夫浜集落開発センター付近はレッドゾーンに指定されている。
保護者・地域・教職員等の願い	○　地域は高齢者率が高く、災害時には自力で、あるいは近隣で助け合って避難していかなければならないという意識が高い。そのため、足腰を鍛える「ロコモ体操」や日頃からの交流を大切にしている。同時に、中学生にも地域のために力を発揮してもらいたいという思いがある。 ○　保護者アンケートでは、「地震」「津波」「台風」「突風・竜巻」の順に警戒の意識が高い。
防災教育において、目指す児童生徒像	○　地域の実態をよく理解し、災害時には自助・共助のできる生徒。 ○　日頃から地域との関わりを深くもち、地域に貢献しようとする生徒。
補助交付期間に実施した主な取組	○　防災地区別集会 ・　自治会関係者と生徒との顔合わせ ・　防災マップをもとにした地域の実態についての理解 ・　避難所運営についての協議 ○　地域自主防災訓練への参加 ・　AEDを使った救命訓練、応急手当訓練、炊き出し訓練、安否確認訓練、濃煙体験消火訓練、など ○　防災講話の実施 ・　地域住民から新潟地震について ・　行政担当者から地域のハザードについて ・　防災士から自助と共助について ○　避難訓練の実施 ・　地域の方の見守り、講評
自校プランの内容	○　夏休み前の地区集会への自治会関係者の参加要請、防災についての生徒との意見交流 ○　地域自主防災訓練への参加、事前打ち合わせの充実 ○　避難訓練の充実 ○　高齢化に対応した認知症サポーター養成講座の実施
自校プランを継続するための方策	○　地域教育コーディネーターを要に、日頃から地域との連携をいっそう深めていく。地域の方に学校にきていただく機会を増やすとともに、生徒が地域に貢献する活動を充実させる。 ○　自主防災訓練への参加を一つの頂点として、年度当初に総合学習の時間における防災教育の位置付けを確立する。

2．新潟市立南浜中学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年			避難訓練・講話（地震・津波想定）（1時間）	地区ごとの防災集会（生徒＋地域）（1時間）		認知症サポーター養成講座（2時間）	地域自主防災訓練への参加（3時間）	避難訓練（火災）・学級指導（県ワークシート活用）（1時間）				
第2学年		国語「やさしい日本語」（3時間） 社会「自然災害と防災」（1時間）	社会「土砂崩れと水害」（1時間）						保体「自然災害による傷害の防止」（1時間）			社会「利雪と克雪」（1時間）
第3学年												

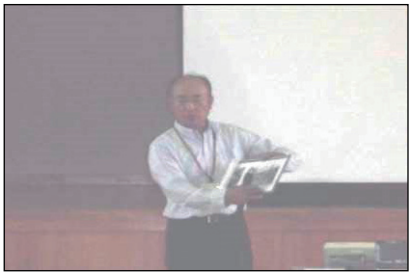
３．新潟市立南浜中学校　防災教育指導例

中学校全学年（第3回　60分）	（学習のねらい）**「防災マップをもとに地域の実態を理解し、災害時に自分たちができることを考える」**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	**１　生徒と自治会役員との顔合わせ** ○　地区ごとに分かれ、自己紹介する。 **２　「地域の地形・気候の特色と災害」について理解する。** **「一次・二次避難場所」を確認する。** ○　自治会役員から、地震・洪水・土砂崩れ等の危険箇所について聴く ○　避難場所を確認する。	○　司会進行は生徒が行う。 ○　この段階では、「自助」に焦点を当てる。 ○　土砂災害警戒区域については、特にしっかりと場所を理解させる。 ○　一次・二次避難場所があることに注意する。
【展開】	**３　「防災マップによる要支援者」について理解する** ○　避難時に支援を要する高齢者や障がい者が近隣にいることを理解し、積極的に支援しようという意識を高める。 **４　「避難所が開設されたときにできること」を考える** ○　学年縦割りで４～５名のグループを作り、自治会役員の方が話し合いに加わる。 ○　ファシリテーションの手法を用いる。	○　自助から共助へと視点を転換し、考えを深める。 ○　防災マップは個人情報が含まれているので、自治会役員の判断で開示の範囲を決めてもらう。 ○　手順として ①　避難所で避難生活を送るとき、自分は何が一番心配か。＜個人作業＞ ②　話し合いと仕分け作業＜グループ＞ ③　自分が困ることはほかの人も困ること、ましてや高齢者や障がい者の方はもっと困るはず。中学生ができる手助けはないか、考えよう。＜個人作業＞ ④　意見を出し合う。＜グループ＞ ○　避難所がイメージできるように前時で VTR 等を見せ、校舎の「部屋割り図」を提示しておく。
【まとめ】	**５　学習してわかったことを確認する** ○　グループごとに発表したあと、個人で感想を発表する。	○　生徒・自治会役員とで共有し合う。

【評価】	・　防災マップを見て、中学生が地域の高齢者から頼られる存在であることに気づき、自分にできる手助けをしようという気持ちをもつことができたか。 ・　グループワークで積極的に意見を出すことができたか。また、ほかの人の意見に耳を傾け、よりよい意見に昇華させようとする意欲が見られたか。 ・　秋の地域自主防災訓練に向けて、意識を高めることができたか。

【授業実践の様子】



１回目　新潟地震の体験談



２回目　防災士の講話と
地区集会



３回目　地域の方を交えて
防災地区集会

【板書例】（写真等　※黒板を使用していない場合は、スライド資料等を掲載）



学校名：新潟市立南浜小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	海に近いながらも海抜１６．５Ｍと高台に位置する。祖父母との同居世帯が多いが，学童保育に通う児童が２０名近くいる。 緊急時には地域の避難所として指定されている。有事の際は，島見地区・太郎代地区（旧太郎代小校区）と２つの地域に避難することになるため，それぞれへの対応が必要である。校舎とグラウンドとの高低差により，土砂災害時には避難所の指定は受けない（体育館へ避難することで安全確保可）。
保護者・地域・教職員等の願い	実際に学校にいる時間帯は年間を通して２割程度にすぎず，実は学校外での避難の仕方やそのための備えが大切であることへの意識が弱い。「自分の命は自分で守る」ことの真の意味を理解し，子どもたちが主体的に行動できる力を育てたい。 地域防災訓練は隣接する太夫浜小地域と当地域隔年で実施されている。しかし，参加は各家庭の判断に任されている。当校が避難所となることも踏まえると地域との連携の必要性があり，連携の在り方を協議していく必要がある。
防災教育において、目指す児童生徒像	人頼みではなく，自分事として主体的に考えたり行動したりして，「自分の命は自分で守る」ことができる児童。家庭においても，率先して防災の発信者となる児童。
補助交付期間に実施した主な取組	・避難訓練【4月火災・6月地震・9月不審者・1月休憩時ベル訓練】，避難訓練【地震】に続いた引渡訓練（11月） ・理科の学習と「北区あんしんガイドブック」と関連させた新潟県防災教育プログラムの実施（５年：洪水災害編，地震災害編　６年：地震災害編）と非常食試食体験 ・地域防災への取組についての話を聞く会（１月実施予定）
自校プランの内容	引渡訓練に向け，混乱なく引渡しができるための「緊急災害カード」内容の検討，引渡対象者への理解，引渡方法（場の設定），緊張感のある訓練内容を検討・実施した。 避難と備えに対して児童が主体的に考えたり行動したりする姿の育成のため，高学年理科学習（５年「流れる水のはたらき」６年「大地のつくりと変化」）の発展として新潟県防災教育プログラムを位置付けた。その際，「北区あんしんガイドブック」を補助資料として取り上げることにより，自分たちの住む地域への着目を図り，児童が学校で過ごす時間帯は２割程度にしか過ぎないこととつなげながら，我が家の備え・我が家の約束を考えさせた。ガイドブックに記載されたものそのままでなく，他に必要なものはないか，自分の心配事が解決されるためには家族とどのような話合いをしたらよいのかといった「児童が考えたポイント」を盛り込み，「決めておこう！我が家の約束（南浜小版）」を手がかりに各家庭での取組を推奨した。
自校プランを継続するための方策	・引渡訓練を核とした各避難訓練の見直しと年間計画の見直し。 ・学校の避難訓練で安心している子どもたちに，「学校外の場所で災害が起こったら」という意識をもたせ，必要な備えについて考えさせる。非常食や緊急避難セットを提示したり試食させたりすることで，より具体的にイメージをもたせる。また，避難所開設用備品を紹介し，行政が備えている内容も参考にさせて考えさせていく。 ・地域防災訓練が近隣地域と隔年実施で参加に難しさがあるため，地域防災委員長から話を聞く会を設定する。 ・町内子ども会で「地域・通学路の安全と危険」について取り上げていく。

2．新潟市立南浜小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	避難訓練（火災）		避難訓練（地震）			避難訓練・子ども体験型安全教室		避難・引渡訓練	我が家の約束	避難訓練		町内子ども会
第1学年	生活（学校たんけん・通学路確認）	生活（学校たんけん）：**必須－1**	学級活動（身の回りの災害）：**選択－1**	体育（着衣泳）		学級活動（不審者対応・子ども体験型安全教室）		学級活動（身の守り方）		学級活動（ベル訓練，放送の聞き方）	学級活動（雪道の歩き方）	
第2学年	生活（町探検・通学路）	生活（町探検）：**選択－1**	学級活動（地震・津波）：**必須－1**	体育（着衣泳）		学級活動（不審者対応・子ども体験型安全教室）		学級活動（身の守り方・家への避難）	学級活動（雪道の歩き方）	学級活動（ベル訓練，放送の聞き方）		
第3学年	社会（わたしたちのまち） 学級活動	学級活動（津波）	学級活動（地震・津波）：**必須－2**	体育（着衣泳）		学級活動（不審者対応）		学級活動（身の守り方・家への避難）	社会（昔のくらし：ふるさと村県防災センター見学	学級活動（ベル訓練，放送の聞き方）	学習参観時・学級活動（どんな備えが必要か）	
第4学年	学活（災害時の正しい行動・おはしも）		学級活動（地震時の安全）	体育（着衣泳）		学級活動（不審者対応） 社会（災害から町を守るために） 総合（地域の特徴）：**必須－2**		学級活動（家への避難） 総合：**選択－2**	学級活動（冬期間の安全な過ごし方）	学級活動（ベル訓練，放送の聞き方）		
第5学年	社会（国土の地形や季候） 学活（災害時の正しい行動		学級活動（地震・津波・上級生としての自覚）	体育（着衣泳）		学級活動（不審者対応） 理科（台風とその被害）	理科（流れる水はたらき）：**洪水災害編選択－5**	学級活動（身の守り方・家への避難・集団下校）	学級活動（雪に対する備え）	学級活動（ベル訓練，放送の聞き方） 保体（けがの防止）		社会（自然災害の防止） リーダーとしての引継ぎ
第6学年	学活（災害時の正しい行動・おはしも） リーダーの役割		学級活動（地震・津波・上級生としての自覚）	体育（着衣泳）		学級活動（不審者対応）	理科（大地のつくりと変化）：**必須－3・選択－5**	学級活動（新潟地震に学ぶ（講演））	社会（私たちの暮らしを支える政治 学級活動（雪の災害	学級活動（ベル訓練，放送の聞き方）		学級活動（下級生への引継ぎ）

３．新潟市立南浜小学校　防災教育指導例

Ｂ－２・３ 小学校高学年 ※地－必須－5 対応 ※地一選択－2対応	（学習のねらい）**「地震などの災害に備えて，私たちが日頃から備えておくことの必要性を知る」** **・私たちが行う防災対策について知る**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	**１．南浜地区の地理的特徴や学校管理下以外の時間帯の多さについて知ることで，「自分のこととして避難について考えることの必要性」に着目させる。** ① 南浜地区（太郎代地区を含む）は標高値が高いことを確認すると共に，南浜小学校・旧埋蔵文化財センターが避難場所として設定されていることを示す。 **・我が家の避難場所はどこか確認しているか** **・避難施設に来れば１００％命が守られるということではないこと** をおさえる ② 児童が学校にいる時間帯は１年間のうちのどのくらいかを予想させ， **・学校にいる時間は，実は２割程度に過ぎないこと，いつ，どこで，どのような災害に遭遇するかわからないこと** **・学校外での避難の仕方を考えていくことが実は重要であること** をおさえる	【といかけの例】 ①資料「安心マップ　北区内の避難場所と標高値」から，私たちが住んでいる地域の特徴を考えてみましょう。 ②皆さんが学校で過ごす時間帯は１年間のうちのどのくらいでしょう。予想してみましょう。 【想定される答え】 ①・とても赤い色で示されている。標高が高い。 ・玄関に「ここは１６．５M」って貼られている。 ・川沿いとか豊栄に向かう方はとても青い色の地域があるけれど，僕たちの所は海沿いだけれど赤い色だ。 （９月の集団下校した例を示して理解を深める） ②・６時間目まである日は４時まで学校にいる。でも，土日や夏休みを考えると，実は少ないのではないか。 ・改めて聞かれると迷う。学校にいない時間帯のことは考えてみたことがない。 **【資料】 安心マップ　北区内の避難場所と標高値** **【ポイント】** ① 校舎とグラウンドとの段差や窓からの景色は高い位置にあることの証拠であるが，児童の意識は弱い。豊栄方面に向かって見下ろせることや資料から地域の情報を確認する。 ②「自分の命は自分で守る」という合言葉は定着しているが，学校管理下外で災害が起きた場合については，ほとんどの児童が想定すらしていない。また，太郎代地区は南浜小と距離があり，家に戻ることの困難さが生じること，実際には，独立した避難態勢を取ることになることにも目を向けさせる。
	２．いざというときに自分のこととして行動し，一人一人の命が守られるために必要な備えについて考える。 ① 誰かが導いてくれるという考え方ではなく，自分事としてどのような備えをしたらよいのかを話し合う。 ア 今現在，どんな準備をしているか，していないか。 （学校で避難訓練をしている安心感と自分で行動する不安感） イ具体的にはどんな心配事があるか。 ・家族が南浜地区以外にバラバラに避難する場合。 ・いざという時のための連絡先や方法	【といかけの例】 ・学校では，先生方が役割分担し，皆さんが安全に避難するための方法を話し合っています。では，学校外の時間で災害が起こった時の約束や備えはどうですか。 ・家の人がいないときに災害が起こったら，どのように行動しますか。 ウ「北区あんしんガイドブック」が各家庭に配付されています。実際に手に取ってみたことはありますか。 【想定される答え】 ・避難訓練を思い出して行動する。近くの大人の話を聞く。でも，心配がある。避難訓練はいろいろな意味が

【展開】	ウ どのような備えが必要なのか。 ・水，食料，ラジオ・・・・ 「**北区あんしんガイドブックに様々な情報があること**」を提示する。 **3．日頃から備えておくべきことについて資料を手がかりに話し合う。備えのポイントを知る。** ① いざというときに，ちゃんと避難するために，日頃からどんな準備をしておくべきかを考え，次の点をおさえる 1)「**すぐに避難できるように，非常持ち出し品を用意しておく**」 2)「**避難訓練を通じて，避難場所や避難経路を確認しておく**」 3)「**避難所に行かないことも考えられるので，最低３日分は自力でしのげる備えが必要と言われている。**」 4)「**家族構成によって必要な物が違う。具体的なイメージが大事。**	あると分かった。 ・ガイドブックのことを家の人に聞いてみよう。 **【資料】 北区安心ガイドブックｐ７「家庭でできる日頃の備え** 【といかけの例】 ・資料を手がかりになぜその備えが必要なのか考えてみましょう。 【想定される答え】 ・地震が起きたときには，その後に火事など違う災害も考えられる。持ち出し品を具体的に考えてみる。 避難場所の確認など，早速家族と話す必要がある。 ・地震が起きたら安全に逃げる道も考える必要がある。 ・カンパンなどの非常食を実際に食べてみたい。 スーパーで見たことがある。実際に食べてみたい。 **【資料】 新潟市北区役所ホームページ**
【まとめ】	**4．まとめ次時の確認** ① ワークシートに，「授業の感想」などを書かせて，発表させる ② 次時では，家族で話し合う内容や必要な備品の具体を考え合うことを確認する。	**ワークシート** **【ポイント】** ○ 「**ガイドブックに書いてあることだけではなくて，具体的にイメージして自分が必要だと思うことを考えていく。**」 ○**「自分だけの問題でなく家族と話し合うことが大切。」** ○ 「**自分たちが話合いや準備のリーダーなりたい。**」

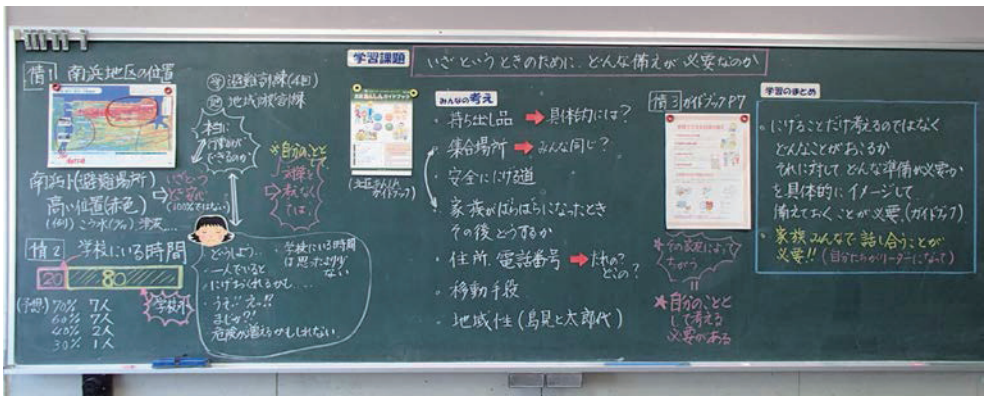
【評価】
・「安心マップ　北区内の避難場所と標高値」から地域の特徴や自己の避難場所を理解することができたか。
・いつ災害に遭遇するかわからないことや学校以外での時間帯では一人一人の主体的な行動が大事であること「自分の命は自分で守る」が意識できたか。
・非常用持ち出し品，避難方法を日頃から家族と話し合いながら準備・確認する必要性を理解することができたか。

【授業実践の様子】





【板書例】



学校名：新潟市立太夫浜小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	阿賀野川河口右岸から約3㎞の高台（標高15.7ｍ）に位置し、水田、スイカ等の作物を栽培する農家が点在する地域である。地震による液状化のしやすさレベルでは、60％以上の地域が液状化の可能性が低い「危険度２」（危険度4段階）である。当校は、地震の際に、避難所として指定されている。また、市教育委員会版「各学校班応急対策マニュアル」(平成26年11月版)では、土砂災害警戒による準3号配備の際、避難所となる可能性の高い学校として、指定されている。
保護者・地域・教職員等の願い	避難訓練は、年３回実施し、そのうち２回（6月,9月）は、地震及び火災を想定して行っている。中学校区としては、当校と隣接小学校とが隔年で、南浜地域防災訓練(10月)の会場となっており、本年は当校で行う予定である。ただ、地域防災訓練に参加するのは、自治会(町内会)の役員に限られていて、保護者や児童の参加は少ない。そこで、参加の奨励をするため、学校だより等で広報活動を行った。
防災教育において、目指す児童生徒像	自分たちの住む地域で地震等が起きたときに備え、安全に避難する方法を学校及び家庭と連携して、身につけるとともに、地域の防災訓練等に積極的に参加しようとする児童。
補助交付期間に実施した主な取組	・小中一斉避難訓練【火災】（6／16） ・避難訓練【地震】（9／7） ・保護者引渡し訓練（9／7） ・学年別で事前、事後指導として「新潟県防災教育プログラム」の必須学習項目【地震災害編及び津波災害編】を、各１単位時間(合計２単位時間)行う(9月)。 ・南浜地域総合防災訓練に参加するよう学校だより等で広報活動を行う(9月)。 ・保護者引渡し訓練前に、「みんなの避難ルール」を配布し、各家庭で①避難場所、②家族が集まる場所、③連絡方法等を話し合う。また、引渡し訓練後にその資料に関しての話し合いの有無を調査した。その結果、約20％の家庭で資料の読み合わせ、非常食、避難グッズの確認等の機会を設けていることが分かった。
自校プランの内容	・中学校区で、南浜地域防災訓練(10月)に向け、各学年で活動(社会、生活、学級活動等)を行う。たより等を使い、児童の参加・啓発活動を行う。また、地震を想定した避難訓練を実施する。保護者への引渡し訓練を行い、アンケートの実施により、保護者等の防災意識の調査・データ収集を行う。隣接の太夫浜保育園とも、避難訓練の実施日程の連絡・連携を行う。
自校プランを継続するための方策	・年度当初、学級活動で指導した。「新潟県防災教育プログラム」の必須学習項目【地震災害編】を、各１単位時間実施し、児童及び教職員の意識の高揚を図る。 ・南浜地区総合防災訓練担当者等と連携し避難訓練（年3回）を実施する。また、避難訓練実施後も家庭(地域)へのアンケート配布及び集計･反省を軸に次年度への実践につなげる。外部の専門家を要請し、指導を受ける。

２．新潟市立太夫浜小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
第１学年	学級活動「新潟県防災教育プログラム【地震編】活用　１時間	生活「あそびにいこうよ」１時間 通学路の安全な登校の仕方を学ぶ				学級活動「新潟県防災教育プログラム【津波編】活用　１時間	**南浜地区総合防災訓練**	生活「あそびにいこうよ」１時間 通学路の安全な登･下校の仕方を学ぶ				学級活動「休憩時の避難の仕方」１時間
第２学年		生活「わたしの町」１時間 通学路の危険箇所を確認する						生活「まちたんけん」１時間 通学路の危険箇所・安全な場所を確認する				
第３学年		社会「わたしたちの大好きなまち」１時間 通学路の危険箇所・安全な場所を確認する						社会「わたしたちの大好きなまち」１時間 校区内の危険箇所・安全な場所を確認する				
第４学年		社会「火事を防ぎ、地震に備える」２時間 リトルファイヤースクールで避難やその対処を学ぶ						社会「昔から今へと続くまちづくり」１時間 亀田郷から洪水被害等を学ぶ				
第５学年		社会「自然災害とともに生きる」１時間 自然災害・災害発生に備える					保健「けがの防止」０.５時間 一人でいるときの行動、周りの人に助けを求める手段を練習する					
第６学年		学活「災害後の暮らし」１時間 地域防災訓練に備え、暮らしの変化とその対応について学ぶ			社会「身近な暮らしと政治」０.５時間 さまざまな災害と政治のつながりについて学ぶ。			家庭「冬を明るく暖かく」１時間 家具の固定･落下防止に備える。				

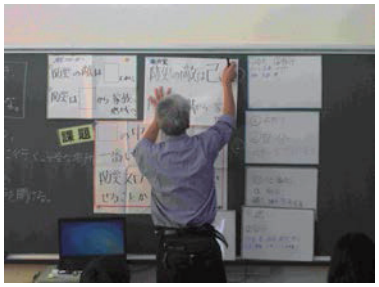
３．新潟市立太夫浜小学校　防災教育指導例

A－１ 小学校高学年 ※津－必須－６対応	（学習のねらい）**「津波から身を守るために、どのように行動すべきか考えるとともに、家族・地域の人々の命を守る行動について考える」** **・「みんなの避難ルール」について確認する。**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】８分	**１．自分一人でいるときに大地震が起こった時に、どのように行動したらいいか話し合う。** ① 地震・津波が起きたとき、どのように行動をしたらいいか出し合い、「**本当に一人で行動できるか**」を確認する。 ② 学習のねらい「**津波から身を守るために、私たちが日頃から備えておくべきことを知る**」をおさえる。	【といかけの例】 ・一人で家にいたとき地震や津波が起こったらどのように行動したらいいでしょうか？ 【想定される答え】 ・頭を守る。津波が来る前に高台に逃げる。お母さんの携帯に電話をする。 **【ポイント】** ○ 一人のとき、いざというときに勇気を持って行動できるように問いかける。
１０分	**２．ＶＴＲ「アニメで学ぶ”命を守るキズナ”」を視聴する（10 分間）。**	シンサイミライ学校**「アニメで学ぶ”命を守るキズナ”」** http://www.nhk.or.jp/sougou/bosai/?das_id=D0005180153_00000
【展開】２０分	**３．番組を見て、本時の課題を知る。** 防災スローガン ①防災の敵は□にあり ②防災は□から、家族へ、地域へ ○ 課題を読み、「**防災スローガン**」を作ろう。 1)**今まで、妹を迎えに行こうと思っていたけど、やめたほうがいいのかな**」 2)「**家の人は、どんなことを言うだろう。ぼく一人で逃げてもいいのかな**」 3)「**家の人の命も助かってほしい**」 **４．津波（地震）から自分や家族の命を守るために、家族とどのようなことを話し合ったらいいか考える。** 1)「**家族はすぐに避難できるように、どういう行動をするのかな**」 2)「**ビデオで家の人と相談していた女の子のように、避難場所や電話番号を確認しよう**」	【といかけの例】 ・「防災スローガン①、②」の□の中に入る一番の言葉を全員で考え、スローガンを完成させよう。 【想定される答え】 ・わからない　・自分・・・・？かな　・みんなでぴったりの言葉を考えるぞ！ ・ワークシートを配布する。 **ワークシート【スローガン】** **※東北地方の言い伝え【津波てんでんこ】について知る** 【学び合う】 ・時間内に全員のアイデアで□に言葉を入れて、スローガンを完成させることを確認する。 ・自分の考えと人の考えを紹介し、思い付きではなく、どうして、その言葉が□の中に入るのか、理由を説明しながらの交流活動とする。 ・２列以上のスローガンの提案が出されたときは、２例とも並記し採用する。 ワークシートにスローガンを記入する。

【まとめ】7分	**５．学習してわかったことをまとめる。** ① リード文「今まで」「前は」「今は」「今日のビデオを見て」を使ってまとめる。 ② 家に帰ってすること・授業の感想を書かせて、発表させる。	**ワークシート「まとめ」** **【ポイント】** ○ 「**みんなの避難ルール**」を配布し、家の人と話し合うように話をする。
【評価】	・自分の命、家族の命、地域の人々の命を守る最善の方法･行動について理解することができたか。 ・日ごろから家族と命を守るために話合いをしておく必要性があることを理解することができたか。	

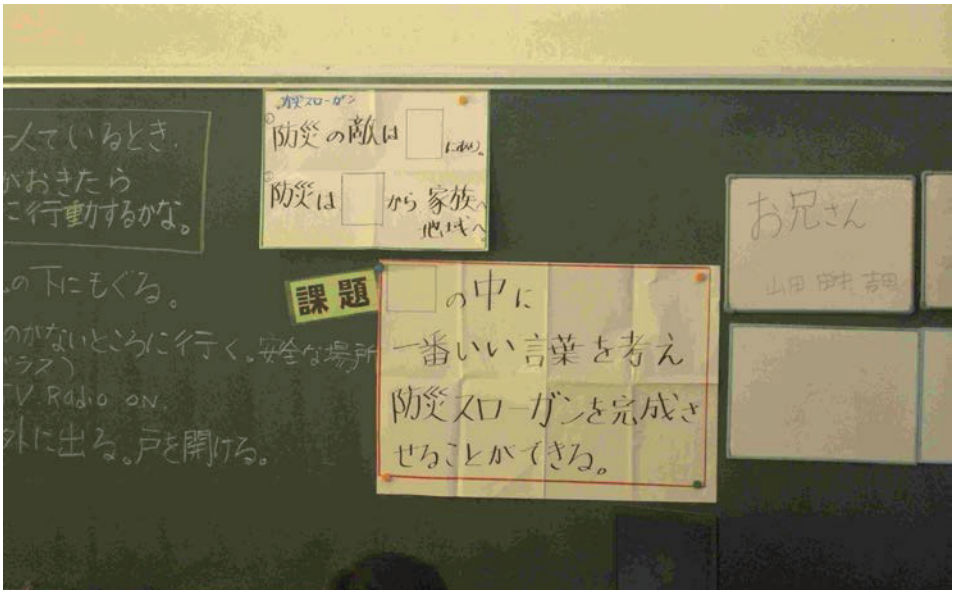
【授業実践の様子】







【板書】



２）新潟市立濁川中学校区（北区）

対象校：濁川小学校、濁川中学校

①　中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

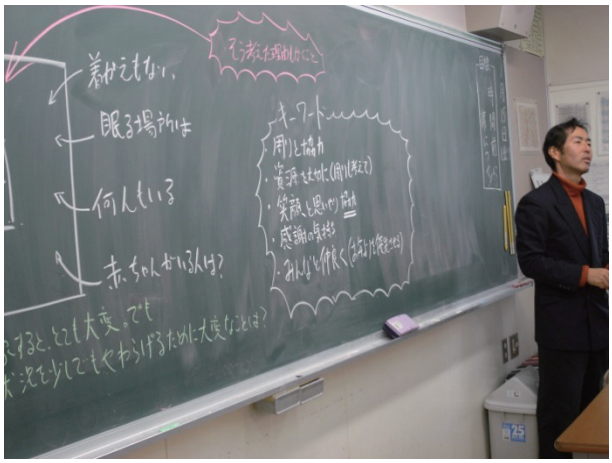
	実施日・会場	検討内容
第１回	平成 27 年 6 月 22 日 16：00～17：00 会場：濁川小学校	※　コンソーシアムスタッフ不参加 ・地域の特徴と起こりうる災害について（情報共有） ・今年度の取組方針やプログラムの内容について（情報共有）
第２回	平成 27 年 8 月 24 日 15：30～17：00 会場：濁川中学校	・各校のプログラム詳細について（意見交換） ・現状の地域との関係性について（情報共有・意見交換） ・地域と連携する意義、必要性について（意見交換）
第３回	平成 27 年 10 月 21 日 16：00～17：00 会場：濁川中学校	・各校における防災教育の実践事例紹介と次年度以降の方針について（情報共有・意見交換） 【濁川小】10/18（日）に地域総合防災訓練に参加。スリッパや雨合羽づくりを実施。危険箇所確認も行ったので、その後の学びの成果として、防災 MAP 作成も実施すればよかった。次年度は引き渡し訓練時に家族で防災について話し合う機会を設けたり、家庭科でパッククッキングなども取り入れてみたい。 【濁川中】9/17（木）に避難訓練を行った。今後は地域連携として、被災時に地域で起こりうる困りごとを洗い出し、避難所で自分たちにできることを考えるワークを実施予定

②　各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
濁川中学校	平成 27 年 6 月 24 日	打ち合わせ	避難訓練の工夫による防災教育の実施方法について話し合った。
濁川中学校	平成 27 年 7 月 31 日	打ち合わせ	具体的な実施例とし南浜中学校の事例を紹介した。 地域の方に講話をお願いするなど、具体的な地域連携を考えて貰えると取組が継続しやすくなることや、既存教科の中で自然災害や過去の歴史から見た教訓などを交え防災教育につなげることを提案した。
濁川中学校	平成 27 年 8 月 3 日	資料提供	南浜中学校の自治会生徒会において、地域連携の当日プログラムを提供した。
濁川小学校	平成 27 年 8 月 28 日	資料提供	第 2 回ミーティングで提示した身近なもので作る防災グッズのつくり方、他校で関谷が使用したパワーポイントデータを提供した。
濁川小学校	平成 27 年 10 月 22 日	資料提供	災害食をテーマとした学習指導案、サバイバルクッキングを活用したレシピ集を提供した。

濁川中学校	平成 27 年 12 月 28 日	打ち合わせ	学習プログラム内容や進行について話し合った。参考になる教材データを提供した。
濁川中学校	平成 27 年 1 月 15 日	参観	全校の生徒を対象に、避難所生活になったことをイメージし、生徒に自分たちにできそうなことを考えさせた。模造紙での KJ 法やワールドカフェを用いて意見を共有し、地域の方からいただいたメッセージ「中学生へ期待すること」を配布した。

【1/15 濁川中学校での授業の様子】









学校名：新潟市立濁川中学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・校区には現在改修途上の阿賀野川が隣接しており、また本校は海から約５ｋｍの地点に位置しているため、地震や洪水だけでなく津波の被害も想定しなければならない。 ・本校は一小一中の中学校であり、小学生時代の防災教育は同じ内容で学習済みである。小学校の防災の授業では防災グッズを作成するなど、体験を通した学習を行っている。
保護者・地域・教職員等の願い	・生徒は登下校中に地域の見守り隊の方々から挨拶をかけてもらっている。しかし中学生の方から進んで挨拶をしている姿はまだあまり多くない。災害時に大切な「地域との緊密な連携」を実現させるために、地域の方との挨拶を充実していきたいと考える。 ・中学生には、地域の構成員としての自覚を持ち、さらに自分は地域にどんな貢献ができるか真剣に考えてもらいたい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・地域の担い手としての自覚を持ち、積極的・主体的に地域防災に貢献しようとする生徒。 ・地域にはさまざまな方が住んでいることに気付き、自分たちにできることを考え、行動できる生徒。
補助交付期間に実施した主な取組	・避難訓練を行う前に、新潟県防災教育プログラムをもとに防災教育を行った。 ・学校が避難場所になったとき、自分たちに何ができるか、ファシリテーション形式で話し合い活動を行った。
自校プランの内容	・避難所の実態を知り、避難所で自分たちにできることについての認識を深めさせる。 ・「避難所のあり方」や「避難所における中学生の役割」について話し合う。
自校プランを継続するための方策	・避難訓練前の防災教育と、避難訓練後の避難所における中学生の役割を総合学習、または学活動の時間に位置づけ、毎年継続して行うものとする。 ・実施後は反省会を行い、翌年度への実践につなげる。

２．新潟市立濁川中学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画



３．新潟市立濁川中学校　防災教育指導例

第２回 中学生 １時間	（学習のねらい） **〇地域と共に、中学生の避難所における役割を考える。**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】25分間	**１．避難場所での状況を知る** ①避難訓練後のアンケート「中学校が避難所になった場合に、心配なことや不安なことは」の内容を紹介する。 ②「避難所」「共助」のイメージをつかませる。	【ポイント】 ・地域連携の大切さを訴える。 **【資料ＤＶＤ】** **防災教材「**お年寄り・障害のある人を守る　防火防災対策（２１分)**」より**
【展開】25分間	**２．ファシリテーション** ①設問（２問） 1)避難所で自分たちにできること 2)友達に譲ってもらった避難所の空きスペースは、自分の家族に使わせるか、避難所内の高齢者に使っていただくか。 ②グループ毎に発表し合う。 ③中越地震や東日本大震災で活躍した中高生の事例紹介。	**【事前準備】** **模造紙、付箋、ペン。** 【ポイント】 ・避難所についての概要を説明する。実際に避難所でどんなことに困りそうなのか、どうしたら手助けできそうなのか、過去の災害では中学生がどんな行動をとったのかなどの事例を聞いてもらい、地域から期待されている存在であることを認識させる（自己有用感、自己肯定感の醸成）。
【まとめ】	**４．他のグループの意見を共有する** ①後日、発表に使った模造紙を学年の廊下に掲示する。 ②ワークシートに「授業の感想」「他のグループの意見を見た感想」を書かせる。 ③学年便りや学年朝会等で、感想を共有し合う。	【ポイント】 ・他学年の考えも共有できるようにする。
【評価】	・避難所のイメージをつかみ、避難所がどんな過酷な環境かを実感することができたか。 ・自分にできることをどこまで具体的に考えることができたか。 ・ファシリテーションの手法を使い、避難所における中学生の役割を真剣に話し合っていたか。 ・地域防災の必要性を認識し、地域に貢献しようとする意欲が高まったか。	

【授業の様子】



【板書計画】

自分で守ろう自分の命

学習課題１
避難所で自分たちにできることは何だろうか

学習課題２
友達に譲ってもらった避難所の空きスペースをどのように使うか

まとめ
避難所にはいろいろな人がいる
自分にできることをすることによって、自分も含め、避難所のみんなが助かる。
中学生は地域にとってかけがえのない存在

学校名：新潟市立濁川小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	学校の立地する海抜は 1.4ｍで，50 年前の新潟地震では隣接する濁川にも津波が遡上したことがある。昨年度の取組で防災に対する意識は児童も保護者も高まってきたところである。今後，その意識を継続できるようにしていくことが望まれる。 ※地域で起こりうる可能性の高い災害は地震，津波，洪水である。
保護者・地域・教職員等の願い	危険箇所や避難所の確認から，自分の身は自分で守ったり，互いに助け合ったりすることの大切さを理解し，実践できるようになってほしい。 みんなが助け合える仕組みをつくりたい。 安全な環境づくりを進めたい。
防災教育において、目指す児童生徒像	○自分の身は自分で守ることと互いに助け合うことの大切さがわかり，それを実践できる児童 ・自分の住む地域の災害時の危険箇所，避難場所を理解している児童 ・災害時，お互いに助け合い，必要なものを身近なもので工夫することができる児童
補助交付期間に実施した主な取組	以下２点についての地区子ども会ごとの活動 ①地域の危険箇所・避難場所，気をつけることについての話し合い活動 ②防災グッズ作り ・新聞スリッパ　・紙皿　・ゴミ袋雨合羽
自校プランの内容	・防災グッズをつくろう（１・２学年） ・私の住む町の危険箇所，避難場所マップを作ろう（３・４年） ・災害時の食事について考えよう（５・６年） ・地区子ども会を活用した必修項目についての学習 ・避難訓練の事前事後指導
自校プランを継続するための方策	無理なく継続実施していけるように以下２点に配慮してカリキュラムに位置づける。 ○１・２年生は図工や生活科など，３・４年生は社会や総合など，５・６年は家庭科や総合など，各教科と関連させる。 ○実践した資料を「防災学習ファイル」に綴り，それを見れば誰にでも実践できるようにしておく。 ○地区子ども会と避難訓練の事前事後指導の充実 日曜参観日の全校防災学習，防災教育プログラムの活用

２．新潟市立濁川小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
第１学年	地区子ども会①　【地震編】活用		学活　避難訓練事前指導　【地震編】活用		地区子ども会③　【洪水編】活用		全校防災学習　【地震編・津波編】活用	生活科　ふゆのあそび 【雪害編】活用　１時間		地区子ども会④　【雪害編】活用　冬の通学路に潜む危険	図工　何になるかな 防災グッズ作り　１時間	地区子ども会⑤　【土砂災害編】活用
第２学年											生活　つくってあそぼう 防災グッズ作り　１時間	
第３学年			社会　わたしたちの大好きなまち 地域にある危険な場所はどこ１時間									
第４学年				社会　安全なくらしとまちづくり 防災マップを作ろう　１時間								
第５学年								家庭科　食べて元気！ごはんとみそ汁 災害時の食事について考えよう１時間				
第６学年								家庭科　まかせてね今日の食事 災害時の食事をつくろう　２時間				

3．新潟市立濁川小学校　防災教育指導例

A－1 小学校全学年 ※地-必-1～3対応	（学習のねらい） ・災害時における，地域や通学路の様子を想像し，気をつけることがわかるようにする。 ・避難所でのイメージを持ち，必要なものを工夫して作成できるようにする。

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	全校児童対象 １つめの学習のねらいを伝える。 学校にいないときに地震が起きたら，どんなことに気をつければよいか。 〇家や近所で遊んでいるとき，地震が起きたらどうなるか予想する。 〇写真を見ながら自分の住む地域に同じようなところがないか確認する。 →地区子ども会ごとに話し合ってみよう。 ２つめの学習のねらいを伝える。 災害が起きたらどんなものが必要か。 〇避難所で足りなくなるものがないか予想する。 〇身近にあるもので代用することができることを確認する。→地区子ども会ごとに作成してみよう。	場所：体育館 PPT でめあてを示す。 ２～３名に発言してもらう。 PPT【災害時の危険箇所の写真】 PPT でめあて２を示す。 PPT【避難所の写真】 ２~３名に発言してもらう。 PPT【新聞スリッパ】【紙食器・紙皿】【ビニル雨合羽】
【展開】	地区子ども会ごとの活動 〇災害時の地域の危険箇所・避難場所・気をつけることについて話し合う。 話し合い活動を危険箇所チェックリストに書き込んでいく。 ・倒れそうなものはないか。 ・津波の危険はないか。 ・倒壊しそうな建物はないか。 ・みんなで集まれる広い場所や高い場所はないか。 ・気をつけなければいけないことはないか。 〇防災グッズを作る。 ・新聞スリッパ ・ゴミ袋雨合羽 ・紙皿	各子ども会教室 チェックリストには子ども会の班長が書き込んでいく。 地域の方にも話し合い活動に参加していただく。 作り方説明書 用具（はさみ，マジック，新聞紙，ゴミ袋） 導入時の身近なもので代用する必要性について確認してから作業に入る。 担当教師のほか，地域の方にも一緒に作業をしていただく。

【まとめ】	○災害時の自助・共助の大切さについて確認する。 ・危険箇所や避難所の確認から，自分の身は自分で守ることが大切。 ・みんなが助け合える仕組みをつくりたい。 ・安全な環境づくりを進めたい。 ○身近なもので工夫することの重要性を確認する。 ・災害時は想定外の連続であり，必要なものが近くにない場合もある。 ・避難所などでは物が不足する場合もある。 ・身近なもので急場をしのいだり，応急措置をとらなければならなかったりすることも多い。	チェックリストを活用する。
【評価】	学校にいないときに地震が起きたら，どんなことに気をつければよいかを理解できたか。 災害が起きたらどんなものが必要かがわかり，それらを身近なもので作れたか。	

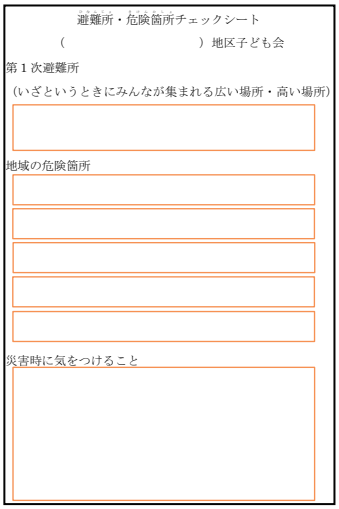
【授業実践の様子】







【板書例】（写真等　※黒板を使用していない場合は、スライド資料等を掲載）


避難所・危険箇所チェックシート

（　　）地区子ども会

第１次避難所

（いざというときにみんなが集まれる広い場所・高い場所）

地域の危険箇所

災害時に気をつけること

地区子ども会ごとに
話し合って
かくにんしましょう！

たくさんの人が
ひなんしてきたら
たりなくなるものはないかな



３）新潟市立東石山中学校区（東区）

対象校：東石山中学校、東中野山小学校、南中野山小学校

①　中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第１回	平成 27 年 7 月 3 日 16：00～17：30 会場：東石山中学校	・今年度の各校における防災教育について（情報共有・意見交換） 【東中野山小・南中野山小】 昨年の南中野山小の活動をベースに内容を検討する。 【東石山中】 1 コマ（50 分）で地域の人を参画させたプログラムを検討していく。
第２回	平成 27 年 8 月 21 日 10：30～12：00 会場：東石山中学校	・各校における防災教育の進捗状況について（情報共有・意見交換） 【東中野山小・南中野山小】 学校が作成したプログラム案を事務局で修正し、活動内容を検討していく。 【東石山中】 DVD「釜石の奇跡」の一部を見せ、ワークショップを行う予定。
第３回	平成 27 年 11 月 24 日 16：00～17：00 会場：東石山中学校	・各校における防災教育の進捗状況について（情報共有・意見交換） 【東石山中】9/16 に 1 コマを使って、DVD を視聴後、避難所の見取り図を見ながら、自分たちにできることを考えるグループワークを実施した。次年度はお年寄りの見守り活動と関連させて防災学習を定着させていきたい。 【東中野山小】地域の語り部さん（新潟地震体験者）からお話を聞く時間を設ける。その後、地域の防災倉庫を調べ、防災グッズチェックリストの作成を予定。 【南中野山小】先日 4 人の被災体験者や東区の担当者から話を聞いた。次回は地域巡検をしてマップを作成。完成したマップは、地域に配布し、12 月の町内子ども会で他の学年に発表をする予定。

②　各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
東石山中学校	平成 27 年 9 月 16 日	参観	DVD「釜石の奇跡」を一部視聴した後、避難所の見取り図を紹介し、中学生が自分たちにできることを考え発表した。地域の人からは震災時の被災体験などをお話しいただいた。
南中野山小学校	平成 27 年 10 月 4 日	サポート・資料提供	山の下小学校（東区）での防災マップ作り講座を見ていただき、学習実施の参考としていただいた。講座で使用したパワーポイントデータを送付した。
南中野山小学校	平成 27 年 10 月 16 日	参観	自助をテーマに学習を実施。４名の新潟地震体験者から被災体験を語って貰った。東区役所担当者より過去の災害を踏まえ地域で起こりそうな災害の説明を聞いた。
南中野山小学校	平成 27 年 10 月 28 日	参観	10/16 の被災体験談や東区安心安全係の話を受けて、地域に地震が起こったらどんな被災を受けるのかイメージし、どこが危険になるのかを確認しながら、地域の方々と一緒に地域巡検をしてもらった。
南中野山小学校	平成 27 年 10 月 30 日	参観	10/28 地域巡検時に撮影した写真をマップに貼り、防災マップを作成した。
東中野山小学校	平成 27 年 12 月 4 日	参観	地域の語り部（ご夫婦）に新潟地震を体験したお話しと、奥様の実家の陸前高田市での津波の様子をお話しいただいた。

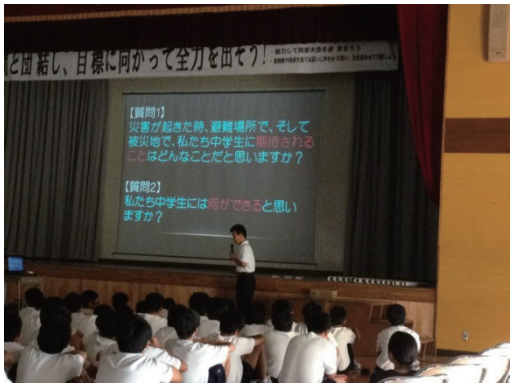
【7/3 第１回中学校区 MTG の記録】



【10/28 南中野山小学校　地域巡検の様子】



【9/16 東石山中学校　防災授業の様子】



【12/4 東中野山小学校　語り部講話を聴く授業の様子】



学校名：新潟市立東石山中学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	当校の校区には、東中野山小学校、南中野山小学校の２つの小学校があり、３校の児童生徒数は合計１，５００名前後となっている。校区内には市営住宅団地をはじめとして、マンション・アパートなどの集合住宅も多く、自治会によっては地域のつながりも希薄な地区もある。また、それゆえ地域の防災訓練等への取り組みなども自治会によってまちまちである。 ※東石山中学校区は阿賀野川、信濃川、鳥屋野潟からの距離も近く、海抜も校区全体がほぼ１ｍ未満の地区である。また、３つの小中学校は、農業用水路に沿うように建っており、河川の氾濫が起きた際には、甚大な被害が予想される。
保護者・地域・教員等の願い	当校及び２つの小学校は避難所にも指定されており、災害発生時は生徒自身も避難者の一人としていずれかの学校に避難することになる。その場合、一避難者として支援を受けるだけでなく、避難所のスタッフと共に、高齢者や児童らといった避難者をサポートする側にまわって活躍できる生徒になってほしいという願いを持っている。そのためには、普段から生徒の生活する地域の独居老人宅を知るなど、つながりを密にしておくことなども重要になってくる。
防災教育において、目指す児童生徒像	・校区および活動場所の立地条件に応じた状況判断をし、危険から命を守る行動をとることができる能力を持つ生徒。 ・日常から地域住民との交流を持ち、災害発生時は自治会や避難所等で、“頼りになる戦力”として活躍できる生徒。
補助交付期間に実施した主な取組	・春季避難訓練（６月）…地震を想定した避難訓練 ・地域一斉防災訓練に向けたオリエンテーション（９月） ・実施日を統一した「地域一斉防災の日」をもうけ、３つの学校を会場にした防災訓練に全校体制で参加（１０月） ・秋季避難訓練（１１月）…火災を想定した避難訓練
自校プランの内容	○学校の活動を、地域と生徒の実態からレジリエンシー（精神的回復力）を身に付けさせるような教育課程で展開している。以下の内容は、レジリエンシーの観点を活かした計画に漸次直しているところである。 ・生徒会活動を核とした地域との連携の取り組みの実施 ・家庭や地域と連携した防災体制の充実 ・防災授業の実施 ・家庭や地域とともに取り組む防災訓練の実施 ・地域の自治会や消防団等による支援体制の構築に向けた交流及び情報交換の実施
自校プランを継続するための方策	・自治会、コミュニティー協議会、自主防災組織の防災担当者との連絡会議を持ち、地域との連携を密にする。 ・学校防災計画の見直しと改善 ・具体的な行動マニュアルの明確化 ・年度の防災の取り組みの振り返りと検証

２．新潟市立東石山中学校　年間指導計画

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
第１学年		救命講習 ・AED講習会 ・救急救命法受講	避難訓練（地震想定）			「地域一斉防災の日」の防災訓練参加に向けて	「地域一斉防災の日」防災訓練参加（登校日）	避難訓練（火災想定）				
第２学年		災害及び防災に関する知識 ・「災害の歴史」										
第３学年		災害及び防災に関する知識 ・「防災の知識」										
生徒会	○ＢＳ活動（ベストスクール活動）の取り組みとして、「地域独居老人見守り隊」を結成し、さまざまなサポートを行う活動を実施する。 →地域の独居老人を年間を通して見守りサポートすることにより、地域の絆の強化と災害発生時に忘れられがちな独居老人のスムーズな避難サポート等を目指す。 ＜考えられるサポート＞ ・声掛け運動 ・ゴミ出しサポート ・買い物サポート　　等											

３．東石山中学校　防災教育指導例

中学校全学年 ※洪－必須－5 対応	（学習のねらい） **・災害から命を守る工夫について知り、安全な行動の仕方ができるようにする。** **・地域の避難場所や防災設備について理解を深め、中学生として自分たちに何ができるか考え、実行しようとする姿勢を育てる。**

	学習内容（展開と写真）	資料や学習のポイント等
【導入】	**１．ＤＶＤ「釜石の奇跡」を視聴し、身近なところに災害があることを認識する。** ① ＤＶＤの感想を聞き、**「災害が身近なものであること」**をみんなで認識させる ② 鬼怒川の水害の写真や東石山中学校が避難所になったときの見取り図を見せながら**「災害が起こったときの避難所の様子」**をイメージさせる　写真Ｂ ※「東石山中学校の避難所見取り図」をステージ上のスクリーンに映写する	「釜石の奇跡」－ＮＨＫ・ＤＶＤ教材－約 20 分に編集 ～巨大津波から児童を守った岩手県・釜石市の「いのちの防災教育」に学ぶ！～ 【といかけの例】 ・災害が起こったら、東石山中学校が避難所になることを知っていましたか？ ・避難所になったときにどんな場所が必要になるか？ **【ポイント】** ○ 写真で災害時をイメージさせてから、避難所について設備や場所を生徒の声を生かしながら進める。
【展開】	**２．災害時の心構えと中学生としての貢献できることについて考える。** ① 災害が起きたときに、避難場所や被災地で、**「期待されること」**をおさえる ② ①で考えたことをもとに、**「私たちにできること」**を考えさせる　写真Ａ ＜カード記入の仕方＞　写真Ｃ ○年○組　　○○　○○ ・期待されることは、□□□□だと思います。 ・私たちにできることは、△△△△です。 **３．「いのちを守る大事なこと」３原則を確認する。** ① 想定にとらわれるな ② 最善をつくせ ③ 率先避難者たれ	【といかけの例】 ①災害が起きたときに、避難場所や被災地で、私たち中学生に期待されることは何だと思いますか? 【想定される答え】 ・わからない　　・歩けない人を避難させること 【といかけの例】 ②本当に災害になったとしたら、私たち中学生には、何ができるでしょうか？ 【想定される答え】 ・小学生やお年寄りに声をかけて、一緒に逃げる **【ポイント】** ○ カードを２枚ずつ配り、ピンクの紙には①、ブルーの紙には②の回答を記入させる。各学級で、それぞれのカードを模造紙に貼ったものを、廊下に掲示させる。 ○ パワーポイントの映像を観ることを通して、もう一度災害についての意識を高める。
【まとめ】	**４．地域からの期待の声を聞き、学習してわかったことを確認する。**　写真Ｄ ① ワークシートに、「授業の感想」などを書かせて、発表させる。ワークシートは集めて担任に提出させる	・参観いただいたコミュニティ協議会長からメッセージ「中学生に期待すること」を語っていただく。 **【ポイント】** ○ **「中学生は地域の貴重な力」**であることを確認する。

【評価】	・東石山中学校が避難所になっていることを自覚し、その設備等について理解を深められたか。 ・「中学生に期待されること」そして「私たちに何ができるか」を自分なりに考え、実行しようとする意識が生まれたか。

【授業実践の様子】

生徒のほとんどは東石山中学校が避難場所になっていることを知っていたが、どのように使われるかはイメージできていなかった。この授業の直前に、鬼怒川の堤防決壊にともなう災害があったばかりであり、この授業への参加態度は概ね意識が高かった。実際に災害が発生した場合、東石山中学校の各施設や教室・体育館等がどのように使用されるかを、避難所見取り図を画面に映しながら解説した。

生徒たちは、普段何気ない気持ちで使用している学校が、どのようになるのかを想像しながら聞き、意識を新たにしていた。また、出席いただいた両小学校区のコミュニティ協議会会長からの「中学生に期待すること」の話を聞き、“地域の貴重な戦力”としての自覚が芽生えている様子も見えた。

後日実施された「地域一斉防災訓練」へも、部活動の大会等の予定がなかった生徒のほぼすべて（全校生徒の８割以上）が参加し、自分の居住地区の学校に集まって、ＡＥＤの講習や簡易担架の作成訓練、消火体験、炊き出しや救援物資の配布の補助等、さまざまな経験をした。

今年度の取り組みはまだ完全なものではなかったが、これらの取り組みを元に、来年度以降さらに“地域の中で活躍する中学生”の姿を目指した防災教育の方向を定めていきたい。

写真Ａ



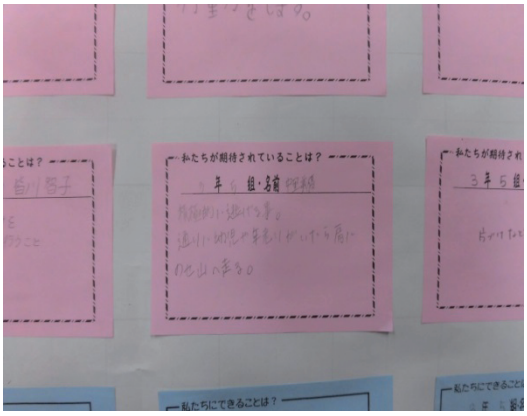
「私たちにできること」を考えた場面

写真Ｂ



中学校が避難所になることを知っていましたか？

写真Ｃ



掲示されたカードより

写真Ｄ



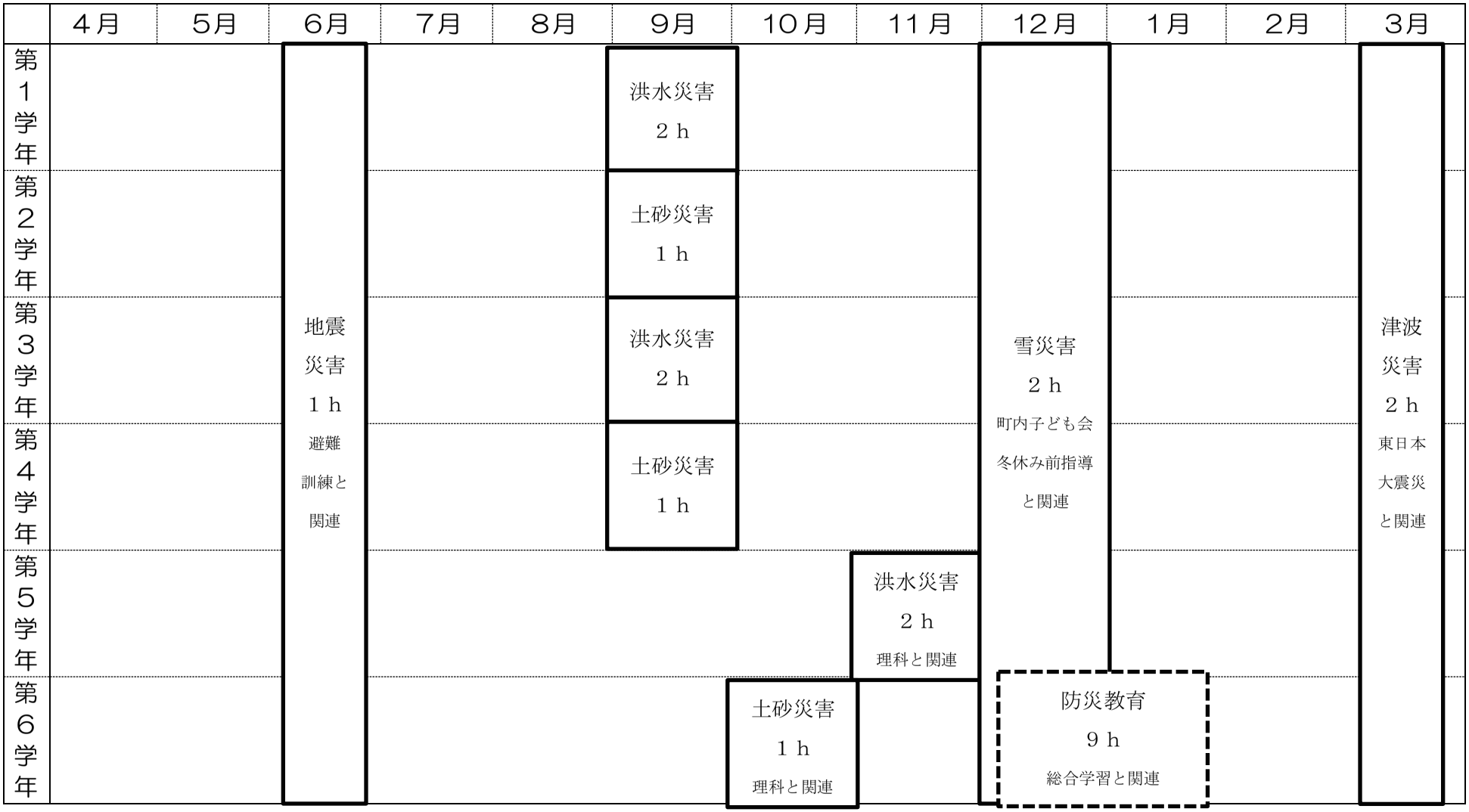
コミュニティ協議会長から「中学生に期待すること」

学校名：新潟市立東中野山小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	新潟市東区の南に位置し，田園地帯に隣接した新興住宅地と既存宅地に立地する学級数２４学級・全校児童数 592 名の学校である。昭和 50 年の創立（中野山小学校から分離）から 40 年目を迎えている。地域は協力的で，学校の活動や子どもたちの安心・安全な環境のために多くの支援をいただいている。地域で起こりうる可能性の高い災害は，地震である。また，地盤がゆるく水はけの悪い土地であるため，液状化，洪水なども危惧される。
保護者・地域・教職員等の願い	今年度の 6 年生の総合的な学習の時間のテーマは，キャリア教育である。 「キャリア×防災」の視点で「地域の防災について考え，社会の一員として生きていくこと」の大切さを学ぶプログラムとしたい。 また，地域住民から「子は宝」として，学校の教育活動や子どもたちの安心・安全な環境のために多くの支援をいただいている一方で，子どもたちから主体的に地域にかかわろうとする姿は少なかった。そこで，防災教育で学んだことを発信することを通して，主体的に地域にかかわっていく姿を期待する。
防災教育において、目指す児童生徒像	・ 災害を身近なものとして捉え，我がこと感をもち，主体的に身を守る行動をとることができる児童 ・ 自助や共助の大切さを知り，平常時から何が必要なのかを考え，自分にとって適切な備えができる児童 ・ 地域の中の自分の存在を意識し，自分のできることを考え，自ら進んで地域のために役立つ児童
補助交付期間に実施した主な取組	○ ゲストティーチャーの講演会 ○ 防災グッズの確認
自校プランの内容	○ 地震後の家や家の周りの状態について，写真で知ることを通して，揺れがおさまった後の危険と身の守り方を考える。 ○ 新潟地震・東日本大震災について，被災体験者から直接お話しを聞き，被害と生活インフラへの影響について知る。 ○ 地震への備えについて，地震災害の被害を防ぐための備えと安全に避難するための備えについて学ぶ。 ○ 震災の動画等により地震被害と備えの大切さについて改めて学び，地域のために自分ができることとして，一人一人が被害や備えについて調べ発信しようとする意欲をもつ。 ○ 各テーマに沿って調べる。 ○ 「地震で命を守るためにできること発表会（仮）」として，地域・保護者に向け発信する。
自校プランを継続するための方策	・ 地域教育コーディネーターの紹介で，新潟地震を経験した地域の方を講師として招く。 ・ 被害を少なくするためにできることを，児童それぞれがテーマを設け調べ活動を行う。 ・ 調べたことを，地域・保護者へ向けて発信する機会を設ける。

２．新潟市立東中野山小学校　年間指導計画

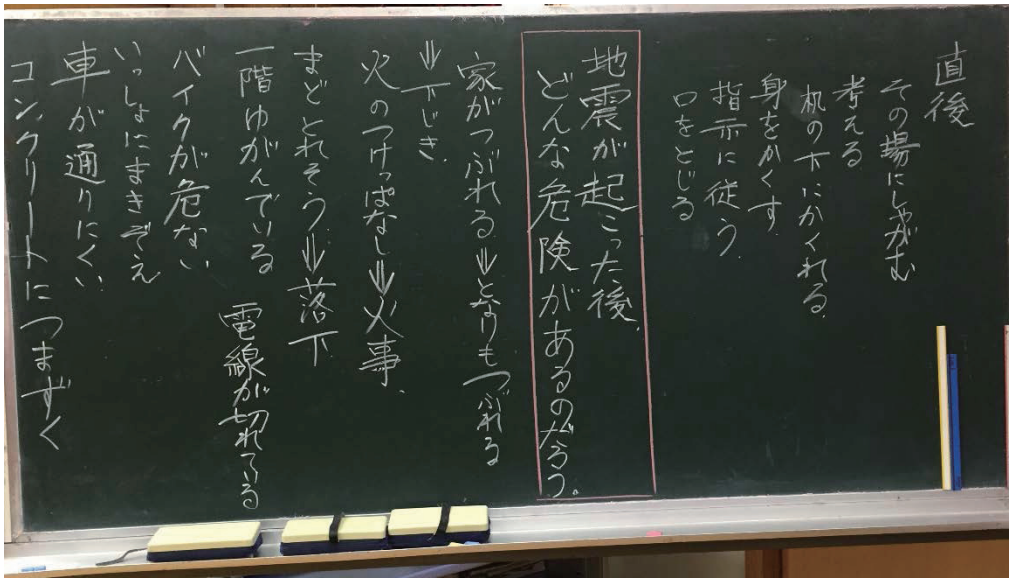


３．新潟市立東中野山小学校　防災教育指導例

A－１ 小学校高学年 ※地－選択－6対応	（学習のねらい）**新潟地震・東日本大震災について，被災体験者から直接お話しを聞き，被害と生活インフラへの影響について知る。**

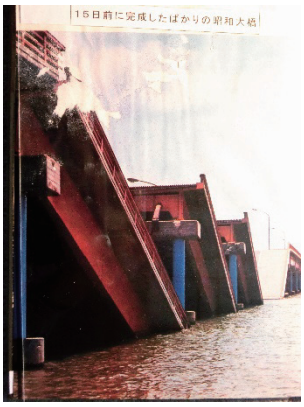
	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	**１．新潟地震の被災体験者から地震の被害と，その後の生活インフラへの影響について話していただくことを伝える。** ①　地震について日頃から備えていることを話す。 ②　新潟地震の被災体験者から地震の被害と，その後の様子について話していただくことを伝える。 **【学習課題】地震に対してどのような備えが大切なのだろう。**	■　想定される答え ・　非常持出袋を準備している。 ・　家族と緊急避難先を確認している。
【展開】	**２．地震の被災体験談を聞く。** ①　写真をスクリーンに映して話していただく。 （新潟地震） ・　陸橋は折れて，昭和大橋が落ちたこと。 ・　地面が隆起し道路や線路が大変なことになったこと。 ・　体験者が怖さや恐ろしさの記憶が薄れてしまっていることを自覚しているが，災害について備えることの大切さを伝えていかなければならないと感じていること。 ・　建物など，水に浸かってしまっているが飲み水の確保に苦労したこと。 ・　トイレが壊れたので，みんなで協力して作ったこと。 （東日本大震災） ・　生まれ故郷の岩手県陸前高田市では津波被害を受けたこと。 ・　防砂林の７万本の松がすべてなくなったこと。 **３．地震で大切な「備え」を話していただく。** **【まとめ】地震が起きたときのことを考え，常日頃からできることを考えて備えることが大切である。**	・スクリーンに出しながら，被災体験を語っていただく。 ・お話を聞いた後，感じたことを被災体験者に伝えることを通して，備えに対する必要性を共通理解していく。
【まとめ】	**４．お話を聞いて感じたこと，自分ができる備えについてワークシートにまとめる。** ・　次時には，どんな備えが必要なのかを考える時間と言うことを伝え，見通しをもたせる。	■　想定される答え 授業の初めは，地震の後のことなんて考えていなかったけれど，揺れがおさまった後も危険で，自分で身を守らなければいけないと思った。
【評価】	・　新潟地震の被災体験を聞いて，常日頃から備えることが大切であることに気付く。	

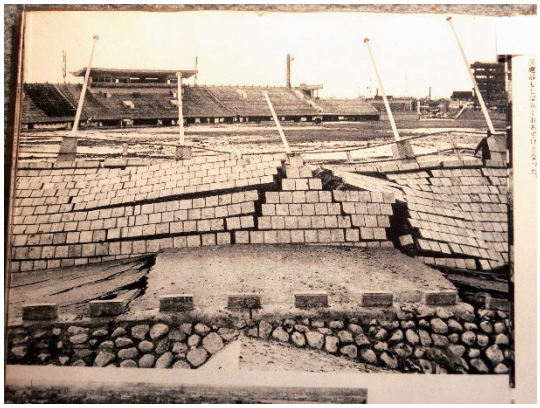
【授業実践の様子】


直後
その場にしゃがむ
考える
机の下にかくれる
身をかくす
指示に従う
口をとじる
地震が起こった後、
どんな危険があるのだろう。
家がつぶれる
ガラスもつぶれる
下じき
火のつけっぱなし
火事
まどとれそう
落下
一階ゆがんでいる
電線が切れている
バイクが危ない
いっしょにまきぞえ
車が通りにくい
コンクリートにつまずく



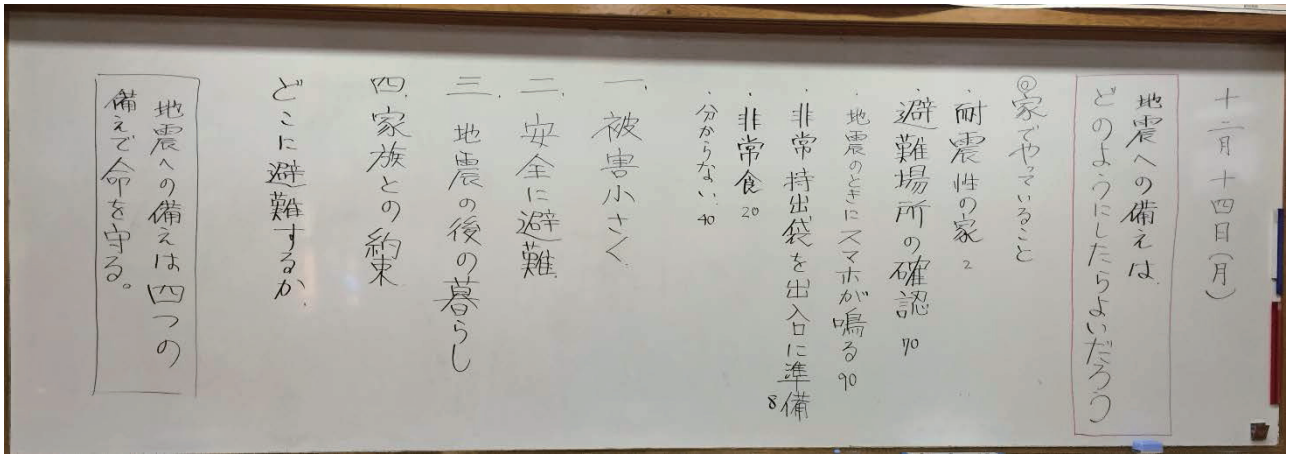

地震発生後の昭石製油所と昭和大橋


15日前に完成したばかりの昭和大橋






震災後の白山駅


十二月十四日(月)
地震への備えは
どのようにしたらよいだろう
◎家でやっていること
・耐震性の家 2
・避難場所の確認 10
・地震のときにスマホが鳴る 10
・非常持出袋を出入口に準備 8
・非常食 20
・分からない 40
一、被害小さく
二、安全に避難
三、地震の後の暮らし
四、家族との約束
どこに避難するか
地震への備えは四つの
備えで命を守る。

学校名：新潟市立南中野山小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	新潟市東区の南に位置し、田園地帯に隣接した新興住宅地に立地する学級数１８学級・全校児童数４４１名の学校である。 昭和５４年の創立（中野山小学校から分離）から３７年目を迎えている。 保護者や地域は協力的で、学校の教育活動や子どもたちの安心安全な環境のために多くの支援をいただいている。 地域で起こりうる可能性の高い災害は地震、津波である。また、地盤がゆるく水はけの悪い土地であるため、液状化、洪水なども危惧される。
保護者・地域・教職員等の願い	当校における避難訓練は、学校にいる時（授業中や休み時間）を想定して行っている。しかし、災害は子ども達が登下校している時や自分の家にいる時など、学校外で起こる可能性ももちろん考えられる。災害時、どこにいても自分の身を守れるように、その方法を学ばせていきたいと考える。
防災教育において、目指す児童生徒像	・災害を身近なものとして捉え、自分自身の問題と考えて、主体的に身を守る行動をとることができる児童 ・自助や共助の大切さを知り、平常時から何が大切なのかを考え、自分にとって適切な備えができる児童 ・地域の中の自分の存在を意識し、自分のできることを考え、自ら進んで地域のために役立つ児童
補助交付期間に実施した主な取組	・新潟地震の体験者の方から被災された時の様子についてお話を聞き、新潟地震の被害について知る。 ・区役所の方から南中野山小学校区の地域の特徴（地盤の高さや想定される災害などについて）について知り、日頃からの備えについて考える。 ・地域の方と一緒に災害時の避難ルートを考えたり、実際に町歩きをしながら、危険な場所や安全な場所を見つけたりする。 ・グループごとに町歩きをした時の避難ルートや気付いたことをマップに書きこんだり、撮影した写真を貼りつけたりして避難マップを作成する。
自校プランの内容	・年間１回、地域と合同で、地震・津波を想定した避難訓練を行う。その後、各自治会で集まり、地域の方より、防災倉庫や防災訓練などの話を聞いた後、集団下校を行う。
自校プランを継続するための方策	・地域との合同避難訓練を学校行事予定表に位置づけ、合わせて地域の方々に避難訓練への参加を要請し、協力していただく。

２．新潟市立南中野山小学校　年間指導計画

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
第１学年		防災教育プログラムを活用した授業（地震編）	防災教育プログラムを活用した授業（津波災害編）	地域合同避難訓練・集団下校訓練		防災教育プログラムを活用した授業（洪水災害編）	台風・雷・竜巻・集中豪雨・気象台の仕事・大雨・土砂災害の学習 NHK「学ぼう BOSAI」	防災教育プログラムを活用した授業（土砂災害編）		防災教育プログラムを活用した授業（雪災害編）		
第２学年							地震・火山噴火・津波の学習 NHK「学ぼう BOSAI」					
第３学年												
第４学年												
第５学年												
第６学年						ゲストティーチャーから地震の体験談や地震の備えについて聞く。（２時間）						
						避難マップの作成。（４時間）						

３．南中野山小学校　防災教育指導例

小学校高学年 ※洪－必須－5 対応	（学習のねらい）**「災害から身を守るための方法を学ぶ」** **地域ごとに避難マップを作成する。**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	**１．避難マップの作成の仕方について理解する。** ① 前時の町歩きを想起しながら、メモしてきたことや撮った写真をもとにマップ作りの仕方を確認する。	教師がパワーポイントを使用し、作成方法を説明。 ・家から避難所までの経路をペンでなぞる。 ・家に青色のシール、避難所に緑色のシール、危険な場所に赤色のシール、安全な場所に黄色のシールを貼る。 ・撮影した写真をシールの近くに貼る。貼った写真の近くにその場所の名前や、気付いたことなどを付箋に書き、マップに貼る。
【展開】	**２．避難マップを作成する。** ① 地域ごとに分かれ、こども達がマップ作成に必要な材料を準備する。 ② 同じ地域の人と前時のメモをもとに話し合いながら、避難マップ作成の作業を進める。	マップ作成に必要な材料を班ごとに準備する。 ・拡大した地図、カラー印刷した写真、マッキー、付箋、４色丸シール、メンディングテープを準備。
【まとめ】	**３．避難マップを完成させる。** ① 地域ごとに避難ルートや避難所、危険な場所、安全な場所のシールやその写真などが正確に作成されているか確認する。 ② 避難マップの作成を通して、気付いたことや分かったことをワークシートに書く。	**【評価】避難方法を日ごろから準備・確認しておく必要性を理解することができたか。**
【評価】	**・一人一人が家から避難所までのルートが分かったか。** **・危険な場所や安全な場所を協力して地図に書き込むことができたか。** **・避難方法を日ごろから準備・確認しておく必要性を理解することができたか。**	

【授業実践の様子】





【板書例】（写真等　※黒板を使用していない場合は、スライド資料等を掲載）

～戦後の新潟県で起こった地震災害～

①1964年　新潟地震
②2004年　新潟県中越地震
③2007年　新潟県中越沖地震

新潟地震について
- 1964年　6月16日　13時01分
- 震源…新潟県下越沖
- マグニチュード…7．5
- 最大震度…5
- 被害…死者26、住宅全壊1960、半壊6640、浸水15297
  被害は新潟・山形を中心に9県におよんだ。

大地震が起こると・・・
- 建造物（建物、橋、道路）が壊れる、崩れる
- 火事が起こる
- 液状化が起こる
- 津波が起こる
- 川の水が逆流してあふれる　など

たくさんの被害を引き起こします

まち歩きに行く前に

①だれの家からスタートするか考えよう！

②今日歩くコースを決めよう！

③ルートを地図に書き込もう！

歩いてみよう！

①危ないところ →地図（小）に●

②写真をとる

③家族や地域の人の話も聞く

歩いてみよう！

⑤安全なところ、使えそうなもの
→写真をとり、地図に●

（例）避難所以外の高い建物、食料や水を置いていそうな店、公衆電話、AEDなど

４）新潟市立下山中学校区（東区）

対象校：下山中学校、下山小学校

①　中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第１回	平成 27 年 6 月 18 日 16：45～18：00 会場：下山小学校	・5/14 のふりかえり ・防災教育実践の目的について（意見交換） ・今後のプログラムの方針と事務局の役割について
第２回	平成 27 年 10 月 13 日 16：00～17：00 会場：下山小学校	・各校における防災教育の進捗状況について（情報共有） 【下山小学校】 夏期休業中に、6 年生の総合的な学習の時間で防災コースを選択した子どもを対象に、防災士を講師に招いて地域巡検及びマップ作成を行い、作成したマップの発表をした。地域の方とも連携して進めることができた。学んだ成果を地域にリーフレットを作って公民館などに置きたいと考えている。 【下山中学校】 中学校が避難所になった場合、自分たちにできることを考えさせたい。
第３回	平成 27 年 12 月 15 日 16：30～17：10 会場：下山中学校	・進捗報告、報告書の書き方、次年度に向けての引継ぎ等の工夫について（情報共有・意見交換） 【下山小学校・中学校】 地域連携の活動は初めてだったので戸惑いもあったが、好評だったので次年度以降も続けたい。

②　各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
下山中学校	平成 27 年 6 月 19 日	資料提供	避難所を考えるワークショップ資料やクロスロードの設問例の資料を提供した。
下山小学校	平成 27 年 7 月 29 日	打ち合わせ	地域巡検実施のための打ち合わせ。東区総務課と協力し進めていくことで合意した。
下山小学校	平成 27 年 8 月 24 日	参観	東区の防災士が講師となり、地域の自治会長さん数名とが協力し、地域巡検＆語り部講話＆地図作りを行った。
下山小学校	平成 27 年 9 月 18 日	参観	総合的な学習の時間における各コースの発表。地域巡検によって確認した危険箇所や過去の災害情報を落とし込んだマップを発表した。

下山中学校	平成 27 年 11 月 13 日	打ち合わせ	12/7（月）に開催予定の地域防災集会についての打ち合わせ（講座の内容の確認と会全体の進行について） 【教師の願い】 「下山中が避難所になった時に、自分なりに考えて行動できる中学生になってほしい」
下山中学校	平成 27 年 12 月 7 日	講座実施・ 参観	「避難所の実態と避難所における中学生の役割」をテーマに講座を実施した。前半は、避難所での困りごとと自分たちにできそうなことについてイメージさせた。後半は、生徒を居住地域ごとに分け、地域の人たちを交えて、避難所での困りごとと自分たちにできることについて話し合わせた。話し合った内容はファシリテーションを用いて整理させた。
下山中学校	平成 27 年 12 月 19 日	資料提供	12/7 に使用した講座のパワーポイントデータを提供した。

【6/18 第１回中学校区 MTG の記録】



【8/24 下山小学校防災マップ作成の様子】



【12/7 下山中学校防災講座の様子】



【12/7 下山中学校地域防災集会の様子】



学校名：新潟市立下山中学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・校区に隣接する阿賀野川は現在改修途上であり、洪水を安全に流せる能力は依然十分ではない。また、本校は沿岸部に位置しており、地震や洪水だけでなく津波の被害も想定しなければならない。 ・本校には自治会別の組織がなく、地域との連携が非常に薄い状態である。地域で行われる防災訓練に参加している生徒もほとんどいない。 ・「自助」についての学習は進んでいるが、「共助」についての学習はほとんど行っていないのが現状である。
保護者・地域・教職員等の願い	・地域からは「中学生の顔が見えない」、中学生にとっては「自治会長の顔さえ分からない」といった状況である。災害時に大切な「地域との緊密な連携」を実現させるために、まずは地域の方に積極的に学校に関わってもらいたいと考える。 ・中学生には、地域の構成員としての自覚を持ち、さらに自分は地域にどんな貢献ができるか真剣に考えてもらいたい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・地域の担い手としての自覚を持ち、積極的・主体的に地域防災に貢献しようとする生徒。 ・地域にはさまざまな方が住んでいることに気付き、ユニバーサルな視点から物事を判断できる生徒。
補助交付期間に実施した主な取組	・避難訓練の際、新潟県防災教育プログラムを使って防災教育を行った。 ・中越防災安全推進機構　地域防災力センターの方から「避難所のあり方」について講演いただいた。 ・「防災地域集会」と題して、校区内のすべての自治会長（自主防災担当）を学校に招き、ファシリテーション形式で話し合い活動を行った。（３年生対象）
自校プランの内容	・避難所の実態を知り、避難所についての認識を深めさせる。 ・校区内のすべての自治会長（自主防災担当）を学校に招いて「防災地域集会」を行う。そこで地域と中学生が「避難所のあり方」や「避難所における中学生の役割」について話し合う。
自校プランを継続するための方策	・「防災地域集会」を３年生の総合的な学習の時間に位置づけ、毎年継続して行うものとする。 ・年度当初に自治会長や地域の自主防災組織と連絡をとり、事前に出席を要請しておく。 ・実施後は反省会を行い、翌年度への実践につなげる。

２．新潟市立下山中学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
第１学年			防災教育プログラムを活用した避難訓練①					防災教育プログラムを活用した避難訓練②				
第２学年												
第３学年						地域防災集会（総合的な学習３時間）						

３．新潟市立下山中学校　防災教育指導例

第３回 中学3年生 3時間	（学習のねらい） **〇地域と共に、中学生の避難所における役割を考える。**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】1時間	**１．地域防災集会の趣旨説明** ①「地域防災集会」の目的と趣旨を説明する。 ②「避難所」「共助」のイメージをつかませる。 ③自治会別懇談会の説明 1)各会場に分かれて、役割分担を確認する。 2)ファシリテーションのやり方を確認する。	・地域連携の大切さを訴える。 **【資料】ＤＶＤ･･･　防災教材「勇気をもって」より** **1)「避難者自らが運営する避難所」** **2)「自分たちでもできること②」** ・司会・記録はシナリオにそって進行する。 ・模造紙、付箋、ペン、完成イメージ図を使って、詳しくシミュレーションする。
【展開】2時間	**２．講話「中越防災安全推進機構 地域防災力センター」** **～避難所の実態と避難所における中学生の役割～** ①避難所の概要説明 ②クロスロード（２問） 1)家族の世話と救援物資の荷下ろしのどちらを手伝うかを考えさせる。 2)友達に譲ってもらった避難所の空きスペースを、自分の家族に使わせるか、避難所内の高齢者に使っていただくか考えさせる。 ③中越地震や東日本大震災で活躍した中高生の事例紹介 **３．自治会別懇談会** ①自治会別に小グループを作り、自治会役員の方にも加わってもらって、ファシリテーション形式で話し合い活動を行う。 1)下山中学校が避難所になった場合に、心配なことや不安なことを洗い出す。 2)その上で、自分達中学生は何ができるかを考える。 ②グループ毎に発表し合う。 ③自治会役員の方から感想を発表していただく。	**【資料】PPT データ、ワークシート** **【事前準備】・ＰＣ、スクリーン、プロジェクター** ・避難所についての概要を説明する。実際に避難所でどんなことに困りそうなのか、どうしたら手助けできそうなのか、過去の災害では中学生がどんな行動をとったのかなどの事例を聞いてもらい、地域から期待されている存在であることを認識させる（自己有用感、自己肯定感の醸成）。 **【資料】進行シナリオ** **【事前準備】**・模造紙、付箋、ペン、完成イメージ図 ・司会は事前に配付したシナリオにそって進行する。 ・自治会役員が欠席のグループには、講師やサポーター、地域コーディネーター等に入っていただく。 ・各クラス毎に担当職員が一人付き、コーディネーター役を務める。

【まとめ】	**４．他のグループの意見を共有する** ①後日、発表に使った模造紙を学年の廊下に掲示する。 ②ワークシートに「授業の感想」「他のグループの意見を見た感想」を書かせる。 ③学年便りや学年朝会等で、感想を共有し合う。	
【評価】	・避難所のイメージをつかみ、避難所がどんな過酷な環境かを実感することができたか。 ・自治会役員の方と積極的交流し、関わろうとしていたか。 ・ファシリテーションの手法を使い、避難所における中学生の役割を真剣に話し合っていたか。 ・地域防災の必要性を認識し、地域に貢献しようとする意欲が高まったか。	

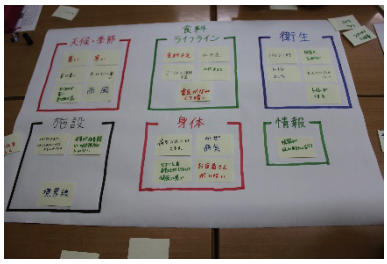
【講話の様子】






【ファシリテーションの様子】

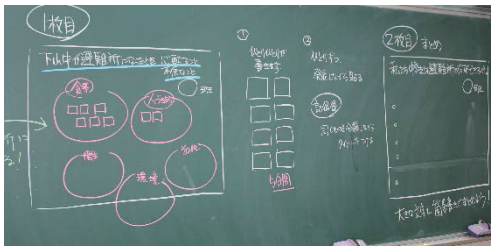




【発表・板書・掲示の様子】










学校名：新潟市立下山小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	全校児童７００人規模の学校で，３年前に新校舎が建てられた。学校は比較的高い土地（海抜３ｍ）に位置している。しかし，近くに阿賀野川や日本海がある。阿賀野川付近や阿賀野川からつながる用水路がある付近は，土地が低く，地震発生時，津波が阿賀野川を遡上した場合，土地の一部が浸水する可能性がある。また，日本海からの津波による被害の可能性もある。 保護者や地域は協力的で，学校の教育活動や子どもたちの安心安全のために多くの支援を頂いている。しかし，防災教育に関して，地域と一体となった実践の経験はほとんどない。
保護者・地域・教職員等の願い	すでに年間計画が決まっており，新たに学習の時間を設けることが難しい。しかし，教職員は，教職員・子どもたちがより真剣に取り組む機会になるように，よりリアルで実践可能な避難訓練を実施したいと考えている。また，地域では自治会を中心に災害時のことをよく考えており，子どもたちを含めた地域の防災意識の向上を求めている。 今ある学校行事や授業に関連させて，地域の方と連携した防災教育を推進していきたい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・災害を身近なものとして捉え，危険を予測し，回避することができる危険回避能力，思考力，判断力，実践力を身につけた児童。 ・地域の「恩恵」と「災害」という二つの側面から，災害への危機感を持つとともに，私たちが生きる地域のよさから安心感を高め，自分たちが生きる地域に愛着をもつ児童。 ・学習活動を通した人とのかかわりの中で，他者を思いやる心をもち，人のために行動することに喜びを感じ，学んだことを友達や地域に広げていく児童。
補助交付期間に実施した主な取組	６年　総合的な学習「自分たちにできること」という単元で，お世話になった地域に恩返しをすることをテーマに，自分たち・地域の人たちのために，自治会の方や防災士の方と共に防災マップ作りに取り組んだ。
自校プランの内容	今年度は，行事や学習に関して年間の指導計画の変更が難しかったため，主に６年生の総合的な学習での地域の方と共に取り組んだ防災マップ作りをメインの活動とした。 来年度以降は，今ある行事や学習過程に防災教育の視点を取り入れた実践をより意識して行っていく。 （例）地域の方を巻き込んだ避難訓練，避難訓練後の引き渡し訓練，町内ごとの防災マップ作り，学習参観での防災に関する授業など
自校プランを継続するための方策	無理せず，今ある教育活動（避難訓練や町内子ども会，学習参観，総合的な学習など）に防災教育の視点を絡めた取り組みや実践を継続していく。

2．新潟市立下山小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	避難訓練の仕方・心得を学ぶ（学級活動）		避難訓練（地震・津波想定）　屋上への避難方法の習得							避難訓練（地震想定）　地震被害について学ぶ		
第2学年												
第3学年				社会科「私たちの町はどんな町」 避難場所の確認など								
第4学年				社会科「火事を防ぎ，地震に備える」 防災設備の確認など								
第5学年											社会科「情報の中に生きる」防災設備や情報収集について	
第6学年					総合的な学習 「私たちにできること」 地域防災マップづくり							

3．新潟市立下山小学校　防災教育指導例

全5時間 小学校6学年	（学習のねらい） **〇下山地区の危険な場所，安全な場所を知ることで，災害時に私たちの身を守る方法を知る。**

※講師・・・防災士

※参加者・・防災士，コミ協自主防災部会長，地域コーディネーター

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】1時間	**1．災害時に，私たちが住む下山がどのようになる可能性があるかを確認し，学習のねらいを伝える。** ① 新潟地震の時の下山地区の写真から，津波や火災，地割れ等の被害があったことを確認する。 ②「今の下山は，災害時の対策はしっかりしているのか」と問い，学習のねらい「下山地区の危険な場所，安全な場所を知ることで，私たちの身を守る方法を知る」をおさえる。	【問いかけの例】 ・今の下山は，災害時に安全なのでしょうか？ 【想定される答え】 ・阿賀野川が近いから，津波の危険があり安全ではない。 **【ポイント】** 〇 「災害時に身を守る方法があるのか，下山はどんな場所が危険なのか」ということを押さえる。
【展開】3時間	**2．災害時に気をつけることについて知り，町を探検する。** ① 地震や津波の時に私たちはどんなことに気をつけるとよいか確認する。 ② 町探検のポイントを押さえて，町探検をする。 ・通学路に隠れている災害時に危険な場所になり得る場所を確認する。 ・通学路にある災害時に私たちの身を守る場所や方法を確認する。 **3．町を探検してわかったことを防災マップにまとめる。** 〇マップにする際，以下の点を押さえる。 ・危険な場所や安全な場所など，注目してほしい場所がわかるように地図に書き込む。 ・なぜ，その場所に注目してほしいのか理由がわかるようにする。 **4．実際に新潟地震の時，当時の人たちはどのように身を守ったのか知る。** 〇地域の方から，当時の話を聞き，身の守り方，気をつけなければいけないことを押さえる。 ・大人の指示をよく聞く。 ・土地が低いところには近づかない。など 〇話を聞いて分かったことや感じたことを付箋に書いて，共有する。	【問いかけの例】 ・下山地区では，どんな危険が隠れているのかな？ 【想定される答え】 ・わからない　　・土地が低いところ **【町探検のポイント】→資料①** ・グループごとに，班長，副班長，写真，記録の係を決める。 ・防災士や自治会の方と，ポイントを押さえながら歩く。 ・危険な場所と安全な場所を写真に撮って，記録する。 **→資料②** 【問いかけの例】 ・どこが安全で，どこが危険か，見てすぐに分かるようにするにはどうするとよいかな？ 【想定される答え】 ・写真を貼る。 ・危険な場所と安全な場所の理由を書く。 ・地図に，危険な場所と安全な場所を色分けしてシールを貼る。 【問いかけの例】 ・新潟地震の時，下山地区に住んでいた人たちは，どのようにして行動していたのかな？ **【聞くポイント】** ・当時の人たちは，災害時にどうやって身を守ったのか，どんなことを考えたのかに注目して，話を聞く。

【まとめ】1時間	**5．防災マップにまとめた下山地区の安全な場所と危険な場所などを発表する。** ○下山地区の危険な場所と安全な場所がわかるように，発表する。	**【発表のポイント】** ○災害時にどこが危険なのか，あるいは危険な場所になり得るのかがわかるように，理由を明確にして発表する。 ○災害時にどこが安全になるのか，理由を明確にして発表する。
【評価】	・町探検をしたことで，自分たちの通学路や学校週辺など，下山地区の安全な場所と危険な場所，避難場所について理解することができたか。 ・防災マップを見た人や発表を聞いた人に安全な場所や危険な場所がわかりやすく伝わるような防災マップを作ることができたか。 ・災害時の避難方法や安全な場所・危険な場所を認識しておくことの大切さを理解することができたか。	

【町探検】



【防災マップ作り】



【発表会】



【パワーポイント資料】

探検のポイント

- 昔からのことわざ
  地震、かみなり、火事、おやじ（大嵐＝オオヤジ）
- 災害は、暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他（大火）の異常な自然現象により生ずる被害。
- 今日のテーマ
  自然災害（地震、津波）の被害を少なくするため自分たちが住んでいるまちの危険な場所・安全な場所を発見し、他の人に伝えるために危険・安全を地図に書き込む作業をします。

注意すること

困った事「建物やものが倒れる」



建物やものが倒れてくる

（建物の倒壊で道路が通行できない）



【子どもたちが作った防災マップ】



５）新潟市立関屋中学校区（中央区）

対象校：関屋中学校、有明台小学校、浜浦小学校、関屋小学校

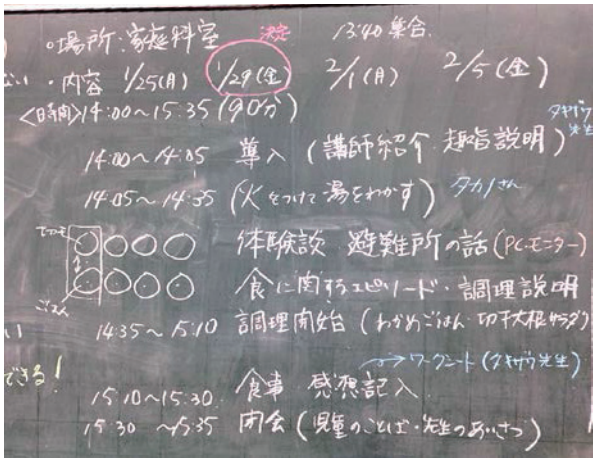
①　中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第１回	平成 27 年 6 月 11 日 15：30～17：00 会場：関屋中学校	・5/14 のふりかえり ・今年度の各校における防災教育について（情報共有）
第２回	平成 27 年 9 月 29 日 15：00～ 会場：関屋中学校	・各校における防災教育実践の進捗について（情報共有・意見交換） ・他校の実践事例紹介・自校化に向けた工夫（情報共有） 【関屋中】 1/22 に避難所をテーマにした WS をしたいと考えている。講師の依頼を考えている。後日打ち合わせをしたい。 【有明台小】 昨年と同じく、コミ協と連携して進めている。地域巡検後に地域の人への発表を考えている。 【関屋小】 11/18 訓練時に起震車を使いたいと考えている。 【浜浦小】 授業参観に保護者と一緒に防災学習に取り組んだ。
第３回	平成 27 年 12 月 2 日 15：00～ 会場：関屋中学校	・各校における実践事例の紹介（情報共有・意見交換） 【浜浦小】 実施は全校で取り組んだ。映像で関屋の歴史を学ぶ授業があり、地域の人が講師になっている。うまく防災学習と関連させていきたい。 【関屋小】 基本的に縦割り班で活動することが多い。ぼうさいダックも取り入れる予定。また 1 月に災害食テーマで 5、6 年生向けにサバイバルクッキングを実践したい。 年間の活動を通して、職員も気付きの多い機会になった。 【有明台小】 昨年度に引き続き、地域と連携して取り組め、子どもたちも地域を知ることができた。マップなど形に残るものにでき、次年度実践する児童たちにも参考になると思う。

② 各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
有明台小学校	平成 27 年 6 月 16 日	参観	合同防災訓練の見学。 消火器や煙の体験学習、指導計画に基づく地震についての学習、地震発生⇒津波想定で保護者・地域住民とともに屋上へ避難。その後、体育館にて災害時に命を守ることの大切さについて講義を受け、下校時に引き渡し訓練を行った。
関屋小学校	平成 27 年 6 月 16 日	参観	全校一斉避難訓練の見学。津波想定で地域住民・保護者も交え屋上避難したあと、体育館で赤十字社の指導により、応急手当と簡易担架づくりを体験した。
関屋小学校	平成 27 年 10 月 28 日	打ち合わせ	1 月に開催予定の、防災学習についての内容とねらいについての打ち合わせ。テーマを災害食とし、サバイバルクッキングを実施予定。
関屋中学校	平成 27 年 11 月 10 日	打ち合わせ	1/22 の避難所をテーマとした防災学習の打ち合わせ　※当日の講師も同席
関屋小学校	平成 27 年 12 月 16 日	打ち合わせ	1/29 に実施する災害食をテーマとした学習の打ち合わせ　※当日の講師も同席
関屋中学校	平成 27 年 1 月 22 日	授業実践	防災士と事務局で連携して、全校生徒対象に避難所をテーマとした講座を実施。避難行動要支援者への配慮について考え、自ら進んで考え行動することの大切さを伝えた。
関屋小学校	平成 27 年 1 月 29 日	参観	おぢや震災ミュージアムそなえ館スタッフを講師に招き、家庭科の時間にて、災害食づくりの体験を通じて、食の備蓄の大切さと、身近なものでできる工夫について学ぶ講座を実施した。

【12/16 関屋小学校打ち合わせ時の記録】



【1/29 関屋小学校　災害食づくりの様子】



学校名：新潟市立関屋中学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・海が近く、関屋分水もある地域である。学校は海抜４ｍの土地に立地している。周辺の浜浦地区はある程度の高さがあり、砂防林を含む丘があるため、津波被害は少ないと想定されている。しかし、校区には低い土地もあり、防災教育に熱心な地域もある。 ・生徒は節度ある行動ができ、学習意欲も高い。素直で協力的である。被災時には大きく地域に貢献できる可能性をもっている。
保護者・地域・教職員等の願い	・保護者、地域、教職員は総じて、「自分の命を自分自身で守り切れる人」に育ってほしいと願っている。 ・自分の命を守ったうえで、避難所開設の際は、運営に協力してほしいという要望がある。一人暮らしの高齢者などの避難が困難な人がどこに住んでいるかを日頃から気にかけて生活してほしい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・地域の自然環境や社会環境を把握し、防災に対する基本的な知識や意識、そして態度を身につけた生徒。 ・災害発生時において、命を守るために必要な判断、行動ができる生徒。 ・生命を尊重する心、他者に対する思いやりや助け合いの心、ボランティア精神等の大切さを理解し、被災時に地域の一員として貢献する生徒。
補助交付期間に実施した主な取組	・防災士を招いての講演・ワークショップ（全校生徒対象に実施） ・新潟県防災教育プログラム必須学習項目の自校化、具体化。
自校プランの内容	・新潟県防災教育プログラム必須学習項目の１０項目を、３年間の在籍中に学べるように、「全校で行うもの」と「教科の授業内で行うもの」に分ける。３年間のサイクルを具体的に立案する。
自校プランを継続するための方策	・上記自校プランを具体的に行い、年度末には前任の防災担当者から、新任の防災担当者に３年間のサイクルの何年目にあたるのかを確実に引き継ぐ。また、新潟県防災教育プログラム必須学習項目の１０項目を毎年全職員に提示して「必ず行っていく」という意識を高める。

２．新潟市立関屋中学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
第１学年	避難訓練（特別活動１時間）	地域の洪水危険ポイントを知る（地域巡検後）【洪水からの避難】（総合１時間）	避難訓練【津波からの逃げ方】（特別活動１時間）全校朝会・延長帰りの会【地震からの身の守り方】（特別活動・朝夕合わせて１時間）						除雪作業の基本を学ぶ【除雪】（道徳１時間）	講演・グループワーク【避難所での行動】（特別活動１時間）		
第２学年	自然災害を学び。防災について考える【土砂】【津波脅威】（社会科１時間）							自然と向き合い、主体的に防災に取り組む姿勢を育む【自然と向き合う防災】（保健１時間）				
第３学年					避難できない人の心理を理解する【避難できない人の心理】（総合１時間）			冬の地域でのボランティア活動を考える【冬のボランティア】（道徳１時間）				

３．新潟市立関屋中学校　防災教育指導例

中学校 ※地－必須－5 対応	（学習のねらい）**「避難所と避難者について考える」**

プログラムの展開		
13:40-14:40 60 分間	○活動内容　・ねらい	■必要なモノ　○ポイント ★子どもたちの思考・気づき
＜導入＞ 13:40-13:43 3 分	＜防災担当＞ ○講師紹介、本日の趣旨説明	■マイク ■講師プロフィール
＜展開①＞ 13:43-14:18 25 分	＜伊原さん（防災士）＞ ○新潟県で過去に起きた災害を学ぶ ・自分の住んでいる地域で今後も起こりそうな災害を知ることで、身の守り方を考え、危機回避能力育成につなげる ○避難所についての概要説明を聞く ・避難所の役割や運営者を知り、避難所生活へのイメージを持つ（次のワークへとつなげる）。	■マイク、PC、プロジェクター、スクリーン（学校） ■プレゼンテーションデータ（伊原さん） ■レーザーポインター（機構）※必要であれば使ってください。 ★「新潟県は災害が多いところなんだな。また大きな災害が起きるかもしれない。」 ★「身を守るにはどうしたらいいのかな。」 ★「避難所って人が大勢で大変そう。実際に自分が入ることになったらどうしよう。」
＜展開②＞ 14:18-14:35 17 分	＜関谷（中越防災）＞ ○以下の設問をグループワークで考える。 ①避難所で自分が困りそうなこと（3 分） ②【選択問題】避難行動要支援者が困ることと自分にできそうなこと（5 分） ③他に困る人、自分にできそうなこと（3 分） ○発表・解説（7 分）	■ワークシート印刷（学校） ■筆記用具（生徒） ■PPT データ（関谷） ○4-5 人ずつの生活班でワークをする。 【1 年生：40 班、2 年生：35 班、3 年生：40 班（計 115 班）】 ○②は、A. 高齢者、B. 外国人、C. 障がい者、D 乳幼児を抱えた母親の４つから一つ選んで考える。
＜まとめ＞ 14:35-14:40 5 分	＜伊原さん＞ ○地域から期待されている中学生の役割についての話を聞く ・自己肯定感や自己有用感の醸成につなげる	★「もしも平日日中に災害が起これば、確かに地域で一番体力があるのは中学生。グループワークで考えたことを生かして災害時には困った人の役に立てるように、自主的に行動をしたい。」

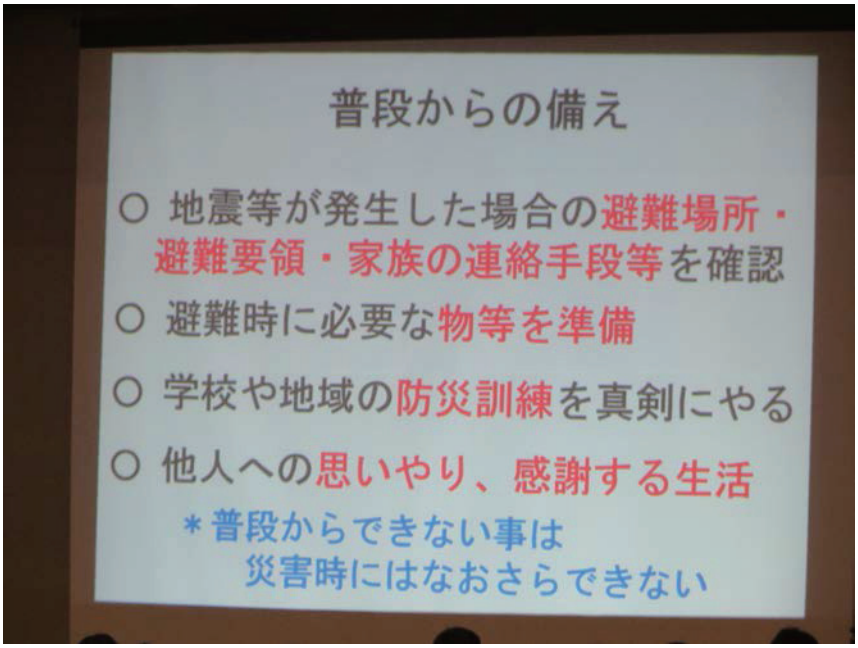
【授業実践の様子】







【板書例】（写真等　※黒板を使用していない場合は、スライド資料等を掲載）

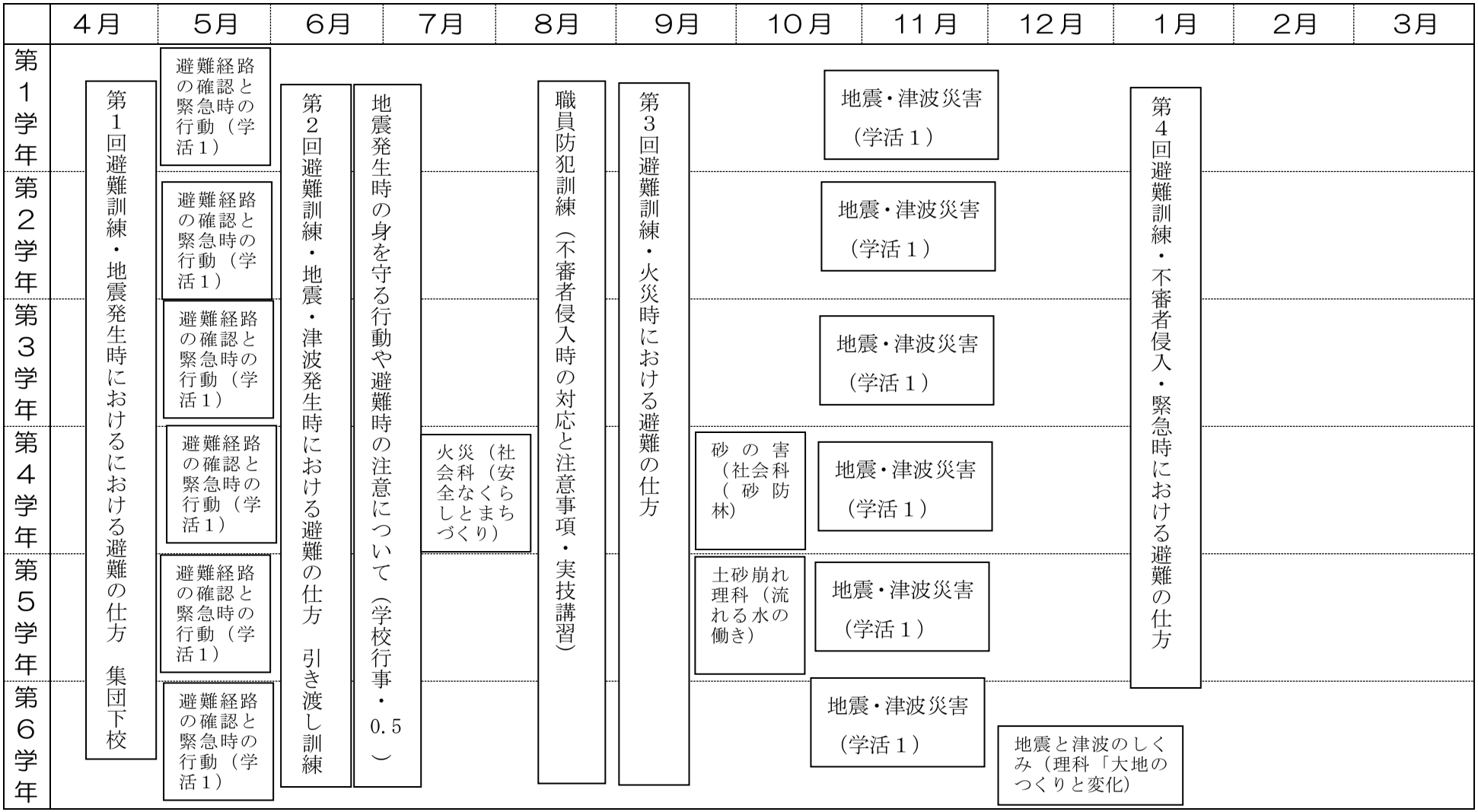


学校名：新潟市立浜浦小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・学校は海抜４ｍ，海から数百メートルの場所に立地している。海岸には砂防林を含む丘があり，ハザードマップでは津波被害は少ないとされている。校区は，金鉢山，砂防林の丘のなだらかな丘陵地帯にあり，洪水時浸水の可能性は低いとされている。しかし，信濃川，関屋分水が近くにあるため，一部地域は浸水被害が予想される。
保護者・地域・教職員等の願い	・地域コミュニティ協議会と学校が連携を取り，地域の防災について協議を行ってきている。集団下校訓練や児童引き渡し訓練等，保護者を巻き込んでの防災訓練を毎年行い，意識の高揚を図るようにしている。 ・教職員も毎年地震想定，津波想定の訓練を２回以上行うことで，児童を安全に避難させ，保護者と連携して防災に努めるよう，意識を高めてきた。
防災教育において、目指す児童生徒像	・自分たちの住む地域の様子や災害及び被害の歴史について知り，自分の命は自分で守るという姿勢を身につけ，災害時には自ら危険を察知し，安全を確保するための行動ができる子ども。
補助交付期間に実施した主な取組	○年度当初に地震想定の集団下校訓練を行い，年２回以上地震・津波想定の訓練を行った。（４月２３日実施） ○授業参観時に地震想定の避難訓練，児童引き渡し訓練を実施した。（６月１３日実施） ・避難訓練（地震発生・津波想定屋上避難） ・保護者とともに防災学習（地震の被害・津波について） ・児童引き渡し訓練 ○全学級で防災学習を行う。（10月～３月にかけて）
自校プランの内容	・地震・津波想定の避難訓練時に，浜浦地区の防災の歴史，地域の実情を学ぶ場を設け，児童と保護者の防災意識を高める。 ・学級で防災学習を実施し，学年や発達段階に応じた地震や津波への対応の方法や命の守り方の学習を年間計画に位置付けて推進する。
自校プランを継続するための方策	・年度当初に，コミュニティ協議会と学校とで浜浦地区の防災の歴史や，地域を学習できる環境整備について話し合う。 ・地震・津波想定の避難訓練，引き渡し訓練を充実し，保護者と連携して防災意識を高める学習への取組を強化する。 ・新潟県の防災教育プログラムを活用し，自学級での防災学習実施のための資料整備に努める。

２．新潟市立浜浦小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画



３．新潟市立浜浦小学校　防災教育指導例

全校児童対象	（学習のねらい）地震がもたらす災害を知り，防災に対する意識を高める。

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
20分	**１．避難訓練をする** **① 地震発生⇒１次避難** 震度６強～７の地震発生。「シェイクアウト」の姿勢で揺れがおさまるのを待つ。その後，津波警報が出されたという想定で浜浦小学校屋上に避難。 **② 津波警報解除⇒体育館に移動** 屋上で情報収集し，津波警報が解除されたとの連絡を受けたという想定で，体育館に移動する。	**【ポイント】** ○　地震発生時に，児童には机の下にもぐる，「シェイクアウト」の姿勢をとる等，身を守る行動をとらせる。 ○　津波警報発令時に屋上に安全に避難できるように指示を出す。
15分	**２．防災学習をする** ① 家や学校にいたり，街を歩いていたりして地震が発生した時危ないところについて，プレゼンを見て考える。 ・教室の中では⇒窓ガラスや棚の上の物の落下 ・階段では⇒転落 ・グラウンドでは⇒サッカーゴールの転倒，体育館窓ガラスの落下，地割れ，液状化 ・家の中では⇒家具の転倒，テレビの転倒 ・街を歩いている時は⇒ビルの窓ガラスの落下，地割れ，液状化，交通事故，切れた電線 ②　中越地震，中越沖地震の時の被害の様子の写真を見て考える。 ・崩れたビルの写真⇒上からガラスが降ってくる ・道路に崩れ落ちたブロック塀⇒下敷きになる ・停電で信号が消えている交差点で交通整理をするお巡りさん⇒車の事故 ・家が崩れて狭くなった道路⇒見通しが利かない道路 ③　この後引き渡し訓練になるが，家に帰るまでの間にどんなところが危ないか話題にしながら帰るように働き掛ける。	**資料：新潟県防災教育プログラム【地震災害編】** **【ポイント】** ○　地震前の絵を見せてから地震後の絵を見せることにより，どこが危ないかを考えさせながら見せる。 ○　実際の大地震後の写真を見せることにより，身近に感じさせると同時に，地震の怖さを感じ，防災意識を高めることができるように働き掛ける。 ○　引き渡し訓練とつなげて，家に帰る道すがら，地震発生時に危険なところを考えながら帰ることができるようにする。
10分	**３．児童引き渡し訓練をする** ・参加保護者に児童を引き渡す。 （引き渡しカードでチェックする） ・保護者不参加の児童は担任が児童の自宅近くまで引率する。	**【ポイント】** ○　事前に引き渡し名簿を作成し，確実に迎えの人に渡すようにする。

【授業実践の様子】



津波想定屋上避難訓練



その後の防災学習

【防災学習使用スライド資料】



地震発生前



地震発生後





実際の地震の時の写真





学校名：新潟市立関屋小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・校区は，比較的海に近く，また信濃川と関屋分水路に囲まれた住宅街にある。 ・地域の方々は，子どもたちを地域みんなで見守ろうという意識が高く，登校中の交通安全ボランティアや学校行事等への協力を惜しまない。 ・校区は海側から土地が傾斜しており，信濃川の堤防が決壊した際に予想される水深は0.5～1mであり，液状化の危険度は２～３である。 ・地域で起こりうる災害は，地震，津波，洪水である。
保護者・地域・教職員等の願い	・保護者の願いは，学校教育における適切な防災教育の実施と児童が正しい知識・技能を身に付けることである。そして，児童が学校生活を送っている際に有事が起こった場合，学校が管理責任下において児童の安全を守り，適切な保護をすることである。 ・地域の願いは，上記の願いに加え，学校施設が地域の避難所としての機能を充分に果たすことである。そのため，日頃から情報交換を行い，また，避難訓練等に参加し，有事の際の動きについて見通しをもちたいと願っている。 ・教職員の願いは，日常の学校生活や防災教育を通じて災害や避難に関する正しい知識や技能を身に付けること，また集団行動時の適切な態度を養うことを目的としている。また，大人が不在の際でも有事があった場合の避難に関する適切な思考力・判断力・実行力を養ってほしいと考えている。
防災教育において、目指す児童生徒像	・自分の命は自分で守るという姿勢を身に付けており，災害時には危険を自ら察知し，率先して安全を確保するための行動ができる。 ・災害及び被害の特徴，発生のメカニズム，地域の環境，災害防災についての基本的なことが分かる。
補助交付期間に実施した主な取組	・日本赤十字社職員を講師に招いた「防災教育講習会」 ・【ぼうさいダック】を用いた校内の縦割り班活動 ・中越大震災経験者を講師に招いた「避難所生活の講話・避難食体験」
自校プランの内容	・毎年の全市一斉避難訓練（6/16）に合わせて，学校・保護者・地域合同開催の避難訓練及び防災教育講習会を設定する。 ・カードゲーム【ぼうさいダック】を購入，活用して，縦割り班で防災について考える場を設定する。 ・学校が避難所になった場合を想定して，避難所生活の講話・避難食体験をする場を設定する。
自校プランを継続するための方策	・年度当初に，6/16の学校・保護者・地域合同避難訓練と防災教室の実施計画を立案し，早くに保護者や地域に周知徹底する。 ・外部講師について，防災教育コンソーシアムの方から情報をいただく。

２．新潟市立関屋小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
第１学年	町内児童会　こども１１０番の家の確認		第一回避難訓練　新潟市全市一斉避難訓練（地震・津波想定） 学校・保護者・地域合同開催及び防災教育講習会（日本赤十字社）	地震災害 津波災害 （学活１）	通報訓練　（休憩時間中の避難想定）	洪水災害 土砂災害 （学活１）			第三回避難訓練（火事想定） 縦割り交流会活動［カードゲーム【ぼうさいダック】］		雪害 （学活１）	
第２学年				地震災害 津波災害 （学活１）		洪水災害 土砂災害 （学活１）					雪害 （学活１）	
第３学年				地震災害 津波災害 （学活１）		洪水災害 土砂災害 （学活１）					雪害 （学活１）	
第４学年				地震災害 津波災害 （学活１） 火災（社会）		洪水災害 土砂災害 （学活１） 洪水の歴史（社会）					雪害 （学活１）	
第５学年				地震災害 津波災害 （学活１）		洪水災害 土砂災害 （学活１） 土砂崩れ（理科）				総合 避難食体験 （避難所での生活想定）	雪害 （学活１）	大雪（理科）
第６学年				地震災害 津波災害 （学活１）		洪水災害 土砂災害 （学活１） 地震と津波のしくみ（理科）						雪害 （学活１）

３．新潟市立関屋小学校　防災教育指導例

第１回 （60 分間）	（学習のねらい） **「地震の被害から自分で身を守るために，身の守り方や避難の仕方を知る」** **「避難後に，自分たちでどのようなことができるか，応急手当などを知る」**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】（５分）	**１．避難訓練前に，地震による被害の実際の例や地震時の身の守り方，避難の仕方を伝える** ① 新潟地震の映像や写真などを用いて地震による被害の大きさを知る。 ② **地震の際の身の守り方**（机の下に避難する，窓やガラス等の近くにいない等）や**避難の仕方**（お・は・し・も）について復習する。 ③ 避難訓練時にしっかりとした行動ができることが，有事の際に役立つことを伝える。	※各学級での指導を想定 **【資料】新潟地震の映像・写真，地震発生時のイラスト** 【問いかけの例】 ・地震から身を守るために，みんなはどのようなことに気をつけますか？ 【想定される答え】 ・机の下にもぐる，頭を守る，倒れそうな物から離れる **【ポイント】** ○ 繰り返し同じ内容を指導し，指導内容を定着させる
【展開】（45 分）	**２．避難訓練を実施し，屋上に避難する** ○ 市内一斉避難訓練（６・16）に合わせ，次の３点を意識させて学校･地域･保護者で避難訓練を実施する。 **1) 地震の際の身の守り方** **2) 避難の仕方** **3) 避難後の待機の仕方** **３．講師（日本赤十字社）から，東日本大震災の救助活動の様子や避難所での生活の様子を聞く** ※「青少年赤十字防災教育プログラム」に準ずる **1)「命を守る防災」（映像資料）の視聴** **2)「救助の様子」の講義** **3)「避難所での生活の様子」の講義** **4)「応急手当」講習** ・ビニール袋を使って，腕吊り体験 ・毛布を使って，被災者搬送体験 	※学校，保護者，地域一斉の避難訓練を想定 【問いかけの例】 ・「お・は・し・も」は守れましたか？ 【想定される答え】 ・すべて守れました ・おしゃべりしてしまいました **【資料】東日本大震災の被害の写真・中央区４つの地域区分図（津波が到達する時間別）** ※児童は縦割り班活動で行う ※保護者，地域はその場でグルーピングをする **【ポイント】** ○子どもたちの不安を大きくしないよう資料を精選する ○避難所では，たくさんの方々が協力して生活しなければならないこと伝える **【準備】** ・PC　・プロジェクター　・はさみ　・ビニール袋 ・毛布（日本赤十字社が準備） 【問いかけの例】 ・腕を怪我したとき，どんなもので応急手当ができますか？ 【想定される答え】 ・包帯　・タオル　・木

	4．非常時に備え日常から準備しておくべきことを知る ○ 非常持ち出し品を準備し，非常時に持ち出せるようにする大切さやどんな物があると便利かを考える。 **1)「非常持ち出し品」を準備することの大切さ** **2) 3日間は自力で生活できる「非常持ち出し品」** **3) 時々「避難食」料理を食べて賞味期限を確認したり入れ替えたりする必要性**	【問いかけの例】 ・避難したあとに，「これがないと困るな」という物は何ですか？ 【想定される答え】 ・食べ物　・飲み物　・毛布　・服，下着など **【資料】非常持ち出しリストの例** **【ポイント】** ○「時々避難食料理を食べることで，食料やその賞味期限を確認すること」を確認する ○「必要な物品はどんなものがあるか」リストをもとに確認する
【まとめ】（10分）	**5．学習してわかったことを確認する** ○ ワークシートに「授業の感想」などを書かせて発表させる	【準備】ワークシート
【評価】	**・避難訓練で，適切に身を守ったり「お・は・し・も」を守って避難したりすることができたか。** **・応急手当や毛布を使っての負傷者運搬など，身近な物を使って自分たちでできることがあることを理解することができたか。** **・避難方法や非常用持ち出し品について，日頃から準備・確認しておく必要性に気付くことができたか。**	

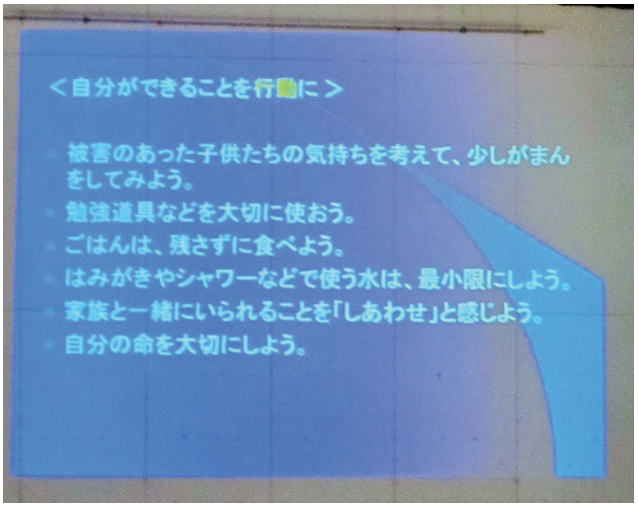
【授業実践の様子】







【板書例】



【子どもの感想】

災害ということの意味や災害が起きたときにどうすればよいかがすごくよく分かりました。
動画や画像を見て災害に遭った人がすごくつらい生活をしていることも分かりました。
それに，簡単にできる手当てのやり方も教えてもらい，今度何か起きたら自分でもできるのでやってみようと思いました。（５年生）

あらためて津波の怖さを知りました。
わたしはとてもパニックになる性格です。
しかし，冷静になって，友達のけがを治すのを手伝ったり，避難所生活でのお手伝いをしたりしたいと思いました。
何でも自分たちで協力して助け合いたいと思いました。（６年生）

学校名：新潟市立有明台小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・学校は比較的高い土地に位置しているが，校区は関屋分水路と信濃川に囲まれていて，関屋分水路が信濃川から合流する地点は土地が低く，地震発生時は津波が関屋分水路や信濃川を遡上した場合，土地の一部が浸水する可能性がある。 新潟市津波ハザードマップでは0.5m未満，津波到達時間30分未満の地域がある。 ・有明台校区自主防災会は，平成16年6月に設立され，向こう三軒両隣精神に基づく自主的な防災活動を行ってきた。
保護者・地域・教職員等の願い	・有明台校区自主防災会がリーダーシップを発揮し，地域コミュニティ協議会と学校が合同で防災訓練を重ね，児童や保護者，地域住民の自助・共助の意識は高く，今後もより安心・安全な訓練を実施しようと計画している。教職員も合同訓練に参加することによって，防災教育の大切さを意識してきた。
防災教育において、目指す児童生徒像	・自分たちの住む地域の様子や災害及び被害について知り，自分の命は自分で守るという姿勢を身につけ，災害時には自ら危険を察知し，安全を確保するための行動ができる子ども。 ・地域の防災の取組や活動について知り，地域の防災に自分たちができることを考え，行動する子ども。
補助交付期間に実施した主な取組	○地域住民，保護者，小学生による合同防災訓練を実施する。（6月16日実施） ・避難訓練（地震発生・津波警報発令） ・防災体験学習（煙体験，消火消防士体験，AED担架運搬体験） ・防災学習（地震・津波について） ・防災学校（講話：「津波から命を守る大切なこと」） ・児童引き渡し訓練 ○PTAの親子サマーキャンプで防災ミニ講演会を実施する。（７月25日実施） ○6学年の総合的な学習で「地域の昔と防災を調べよう」を行う。（9月以降）
自校プランの内容	・校区の自主防災会，地域コミュニティ協議会と連携して，地域合同防災訓練を実施し，毎年，内容を充実させていく。また，PTAでも行事の際に，防災に関するものを取り入れ，保護者の防災に対する関心を高めていく。
自校プランを継続するための方策	・校区の自主防災会，地域コミュニティ協議会と学校とで協議し，年度当初に地域合同防災訓練の日を設定し，計画に当たる。その際，中央区役所・消防署・消防団等との連携も強化する。

２．新潟市立有明台小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
第１学年		第１回避難訓練・緊急時における避難の仕方・集団下校	**第２回避難訓練　地域合同防災訓練・地震津波の避難の仕方**	地震災害 津波災害 （学活１）		第３回避難訓練・火災時における避難の仕方	洪水災害 土砂災害 （学活１）			第４回避難訓練・休憩時における避難の仕方	雪害 （学活１）	
第２学年				地震災害 津波災害 （学活１）			洪水災害 土砂災害 （学活１）				雪害 （学活１）	
第３学年	避難場所の確認・社会「まち探検」			地震災害 津波災害 （学活１）			洪水災害 土砂災害 （学活１）				雪害 （学活１）	
第４学年				地震災害 津波災害 （学活１） 火災・社会「安全なくらし」			洪水災害 土砂災害 （学活１） 洪水の歴史・社会「亀田郷」				雪害 （学活１）	
第５学年				地震災害 津波災害 （学活１） 炊き出し・家庭「ご飯とみそ汁」			洪水災害 土砂災害 （学活１） 土砂くずれ・理科「流れる水」				雪害 （学活１） 雪のこわさ・理科「冬の天気」	
第６学年				地震災害 津波災害 （学活１）			洪水災害 土砂災害 （学活１）				雪害 （学活１）	
				防災について調べよう（総合的な学習）				地域の防災について調べよう（総合的な学習）				

３．新潟市立有明台小学校　防災教育指導例

第２回 全校児童対象 （4時間）	（学習のねらい）**災害が発生したときに家庭から学校までの避難の方法を確認したり、防災活動を体験したりすることを通して、地域の人たちと助け合い、自分たちの安全は自分たちで守るという防災意識を高める。**

	学習内容（展開例）		資料や学習のポイント等
４５分	**１．防災体験をする。** ○１・２年（煙体験） ・火災時の煙の流れや怖さを体験する。 ○３・４年（消火体験、消防士体験） ・消火器の使い方を知る。 ・消防車の仕組みや消防士の仕事を知る。 ○５・６年（AED 体験、担架運搬体験） ・AED の使い方、心肺蘇生法を知る。 ・けがをした人の処理と運搬方法を知る。		**【ポイント】** 消防署・消防団の方から、それぞれの体験ができるように煙発生器、消火器、消防車、AED、担架の器具を用意し、師範してもらいながら児童に体験させる。 ・火災時に怖いのは火よりも煙であることを体験を通して理解させる。 ・モデル用の消火器で使い方を実演させる。 ・消防車の見学、消防服の着用を体験させる。 ・AED の使い方、心肺蘇生法を体験させる。 ・けがをした人を毛布等を使って運搬する方法を体験させる。
３０分	**２．防災学習をする。**（地震災害・津波災害） ○１・２年 ・地震からの身の守り方（学校内）を学ぶ。 ・津波とは何かを知る。 ○３・４年 ・地震からの身の守り方（学校外）を学ぶ。 ・津波からの逃げ方を学ぶ。 ・津波から逃げるための注意点を学ぶ。 ○５・６年 ・揺れがおさまった後の身の守り方を学ぶ。 ・津波への理解を深め、被害の特徴を学ぶ。 ・津波からの逃げ方を考える。 ・新潟県の津波被害の歴史を学ぶ。		資料：新潟県防災教育プログラム 【地震災害編】必須－１ 【津波災害編】必須－１・２ 資料：新潟県防災教育プログラム 【地震災害編】必須－２ 【津波災害編】必須－３・４ 資料：新潟県防災教育プログラム 【地震災害編】必須－３ 【津波災害編】必須－５・６
１５分	**３．避難訓練をする。** ・児童 地震発生【１次避難】 教室から体育館へ避難 津波警報【２次避難】 体育館から屋上へ避難 津波警報解除 体育館へ移動	・地域住民 地震発生【１次避難】 町内から有明台小へ避難 津波警報【２次避難】 体育館から屋上へ避難 津波警報解除 体育館へ移動	**【ポイント】** 地震発生に伴い、児童には机の下にもぐらせるなど身を守る行動をとらせる。 地域住民は自治町内ごとに有明台小学校体育館へ避難する。（高齢者・弱者援助のため安全避難タオルが玄関に掲げてあるかを確認する） 津波警報発令に伴い、児童・地域住民が屋上へ避難したことを確認する。

60分	**4．防災学校をする。** 体育館に避難した児童、地域住民を対象に防災学校を開催する。 ・自主防災会長からの話 ・講話「地震、津波から命を守る大切なこと」 新潟大学准教授　安田浩保先生	資料 新潟県の地震・津波災害のパワーポイント 地震発生の仕組み 津波が起こる仕組み 新潟県の地震津波の被害
30分	**5．児童引き渡し訓練をする。** ・参加保護者へ児童を引き渡す。 （引き渡しカード７でチェックする） ・保護者不参加の児童は町内へ行かせる。 ・参加保護者の迎えが遅い児童は学校の本部に残す。 ・町内担当職員は町内名簿で確認する。 ・町内ごとに集団下校する。	**【ポイント】** 学校側は事前に参加保護者を確認しておき、町内名簿と引き渡しカードでチェックして確実に行う。 地域住民は町内ごとに集合し、保護者不参加の児童受入を確認してから帰る。

【授業実践の様子】

煙体験



消火体験



消防士体験



担架運搬体験



心肺蘇生・AED 体験



防災学習



避難訓練



防災学校



防災学校



６）新潟市立曽野木中学校区（江南区）

対象校：曽野木中学校、曽野木小学校、東曽野木小学校

①　中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第１回	平成 27 年 6 月 26 日 16：00～18：00 会場：曽野木中学校	・6/16 一斉防災訓練での実施内容について（情報共有） ・今年度の各校における防災教育について（情報共有・意見交換） ・10/18 実施の 3 校合同訓練の目的について（意見交換）
第２回	平成 27 年 8 月 24 日 15：00～16：30 会場：曽野木中学校	・各校における防災教育実践の進捗について（情報共有） ・10/18 実施の合同訓練　各校の活動内容について（情報共有・意見交換） ・小学校 2 校の実施プログラムについて（意見交換）
第３回	平成 27 年 11 月 6 日 16：00～17：00 会場：曽野木中学校	・各校における防災教育実践の進捗について（情報共有） ・10/18 合同訓練及び各校の学習に関するふりかえり 【東曽野木小】 訓練のふりかえりをした。11/20 は避難訓練（津波想定）、11/27 はオープンスクールの日。全校で防災学習に取り組む予定。 ・次年度以降の方針について（情報共有・意見交換） 【曽野木中】 必須 10 項目を 3 年間で実施。地域連携に関しては避難所をテーマとした項目でワークショップを考えている。 【曽野木小】 学校防災計画を見直し、既存行事とうまく関連させたい。 【東曽野木小】 今年度の内容を続けたい。6/16 に地震の語り部講話、フリー参観日に必ず防災学習をする。引き渡し訓練などを通して保護者の意識を上げたい。

②　各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
曽野木中学校区	平成 27 年 6 月 29 日	ヒアリング	前年度の合同防災訓練の実施状況を江南区安心安全係に地域の特性についてヒアリングし、今年度の学校地域連携合同訓練の方向性を事前に確認した。
曽野木中学校区	平成 27 年 7 月 10 日	ヒアリング	学校地域連携の地域担当者である自主防災会長の考えを確認するとともに、曽野木連絡所、東曽野木小地域教育コーディネーターと地域の課題を聞いた。
曽野木中学校区	平成 27 年 7 月 17 日	打ち合わせ	3 つの地区の各代表（自主防災会長、自治会長、消防団など）と 10/18 合同訓練の内容について話し合った。
曽野木中学校区	平成 27 年 8 月 18 日、9 月 9 日	打ち合わせ	災害避難訓練運営委員会に参加し、訓練当日の流れや運営方法について話し合った。 曽野木連絡所、江南区安心安全係、自主防災会長と訓練の詳細について検討した。
東曽野木小学校	平成 27 年 9 月 10 日	打ち合わせ	学習プログラムに関する打ち合わせ
曽野木小学校	平成 27 年 9 月 17 日	打ち合わせ	学習プログラムに関する打ち合わせ
曽野木中学校区（曽野木連絡所）	平成 27 年 10 月 5 日、14 日	資料提供	10/18 で使用する防災グッズチェックリストの印刷手配、調整
曽野木中学校区	平成 27 年 10 月 18 日	参観	3 校合同防災訓練を見学した。子どもたちは近くの避難所となる小・中学校へ避難し、DVD を視聴した後、地域の自主防災組織や自治会の役員から家庭での備えについて説明を受けた。その後自分の通う小・中学校へ移動し、各学校で訓練の振り返りや防災学習を行った。
東曽野木小学校	平成 27 年 11 月 27 日	参観	フリー参観日に合わせ行われた各クラスでの防災学習の様子を見学した。

【11/27 東曽野木小学校フリー参観日の様子】





学校名：新潟市立曽野木中学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・　信濃川と中之口川の合流付近に位置し、大正６年の「曽川切れ」で被害を受けた地域である。 ・　地盤がゆるいため、地震で液状化が起きた際には、道路が分断され、生活物資が入ってこない可能性がある。 ・　信濃川が蛇行する地点に隣接しているため、川を遡上してくる津波の影響を受ける可能性がある。
保護者・地域・教職員等の願い	・　生徒に「助けられる」立場から「助ける」立場となる意識をもたせる防災教育を実施したい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・　自分たちの住む地域にも災害は起こりうると意識し、安全な避難方法や防災についての知恵を身につけている生徒 ・　有事の際に、園児や小学生、お年寄りにも手を貸して一緒に避難できる生徒
補助交付期間に実施した主な取組	・　地震発生時を想定した避難訓練 ・　地域住民、保護者、小中学校の関係者が参加する曽野木地区避難訓練の計画に合わせた１日防災学習の日
自校プランの内容	・　中学校区で曽野木地区避難訓練を実施し、地域住民、保護者、児童、生徒で避難訓練及び防災訓練を行う。 ・　新潟県防災教育プログラム必須学習項目やジュニアレスキュー講習を取り入れた、３年スパンの防災教育計画を策定し、実施する。
自校プランを継続するための方策	・　曽野木地区避難訓練の日を、関係諸機関と調整して、前年度もしくは年度当初に優先的に位置づけていく。

２．新潟市立曽野木中学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
第１学年		ジュニアレスキュー講習	地震を想定した避難訓練				・曽野木地区避難訓練 ・県防災教育プログラムに基づいた防災教育			火災を想定した避難訓練		
第２学年												
第３学年												

3．曽野木中学校　防災教育指導例

中学校 **※洪－必須－7対応** **※土－必須－4対応**	**（学習のねらい）** 「曽野木地区避難訓練を通し、災害発生時当初の避難の仕方を知る」 　家族や地域の住民と共に一次避難所に集合して点呼を受け、最寄りの指定避難所（各学校）へ避難する 「洪水及び土砂災害から身を守るために、具体的な避難方法を知る」 　新潟市の洪水ハザードマップや新潟県の土砂災害発生状況を示す資料を見て地区の危険箇所を知り、状況に応じた具体的な避難方法を考える

	学習内容	資料や学習のポイント等
【曽野木地区避難訓練】	＜当日を迎えるまでの事前学習＞ ①　曽野木地区の災害発生時の避難所について ・曽野木地区の避難所マップを用いて、学校や自分の家の近くの避難所や避難経路を知る ・自分がどの自治会に所属し、一次避難所はどこにあり、指定避難所はどの学校になるのかを知る ・自宅から一次避難所、一次避難所から最寄りの避難所までのルートと危険箇所を知る ②　１０月１８日（日）曽野木地区避難訓練について ・地震の想定で訓練を実施し、曽野木地区の住民は指定避難所に避難することを知る ・地域の中学生として期待される姿を知る	【確認事項】 ○　自治会から全戸に配布された曽野木地区の避難所マップに関心をもつ ○　学区の小中学校は指定避難所となる ○　自宅から一次避難所及び一次避難所から指定避難所までのルートを家族と確認しておく 【確認事項】 ○　自宅にいる時に地震が発生した場合に集まるグループ（所属する自治会）の集合場所と集合時間 ○　PTA や町内会等と協力しながら、自治会長の指示で動く ○　お年寄りや幼児等の避難に力を貸しながら、率先避難者となってほしいことを伝える
	＜当日＞ ①　避難所受け入れ ・自治体単位で一次避難場所へ集合し、点呼 ・点呼後、最寄りの指定避難場所へ避難 ②　避難訓練のプログラム ・DVD 視聴を通して、防災意識を高める ・災害時に有効な備蓄品についての説明を聞く ☆　各学校での避難訓練終了後、全生徒が登校し、新潟県防災教育プログラムを活用した学習をする	【学習のポイント】 ○　災害のイメージをもつ ○　自分たちの住んでいる地域にも災害が起こりうることを知り、災害が身近なものとして捉える ○　各家庭で必要なものを備蓄しておくことの大切さを知る ○　地区の住民全員分の備蓄は無いことを知る ○　防災グッズリストを参考に、各家庭が最低３日分の備蓄が必要なことを知る

【洪水】	1．避難行動に関心を持たせ、学習のねらいを伝える 2．大雨の際の行動について想像させる 3．洪水の危険性と避難方法を考えさせる 4．学習してわかったことを確認させる ワークシートに「授業の感想」「避難時、避難先で中学生としてできること」を書く	【写真とグラフで提示】 【問いかけ】 一人で自宅にいるとき、大雨が降ってきて、市から避難勧告が発表されました。どのような行動をとりますか。→班で話し合い 【資料の提示】新潟市の洪水ハザードマップ 【問いかけ】 集中豪雨によって洪水が発生した場合、何に注意をして避難したらよいでしょうか。 →班で話し合い
【土砂災害】	1．土砂災害への関心を喚起させる 2．新潟県の実態を知らせる 3．ワークシートを用いて、「備える」「注意する」「早めに避難する」「危険を避ける」の４つの観点から身を守る行動について話し合いをさせる 4．授業を通じて学んだことや感想を書かせる	【図の提示】（がけ崩れ、土石流、地滑り） 【資料の提示】 ・　全国の土砂災害の発生状況と被害 ・　都道府県別土砂災害の発生件数 ・　新潟県における土砂災害の発生状況 【問いかけ】 ４つの観点で、土砂災害から身を守る行動について考えよう　→班で話し合い
【評価】	・　災害発生時当初の避難の仕方が理解できたか（ワークシートをもとに評価） ・　ハザードマップなどの資料から自宅周辺や学校周辺など、地域の洪水の危険性、自宅周辺や通学路周辺の避難場所を理解することができたか（ワークシートをもとに評価） ・　洪水及び土砂災害から身を守るために、具体的な避難方法を理解できたか（ワークシートをもとに評価）	

【曽野木地区避難訓練の様子】



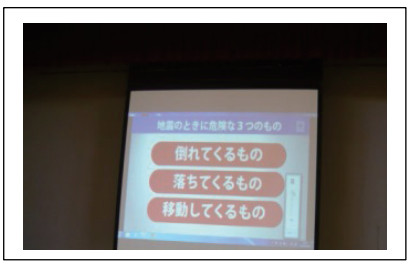
＜学区の住民が自治会ごとに集まって避難し、体育館に集合＞





＜全校一斉の授業＞

【板書例】（写真等　※黒板を使用していない場合は、スライド資料等を掲載）



学校名：新潟市立曽野木小学校

1．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	● 信濃川と中之口川の合流付近に位置し，大正7年の「曽川切れ」で被害を受けた地域である。そのため，総合等で地域の災害についての学習をしているが，ずいぶん昔のことであることや堤防等の改修で大きな脅威と感じていない。 ● 地盤が緩いため，地震で液状化が起きた際には，道路が分断され，生活物資が入ってこない可能性がある。 ● 信濃川が蛇行する地点に隣接しているため，川を遡上してくる津波の影響を受ける可能性がある。 ● 学区の集落の周りに広い田園が広がり，風を遮るものがないため冬期に地吹雪が発生しやすい。
保護者・地域・教職員等の願い	● 保護者には一般的な防災教育に関する期待はあるが，水害に関して特に強い要望はない。 ● 児童の当事者意識を持たせていくためにも地域と共に行う訓練や防災教育が必要だと考えている。
防災教育において、目指す児童生徒像	● 自分たちの住む地域に災害は起こりうることだと実感し，安全な避難の方法や防災についての知恵を意欲的に身に付けようとする子ども
補助交付期間に実施した主な取組	● 災害発生時を想定した児童引き渡し訓練を行った。 ● 地域の方から津波の実体験を聞く機会を設けた。 ● 地域の災害である「曽川切れ」について，地域の方からお話を聞いた。 ● 地域住民，保護者，小中学校による地域避難訓練を実施した。 ● 災害時を想定した家族の約束を保護者と共に作る機会を設けた。
自校プランの内容	● 中学校区で年間1回の地域防災訓練を実施し，地域住民，保護者，児童で避難訓練を及び防災教育を行う。 ● 各種の防災訓練と防災教育を関連づけて行う。
自校プランを継続するための方策	● 年度当初に，地域防災訓練の日を中学校区の各校と調整し，優先的に位置付けていく。 ● 各種訓練と関連づけた防災教育を，地域，保護者と連携して行っていくことで確実に実施されるようにしていく。

２．新潟市立曽野木小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
第１学年		児童引き渡し訓練					中学校区合同地域避難訓練 「災害時の家族の約束」リスト作成（全校）			雪害を想定し、地域の方とともに行う集団下校訓練		
第２学年												
第３学年			「曽川切れ」を含んだ信濃川を中心とした調査活動をする。（総合）									
第４学年											信濃川の恵みを中心とした調査活動をする。（総合）	
第５学年												
第６学年												

３．新潟市立曽野木小学校　防災教育指導例

小学校中学年 ※地－必須－2対応	（学習のねらい）**「地震からの身の守り方（学校外）を学ぶ」 ・一人でいるときの地震からの身の守り方を考える。 ・家族の約束事を考える。**

	学習内容（展開）	資料や学習のポイント等
【導入】	**1．一人でいるときに地震にあうことがあることを伝える。** ① 地震はいつ来るか分からないため，大人が周りにいない時にも起こる可能性があることを押さえる。 ② 学習のねらい「**一人でいるときでも，地震などの災害から身を守れるようになるためには、どうすればいいだろう**」をおさえる。	【といかけ】 ・地震が起こる場所や時間は決まっていますか。 【答え】 ・決まっていない。 ・いつ起こるか分からない。 **【ポイント】** ○ 一人でも，ちゃんと行動できるようするにはどうすればいいか。
【展開】	**2．家庭や街中における身の守り方について学ぶ。** ① ワークシートを配布し，イラストを見ながら，家や町中にいる時に地震が起きたらどのような危険があるのかを問いかける。	**【資料】ワークシート 02-1-①** 【といかけ】 ・ワークシートのような場所で地震があったらどんな危険があるか書きましょう。 【答え】 1)「自宅」…家具の転倒・ガラスの破片など 2)「町中」…落下物・自動車・電線の断裂など 3)「店」…棚の転倒・出口への殺到による将棋倒しなど
	② 危険箇所や危険なことを記入させ，どうすればいいか発表させる。	**【資料】ワークシート 02-1-②** 【ポイント】 ○事前にどんなところに危険がある予想しておくとよい。
	3．「家族との約束」を考える。 ① 家族と離ればなれになっているときに 1) **連絡の取り方を確認しておく。** 2) **相談できる近所の大人はいるか確認しておく。** 3) **家を離れて避難するとき，どこに伝言を書くか確認しておく。** 4) **家にいると危ないときはどこに避難するのか事前に確認しておく** ことが必要であることを知らせる。 ② チェックリストを配り，参観中の保護者にも児童と一緒にチェックしてもらう。	【といかけ】 ・家族が別れているときに災害があった場合の「家族の約束」は決まっていますか？ **【資料】「家族との約束」リスト** 【答え】 ・電話番号を知っている。 ・○○さんの家に行くことになっている。 ・特に決まっていない。 【ポイント】 ○離ればなれになっても困らないように日頃から準備しよう。

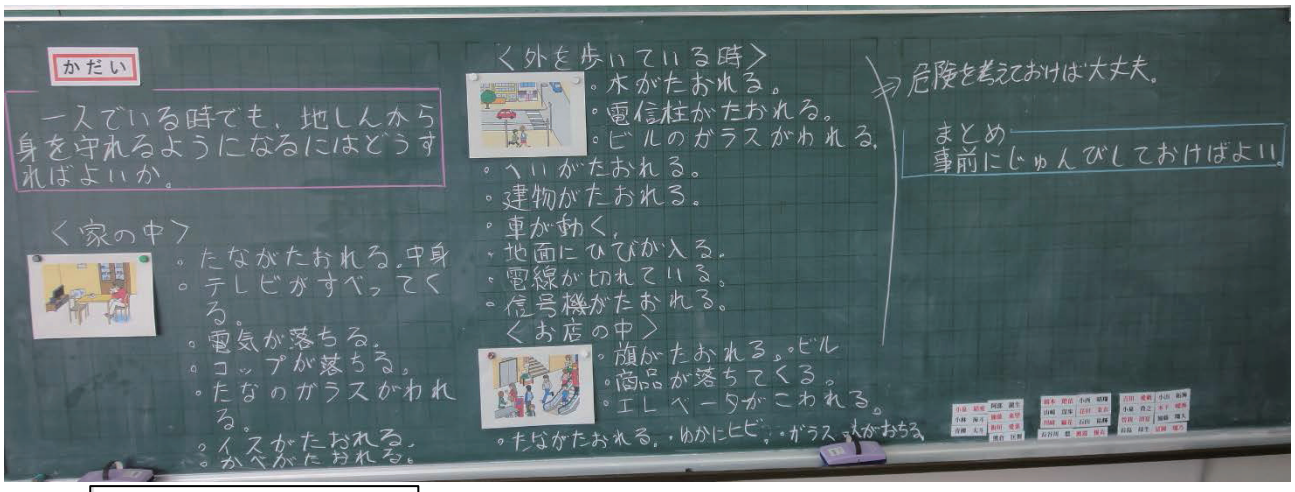
【まとめ】	**4．学習してわかったことを確認する** ① 学習のまとめ「自分と家族の身を守るためには，普段からの備えが大切である」ことを確認する。	**【ポイント】** ○ 「**日頃から訓練等を通じて、避難方法を確認しておく**」ことを確認する ○「**日頃から家庭でも災害時の約束を確認しておく**ことを確認する。
【評価】	・周りに大人がいない状態で災害に遭うことがあることについて理解できたか。 ・それぞれの場所の危険性に気付き，そこにあった身の守り方を理解することができたか。 ・離ればなれになった家族と連絡を取るために普段から準備が必要であることを理解できたか。	

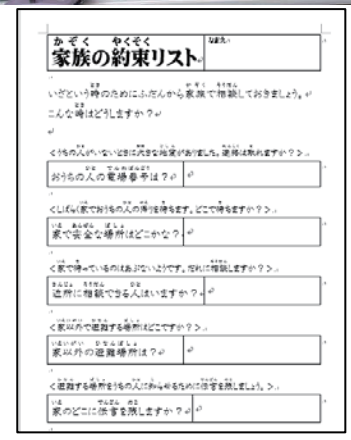
【授業実践の様子】





【板書】





＜家族の約束リスト＞

＜かぞくのやくそくは？＞

おうちのひとのでんわばんごうは？

いえであんぜんなばしょは？

ちかくにそうだんできるひとは？

うちからひなんするとしたらどこに？

どこにでんごんをかきますか？

＜家族の約束を保護者とともにチェック＞

学校名：新潟市立東曽野木小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

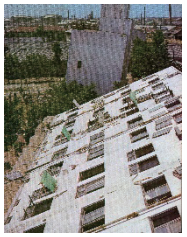
学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・当学区は，亀田郷の海抜０ｍ地帯にあり，集中豪雨による床下浸水が発生しやすい地域である。大正６年の曽川切れによる大洪水では広い範囲で大きな被害を受けている。集中豪雨だけでなく，地震による津波が信濃川を上ってきた場合も水が堤防を越えて人家に押し寄せてくる被害が想定される。
保護者・地域・教職員等の願い	・地域住民からは水害に限らず，災害が起こった場合に備えて，中学校区全体でそれぞれの避難所へ避難する訓練を実施したいという要望がある。教職員のほとんどは，水害はもちろん，避難所への避難訓練の経験がないので，地域とともに避難訓練を実施し，災害時に備えたいと考えている。
防災教育において、目指す児童生徒像	・自分たちの住む地域の様子や水害の歴史について知り，安全な避難の方法を身に付けるとともに，地域の防災に主体的に貢献しようとする子ども。
補助交付期間に実施した主な取組	・年度初めに，保護者への児童引き渡し訓練を実施。（保護者が来校しやすい土曜日のフリー授業参観日の放課後に実施。） ・授業参観日に全学級で防災教育の授業を実施した。 （６月と１１月の年２回） ・中学校区三校合同防災訓練を実施。（最寄りの３つの避難所へそれぞれ避難して，実際の避難経路を確認した。） ・津波を想定した避難訓練で，ＰＴＡ役員と保護者にも参加を呼びかけ，児童と一緒に屋上へ避難する体験を実施。
自校プランの内容	・中学校区で年間１回の地域防災訓練を実施し，地域住民，保護者，児童で避難訓練及び防災教育を行う。 ・授業参観日に，防災教育の授業を２回実施し，児童だけでなく保護者にも防災意識をもたせるようにする。
自校プランを継続するための方策	・年度当初に，地域防災訓練の日を中学校区の各校と調整をし，年間行事予定に優先的に位置付ける。 ・各種訓練に保護者や地域の人が関わる部分を設け，学校だけでやっているのではなく，地域と連携して訓練を実施していくという意識をもたせる。

２．新潟市立東曽野木小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	４月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第１学年			・保護者への児童引き渡し訓練の実施	・授業参観日に防災教育の授業を公開（一回目）			・中学校区三校合同防災訓練の実施	・授業参観日に防災教育の授業を公開（二回目）	・保護者と児童による津波想定避難訓練の実施（屋上避難）			
第２学年												
第３学年												
第４学年												
第５学年												
第６学年												

３．新潟市立東曽野木小学校　防災教育指導例

第1回 小学校5学年 45分	（学習のねらい） 過去の災害を知り，今できることを考える。

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】 15分	**１．新潟地震の概要について説明する** ①　新潟地震で新潟市はどんな被害に遭ったのかを，写見を見て知る。 ②　新潟地震についての○×クイズを３問出題し，被害の様子の写真を見せ，詳しい説明をする。 **１）作ったばかりの橋がこわれた** **２）４階建てのアパートがひっくり返った** **３）津波は来たが，街の中までは来なかった**	【問いかけの例】 ・　新潟地震のような大きな地震が起きると，その後の街の中はどうなると思いますか？ 【想定される答え】 ・　津波が来る。 ・　火事が起きる。 ・　建物がこわれる。　など **【資料】昭和大橋が壊れた写真** **【資料】川岸町の県営アパートが倒れた写真** **【資料】津波が信濃川河口を上り，周辺地帯に水が押し寄せている写真**
【展開】 25分	**２．地域に住む新潟地震体験者からお話を聞く** ①　校区内に住んでいる新潟地震被災体験者（ゲストティーチャー）から当時の様子を話してもらい，実際にどんな大変なことがあったのかを知る。最後に子どもたちから質問をする形態をとり，ボランティアの方との交流活動をする。 ＜質問項目＞ １）地震が起きたときは何をしていたか ２）地震が起きた時の周りの様子はどうだったか ３）どうやってどこに避難したか ４）災害に備えて何か備えをしていたか ５）地震体験から得た教訓のようなものはあるか **３．災害に備えて，今できることは何か考える**	※　５１年前の新潟地震当時には２３才で，まだ会社勤めをしたばかりだったという，地域ボランティアの方に依頼した。 ※　事前に質問項目については知らせておいた。 ※　当時の写真を使って具体的な話もしてもらった。    ※新潟地震の記録「自然との半月の記録」 新潟日報社１９６４年８月１日発行　引用 【問いかけの例】 ・　災害に備えて，今どんなことができるでしょうか？今聞いたお話をもとに考えてみましょう。 【想定される答え】 ・　カンパンや水などの食糧を備える ・　家族で集まる場所を決めておく。 ・　ガスの元栓はしっかり閉めるようにする。など

【まとめ】5分	**4．学習してわかったことを確認する** ①　ワークシートに，授業で学習したこと（まとめ）とゲストティーチャーの話を聞いて感想を書かせる。	**【資料】ワークシート**
【評価】	・地震の怖さを知り，５１年前の新潟地震についての知識を深められたか。 ・災害から自分の身を守るために，普段からの備えの大切さが理解できたか。 ・普段から家族と，いざという時の避難場所や集合場所について約束しておくことの大切さが理解できたか。	

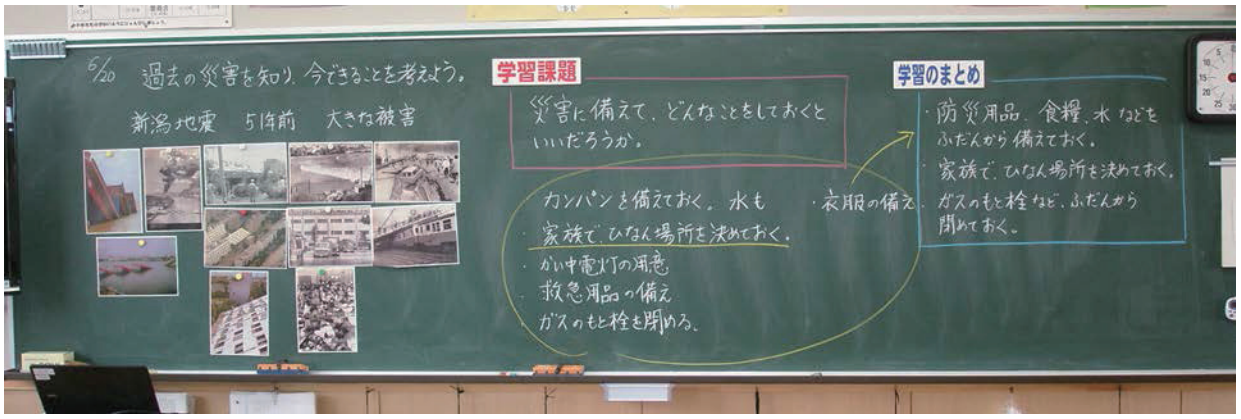
【授業実践の様子】







【板書例】



【授業後の子どもの反応】（５年生ワークシートより抜粋）

・新潟地震の被害が，こんなにもすごかったことを知って驚きました。
・作ったばかりの橋が壊れたり，アパートが倒れたりした写真を見て驚きました。
・災害に遭うと，日常の生活がくずれてしまうので本当に大変だと思いました。
・地震はいつ起きるかわからないので，家族で避難場所や集合場所を相談して決めておくことが必要だと思いました。
・体験談を聞いて，地震が起きた時には危険な所には近寄らないことが大切だと思いました。
・地震の後，水が配給になったり銭湯のお湯が足りなかったりですごく不便だったと聞いて，普段から水を大切にしなければならないと思いました。
・いざという時に備えて，家族でいろいろなことを話し合っておきたいと思いました。
・防災用具や非常食などを普段から備えておくことが大切だと思いました。
・実際に新潟地震を体験した方からお話を聞いて，新潟地震の恐ろしさを知りました。避難所の生活も大変だったと思います。

7）新潟市立両川中学校区（江南区）

対象校：両川中学校、両川小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第1回	平成27年6月12日 15：30～17：00 会場：両川中学校	・5/14のふりかえり ・今年度の各校における防災教育について（情報共有） ・地域連携について（意見交換）
第2回	平成27年8月27日 13：30～14：30 会場：両川小学校	・各校における防災教育実践の進捗について（情報共有・意見交換） 【両川中学校】 10/28に雪災害に関する防災学習をしたい。専門家を紹介し、後日打ち合わせ予定。 【両川小学校】 10/25にふたかわ祭がある。子どもたちの学習成果の中間発表をし、保護者へも意識啓発を図る。 ・自校化へ向けた工夫について（意見交換） 総合学習と同じ位置づけで実践可能。
第3回	平成27年11月19日 15：00～16：00 会場：両川小学校	・各校における防災教育実践の進捗について（情報共有・意見交換） ・需用費の使い方について（情報共有） 【両川小】 ふたかわ祭で発表でき良かった。 【両川中】 なしっこレスキューの旗の製作費や、講師謝金で使えたのでよかった。次年度はこの旗を使用して、各地区の防災訓練に中学生が参加するよう促したい。

② 各学校へのサポート事例

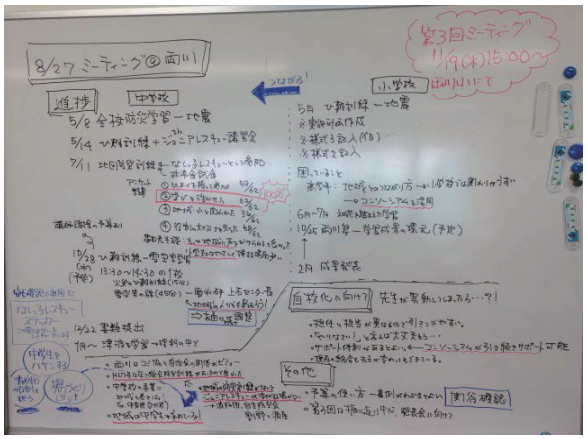
対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
両川小学校	平成27年6月12日	打ち合わせ	今年度の総合学習での展開を考え、テーマを設定した。年度内の実施内容・詳細は、今後詰めていく。
両川小学校	平成27年6月26日	講座実施	防災学習第1回目。DVD視聴のあと、困ること、困る人を具体的にイメージするWSを実施した。
両川中学校	平成27年7月11日	参観	地域総合防災訓練で「なしっこレスキュー（昨年度からの取組）」を見学。AED、毛布担架、炊き出しなどで中学生が活躍した。

両川小学校	平成 27 年 7 月 14 日	講座実施	ヒアリングした結果を元に、自分たちができることをグループワークで考える。 各班にファシリテーターが入り、付箋紙を用いて考えた。
両川小学校	平成 27 年 7 月 21 日	打ち合わせ	今後の取組の展開と文化祭の発表方法について
両川中学校	平成 27 年 9 月 2 日	打ち合わせ	10/28 実施の雪災害に関する防災学習についての打ち合わせ。当日プログラム内容等を検討した。（講師も参加）
両川小学校	平成 27 年 10 月 25 日	参観	ふたかわ祭（文化祭）での学習発表を見学した。
両川中学校	平成 27 年 10 月 28 日	参観	専門家による雪災害をテーマとした防災学習を見学した。
両川小学校	平成 27 年 11 月 26 日	サポート	リーフレット作成に向けての授業サポートを実施した。 各班で設定したテーマと今までの学習内容を掘り下げ、リーフレットに載せる内容の精査を行い、リーフレットのレイアウトを考えた。

【7/11　両川中 地域合同訓練での様子】



【8/27 第２回中学校区 MTG の記録】



【10/25 両川小 ふたかわ祭での発表の様子】



【10/28 両川中 雪災害防災学習の様子】



学校名：新潟市立両川中学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・信濃川と小阿賀川の合流地点に学校がある。この地域では、１７５７年に「和田切れ」という堤防の決壊を経験している。 ・近年は豪雨が頻繁に起こり、この２つの川の増水により、水害の危険も想定される。 ・学校は海抜２ｍの地点に建っている。
保護者・地域・教職員等の願い	・水害をはじめ、様々な災害に対する知識を身に付け、自分の命は自分で守れるようになって欲しい。また、中学生の立場や役割を考え、地域の一員として地域貢献できる生徒になって欲しい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・災害発生時において安全に避難するとともに、「なしっ子レスキュー隊」（ジュニアレスキュー隊の学校での愛称）の一員として、地域の防災に主体的に貢献しようとする生徒。
補助交付期間に実施した主な取組	・小中合同避難訓練 ・江南区ジュニアレスキュー講習会 ・両川地区防災訓練
自校プランの内容	・県防災教育プログラムの中学校学習必須項目６つおよび『自然の恵』について３年間を１サイクルとして在学中にすべてを学習する。 ・全校生徒が「なしっ子レスキュー隊」となり、地域の防災に貢献できるようにする。 ・年２回の避難訓練に合わせて、レスキュー訓練を行う。 ・地域の防災訓練には、可能な限り生徒を参加させる。
自校プランを継続するための方策	・両川中学校防災教育実施計画に基づき、計画的・組織的に活動を進める。 ・消防署、地域の消防団、自治会、およびＪＲＣなど外部機関との連携を図る。

２．新潟市立両川中学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
第１学年	５月８日 **全校防災学習** **『地震災害』** ・地震の特徴、発生状況に応じた身の守り方、避難の仕方、自分の地域で発生したらということなどを考える。（１時間）		５月１４日 **『小中合同避難訓練』** ・地震を想定して、小中それぞれで一次避難後、小学校体育館へ二次避難し、地区ごとに点呼をとる。（１時間） **『ｼﾞｭﾆｱﾚｽｷｭｰ隊育成講習会』** ・心肺蘇生法、応急手当、応急担架の訓練を行う。（２時間）	７月１１日 **『両川地区防災訓練』** ・「なしっ子ﾚｽｷｭｰ隊」として、消防署員や消防団員とともに、心肺蘇生法、応急手当、応急担架の体験訓練の指導を地域住民の方に対して行う。非常食の試食品配付を行う。（３時間） ★平成２７年のみ		１０月２８日 **『避難訓練』** ・火災を想定して、指示に従い、安全な場所に避難する。（２０分） **全校防災学習** **『雪災害』** ・雪災害の特徴、発生状況に応じた身の守り方、避難の仕方、自分の地域で発生したらということなどを考える。（３０分）			１月**『津波災害』** ・発生のメカニズム、津波災害の特徴、発生状況に応じた身の守り方、避難の仕方、などを考える。（理科３０分）		
第２学年												
第３学年										１月**『津波災害等自然災害』** ・発生のメカニズム、発生状況に応じた身の守り方、避難の仕方、自分の地域で発生したらということなどを考える。（理科３０分）		

※３年間を１サイクルとして、新潟県防災教育プログラムの中学校学習必須項目をすべて学習する。
（１年目：『地震災害』『雪災害』、２年目：『土砂災害』『自然の恵』、３年目『洪水災害』『原子力災害』、理科で『津波災害』）

3．新潟市立両川中学校　防災教育指導例

中学校 ※雪ー必須ー7対応	（学習のねらい）**「様々な雪の災害事例から対策を考える」** **・雪による災害の種類と特徴について考える。** **・雪の災害事例から防止するための対策を考える。**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	**1．雪災害について学習すること知り、雪に対するイメージをふくらませる**	
	① 雪に対して、どのようなイメージをもっているか、思いつくことをたくさん書き、発表する。	○悪い面だけでなく良い面もあることに気付かせる。 【想定される答え】 ・寒い、冷たい、白い、雪かき ・スキー、雪合戦、クリスマス
	② 雪による災害にはどんなものがあるか、知っていることをすべて書く。	○地域柄、雪災害についての知識は少ないと考えられるが、この段階ではあまり深入りはしない。 【想定される答え】 ・雪崩、スリップ事故、雪下ろし中の事故
【展開】	**2．ゲストティーチャーの話を聞きながら、雪災害の種類や特徴、それらを防止ための対策について考える**	**【資料】雪災害の種類と特徴（スライド）** **・降雪のメカニズム** **・県内の積雪状況** **・雪災害の写真**
	① 雪による災害の種類と特徴について、気付いたことを書く。	○自分たちの住んでいる地域でのようすと比較させる。 【想定される答え】 ・地吹雪、雪崩、落雪、雪下ろし事故、転倒、交通事故。 ・けがだけでなく命に関わることもある。 ・この両川地区でも起こりうる。
	② 雪による災害や事故を防ぐために、どのような対策をしているか考える。	○身の回りやスライドから雪害対策を見つける。 【想定される答え】 ・消雪パイプ、屋根の雪止め、防風柵、用水柵、道路のスノーポール、かんじき
	3．雪災害から自分の身を守るために、どのような行動をとればよいか考える	
	① 雪による災害から自分の身をまもるために、気をつけなければならないことを考える。	○雪災害の恐れがある場所にいることを想定して考えを書かせる。 【想定される答え】 ・屋根の下に行かない、車との間隔を保つ、ゆっくり歩く、滑り止めのついた長靴を履く、吹雪のとき外に出ない

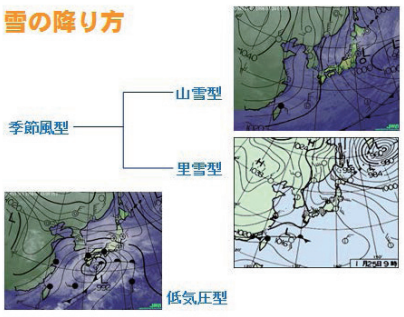
【まとめ】	**4．学習のまとめをする。** ① 気付いたことや分かったこと、感想などを書かせて、発表しあう。	○授業の前後での、雪災害に対する知識や意識の変化に気付かせるようにする。 【想定される答え】 ・雪にはプラス面とマイナス面がある。 ・この地域ではあまりない雪災害があった。 ・身近なところに雪対策があることに気付いた。 ・雪の多い地域へ行ったとき、学んだことを生かしたい。
【評価】	・雪災害には様々な種類があることが理解できたか。 ・雪災害を防ぐために、身近なところにも様々な対策が行われていることに気付くことができたか。 ・雪災害を身近なものとしてとらえ、自分にできることを書くことができたか。	

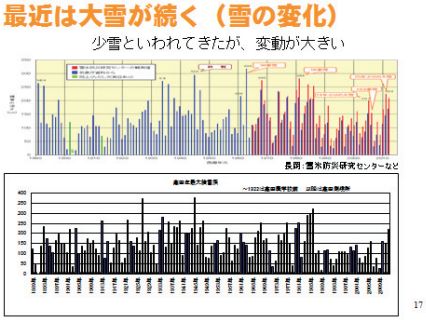
【授業実践の様子】





【板書例】（写真等　※黒板を使用していない場合は、スライド資料等を掲載）

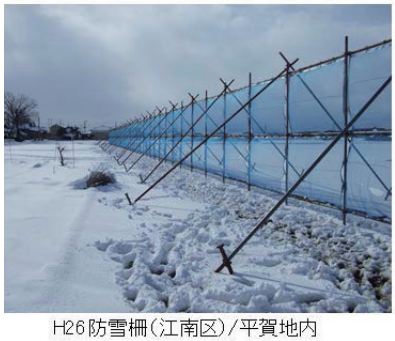









江南区元町地内 狭い道路を歩く児童

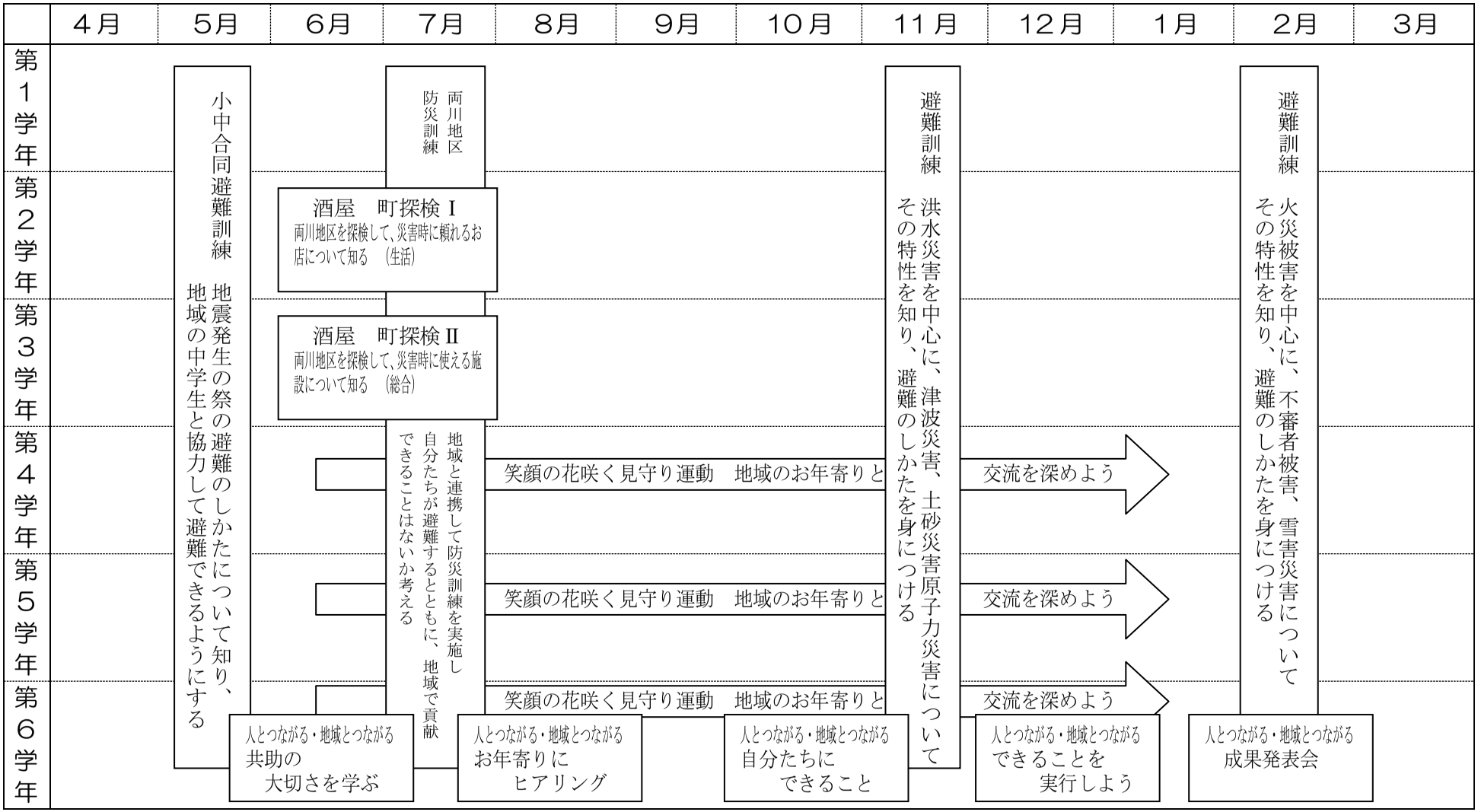

H26防雪柵（江南区）/平賀地内

学校名：新潟市立両川小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	両川地区は信濃川、小阿賀野川という大きな河川に接し、常に水の害を想定しなければいけない地域である。 以前この地区では２つの川が交わる和田地区で「和田切れ」という水害を経験し、地域で記憶しているお年寄りもいる。 また、数年前の夏休みには学校の前の道が大雨により川のような状況になり、家からでられない状況が数時間続いたこともある。
保護者・地域・教職員等の願い	東日本大震災の時には両川小学校も長時間にわたり揺れを感じ､集団で下校することを余儀なくされた。その際には学校職員が家の近くまで送り届けたり、心配して迎えに来てくれた保護者に児童を預けたりして安全を確保した。しかし、いつでもそのような対応ができるわけではなく、最終的には自分の身を自分で守ることができるようにさせたいと願っている。
防災教育において、目指す児童生徒像	自分たちの住む地域の特性や起こりうる災害について知り、自分の身は自分で守れるように、安全な避難のしかたを身につけるとともに、地域のお年寄りの避難にも貢献しようとする態度を養う。
補助交付期間に実施した主な取組	昨年度、平成２６年度は地域の様子、過去の災害について学習し、災害時にはどのような危険があるかを知るとともに、安全な場所、災害時に役立ちそうなものを記した防災マップを作成した。 今年度は災害時に一番に困るお年寄りに対して自分たちができることはないか考え共助の大切さを学んだ。また、お年寄りにヒアリングを行い、災害時に困ることや心配なことをお聞きし、自分たちができることは何か考えた。 中学校区で実施される防災教育の体験訓練に参加し、地域と行動することをとおして、自分たちにできることや自分たちがしなければいけないことを学んだ。
自校プランの内容	中学校区で地震を想定した避難訓練を実施し、その後、地域の中学生と交流することを通して、地域の一員であることを自覚するとともに、進んで自分にできることをやろうとする態度を養う。 また、中学生と一緒に地域のクリーン作戦を実施して地域の一員であることを意識させたり、「笑顔の花咲く見守り運動」で地域のお年寄りと交流し、地域の人の願いや、地域で自分ができることについて考えさせたりする。
自校プランを継続するための方策	４・５・６年生を中心に「笑顔の花咲く見守り隊」を結成し、毎週、地域のお年寄りの家を訪問し交流を深める。その中でお年寄りや地域の人の願いを知る。 小中合同の避難訓練や小中合同の地域クリーン作戦は年度当初、両校で日程の調整を行って実施する。

2．新潟市立両川小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画



３．新潟市立両川小学校　防災教育指導例

小学校高学年 ※地－必須－3対応	（学習のねらい）**「日常生活の中の防災を考え、自分たちができることを知る」** **・人とつながる・地域とつながる**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	**１．「きおくみらい」の映像を見る** ① 地震で困ることは何か、大切なことは何か、考えながら映像を見る。	【といかけの例】 ・新潟地震の映像を見ます。 地震で困っていることは何か考えながら映像を見ましょう。 **【ポイント】** ○ 自分のことだけでなく、周りの人の様子にも気をつけながら映像を見させる。
【展開】	**２．困っている人は誰か考える** ① 地震の際に一番困っている人は誰か考える。	【といかけの例】 ・映像の中で一番困っていた人は誰でしょう？ 【想定される答え】 ・お年寄りの人。子ども。病気の人。
	② 身の回りにそのような人はいないか考える。	【といかけの例】 ・みなさんの周りにはそのような人はいませんか？ 【想定される答え】 ・自分の家にもいる。 ・「笑顔の花咲く見守り運動」で行っているお年寄り。 **【ポイント】** ○ 映像の中の他人事としてみるのではなく、自分たちの身の回りにそのような人はいないか考えさせる。
	３．お年寄りは何に困るか考える ① 映像を元に、お年寄りは何に困りそうか考える。	【といかけの例】 ・お年寄りは何に困りそうかな？ 【想定される答え】 ・何を準備すればよいか分からない。 ・避難生活が不安。助けてくれる人がいない。

【まとめ】	**4．地域のお年寄りに聞くことをまとめる** ① 自分たちにできることを考えるため、地域のお年寄りが何に困っているか聞く内容を考える。	【といかけの例】 ・何に困っているか知るために、地域のお年寄りに何を聞けばよいかな。 【想定される答え】 ・避難場所を知っていますか？ ・避難生活で心配なことは何ですか？ ・他に困りそうな人はいますか？
【評価】	・災害時は自分が避難するとともに、助け合って避難することが大切であることが理解できたか。 ・地域の一員として自分にできることは何か考えることができたか。	

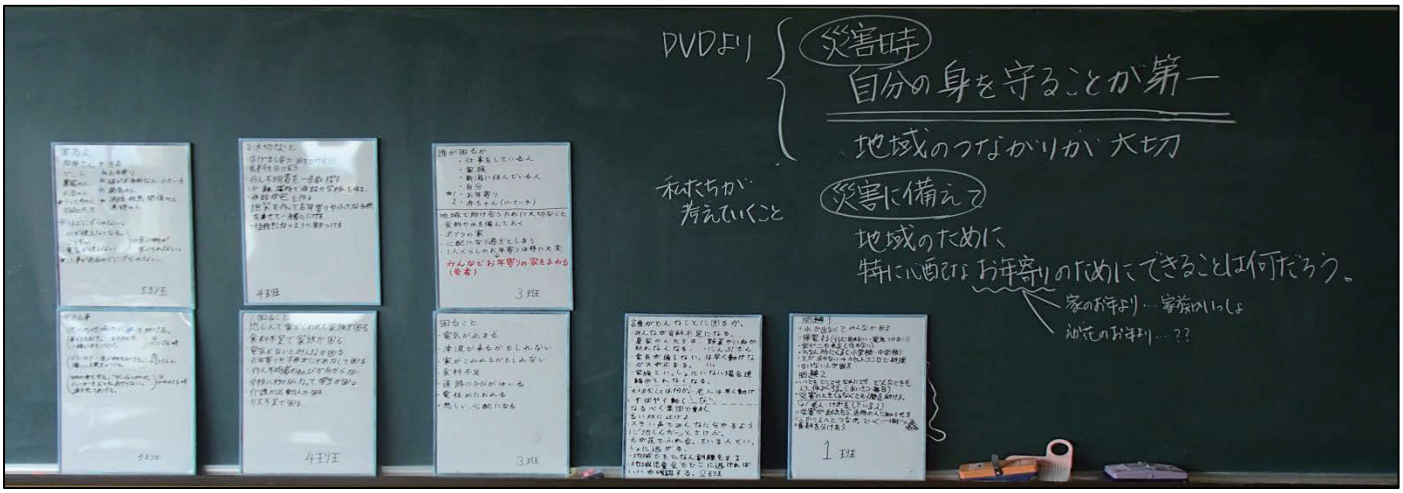
【授業実践の様子】



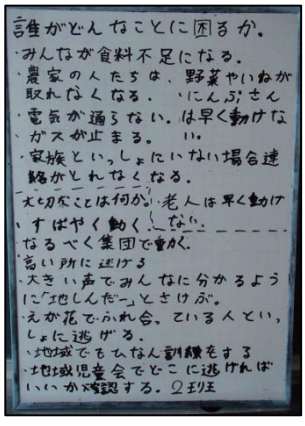


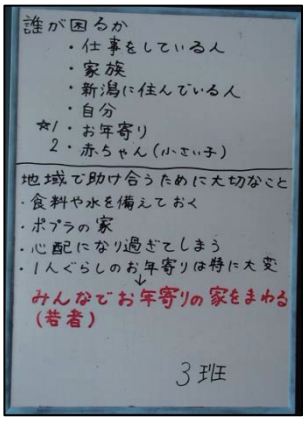


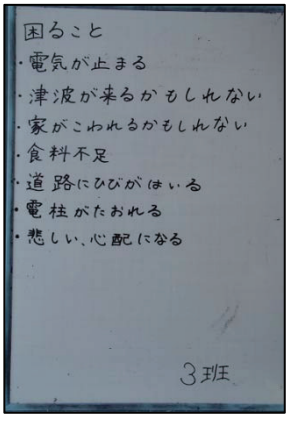
【板書例】

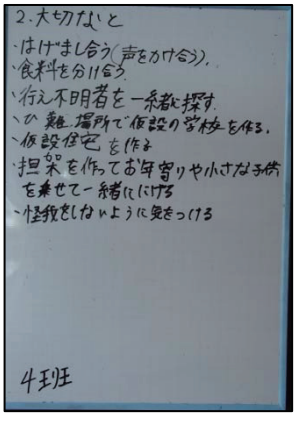


【児童の考え】









８）新潟市立小須戸中学校区（秋葉区）

対象校：小須戸中学校、小須戸小学校、矢代田小学校
オブザーバー：秋葉区総務課

①　中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

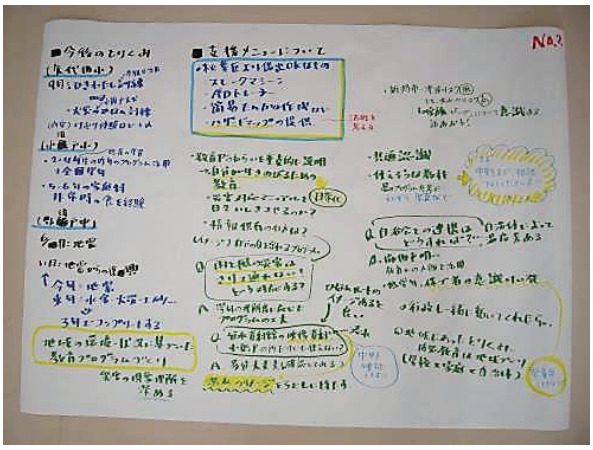
	実施日・会場	検討内容
第１回	平成 27 年 6 月 29 日 15：00 ～ 16：30 会場：小須戸中学校	・5/14（木）研修会の振り返り ・各校の 6/16（火）全市一斉避難訓練の取組について（情報共有） ・各校の今後の防災教育の進め方について（情報共有） ・行政の支援メニューについて（情報提供） ・中学校区ミーティングの進め方について（意見交換）
第２回	平成 27 年 9 月 29 日 15：00 ～ 16：30 会場：小須戸中学校	・各校の防災教育の計画及び進捗について（情報共有） ・防災教育に関する教材紹介 ・他の中学校区の取組について（情報共有）
第３回	平成 27 年 1 月 14 日 15：00 ～ 16：30 会場：小須戸中学校	・各校の自校化プランの共有（情報共有） ・各校の具体的な実践事例の紹介（情報共有・意見交換）

②　各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
全校	平成 27 年 7 月 30 日	資料相談	国土交通省北陸地方整備局　信濃川河川事務所にシミュレーション教材の提供について相談した。 ※著作権の関係もあり、提供不可
全校	平成 27 年 9 月 29 日	資料提供	秋葉区避難ガイドブック及び小学校区の防災カルテを配布した。
小須戸中学校	平成 27 年 11 月 4 日	参観・ヒアリング	地震災害からの復興を題材に、災害の現象理解とその被害について理解を深め、自分たちにできることを考える学習を実施した。 今後は東日本大震災の被災地のために、自分たちにできることを生徒会活動として取り組む。
全校	平成 27 年 11 月 4 日	資料提供	昨年度の小須戸小学校での実践に関する資料データを提供した。

【第１回小須戸中学校区ミーティングの様子】

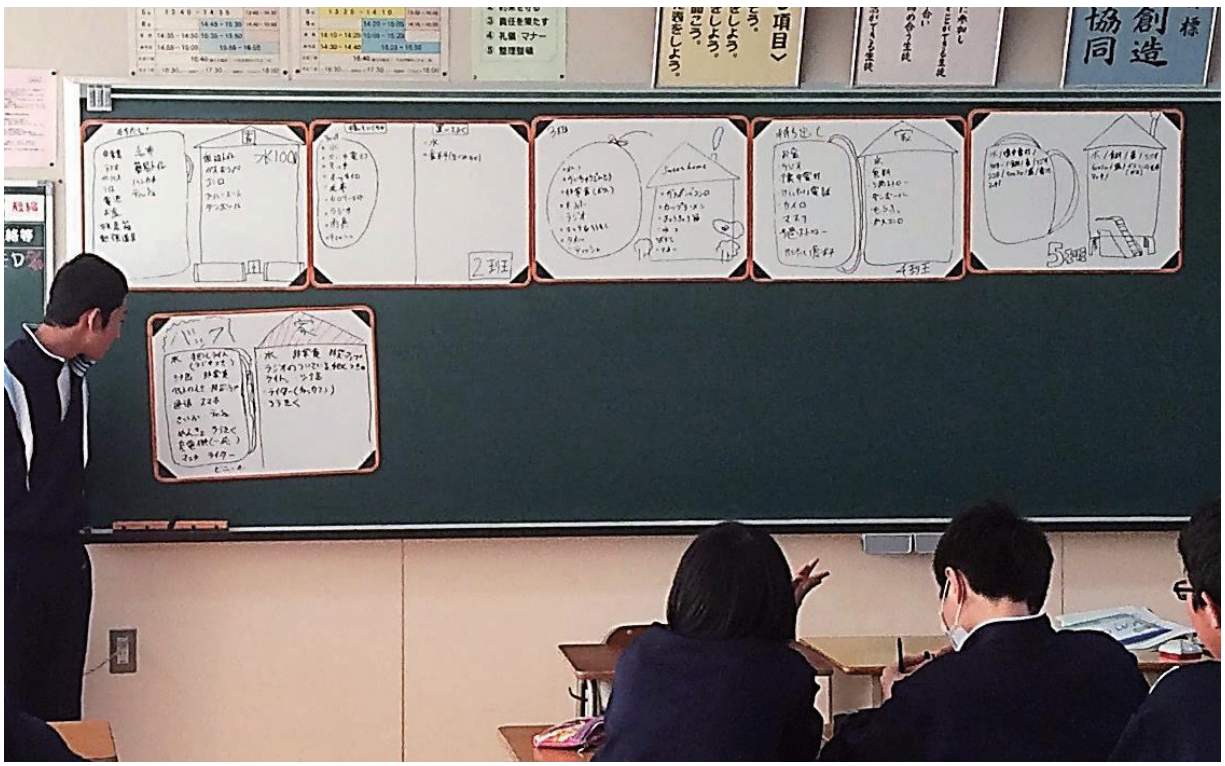




【11/4 小須戸中学校の授業の様子】







学校名：新潟市立小須戸中学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	全校生徒２５９名、各学年３クラス、特別支援学級２クラスの計１１クラスで構成されている。素直で優しい心をもった生徒が多く、全体的に落ち着いている。 小須戸地区と矢代田地区の二地区から構成されており、小須戸地区は信濃川流域にあり、小須戸橋付近では川の氾濫が危惧される。昔ながらの町屋が保存されている伝統がある。何度かの大火をしのいでいる。矢代田地区には里山があり、土砂災害が心配される。
保護者・地域・教職員等の願い	様々な災害に関する知識を身につけ、自分で自分の身を守ることができるようになってほしい。 地域の中では、有事の際には救助者・支援者として期待されている。
防災教育において、目指す児童生徒像	様々な災害を知り、それぞれの災害に対して正しい判断をもち、自分の身を守ることができる生徒。 様々な災害に見舞われた人の情況を理解し、寄り添って考え、誰かのために何かをしようという行動力を起こせる生徒。
補助交付期間に実施した主な取組	新潟地震に関連して、全校同一の指導案で授業を実施。地震発生直後の動きを考えた。 東日本大震災発生時の避難や現在の復興状況について学び、自然災害に備えた緊急持ち出し用具や家庭内の備蓄について考えた。 被災地児童生徒の置かれている状況を知り、学習の教材であるどんぐりや松ぼっくりを集め、福島の小学校に送った。
自校プランの内容	全校同一の指導案で年二回授業を実施し、三年間で県の防災教育プログラムを全て網羅するように考えている。（今年度：地震、津波　来年度：土砂災害、火災　再来年度：雪災害、洪水）
自校プランを継続するための方策	自校化初年度になるが、今年度の活動を検討し、来年も総合的な学習の時間の年間予定に位置づけ、より実態に合った活動として継続していきたいので、今年度の流れを文書化し、来年度以降も同じ流れで出来るようにする。

２．新潟市立小須戸中学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
第１学年			６月１５日（月） 全校同一指導案で ① 新潟地震に関して学ぶ。 ② 地震が起きてすぐにどのような行動をするのが望ましいかを考える。 という授業を実施。 その後、新潟地震発生日１６日（火）に地震を想定した避難訓練。			１１月４日（水） 全校同一指導案で ① 東日本大震災の被災地の現状を知る。 ② もしもに備えての家庭での備えと非常用持ち出し品に何があるといいか考える。 ③ それらを踏まえて、自分のため、人のために何ができるか考える。		１１月７（月）～３０（月） 誰かのために何かをしようと、被災地（福島県浜通りの小学校）のためにどんぐりや松ぼっくりを全校で集める。 １１月１３日（金）避難訓練 火災に関して全体指導。			
第２学年												
第３学年												

３．新潟市立小須戸中学校　防災教育指導例

A－１ **中学校** **※地－必須－５対応**	（学習のねらい） ● **災害に備えてどのようなものを備えるとよいのか考える。** ● **東日本大震災や中越地震からの復興について知る。**

	学習内容（展開例）	**資料や学習のポイント等**
【導入】	**１．身近な災害に関して思い出す** ① 新潟で起きた災害 ② 東日本で起きた災害 ③ 東日本大震災でまだ解決していない問題 ④ 小須戸から一番近い原子力発電所 ⑤ 小須戸中と柏崎刈羽原発までの距離 ⑥ 福島の同じくらいの距離のところ、原発周辺、海岸線の現状を知る。	【といかけの例】 ① 新潟で起きた災害にはどのようなものがあったでしょうか ② 視点を広げて、東日本で起きた災害にはどのようなものがあったでしょうか。 ③ 東日本大震災でまだ解決されていない問題にはどのようなものがあるでしょうか。 【想定される答え】 ① 新潟地震、中越地震、中越沖地震、7.13 水害 ② 東日本大震災、茨城の水害 ③ 津波、がれきの撤去、原子力発電所問題 **【ポイント】** ○小須戸中と柏崎刈羽原発との直線距離（55.9ｋｍ）と同じような福島県の地域ではどのような現状なのか、原子力発電所近辺ではどのような現状なのか写真資料（2015 年 9 月撮影）で視覚的にも確認する。
【展開】	**２．避難生活について知り、いざというときの持ち出しや備蓄にはどのようなものがあるといいか考える。** ① いざというときに備えてどのようなものがあると便利か考える。（班活動） ② ①で考えてものを家庭に備えておくものと非常用の持ち出しに分ける（班活動） ③ 各班の考えを発表する。	【といかけの例】 ・もしものときに、あると便利なものにはどのようなものがあるでしょう。 ・各班が家庭。班長はお父さんまたはお母さん（一家の大黒柱）として、話し合いを行ってください。 【想定される答え】 ・ろうそく　・懐中電灯 ・食料　・水
	３．非常時の備えにあるといいものの紹介	**【資料】長岡震災アーカイブセンターきおくみらい** **防災グッズチェックリスト**

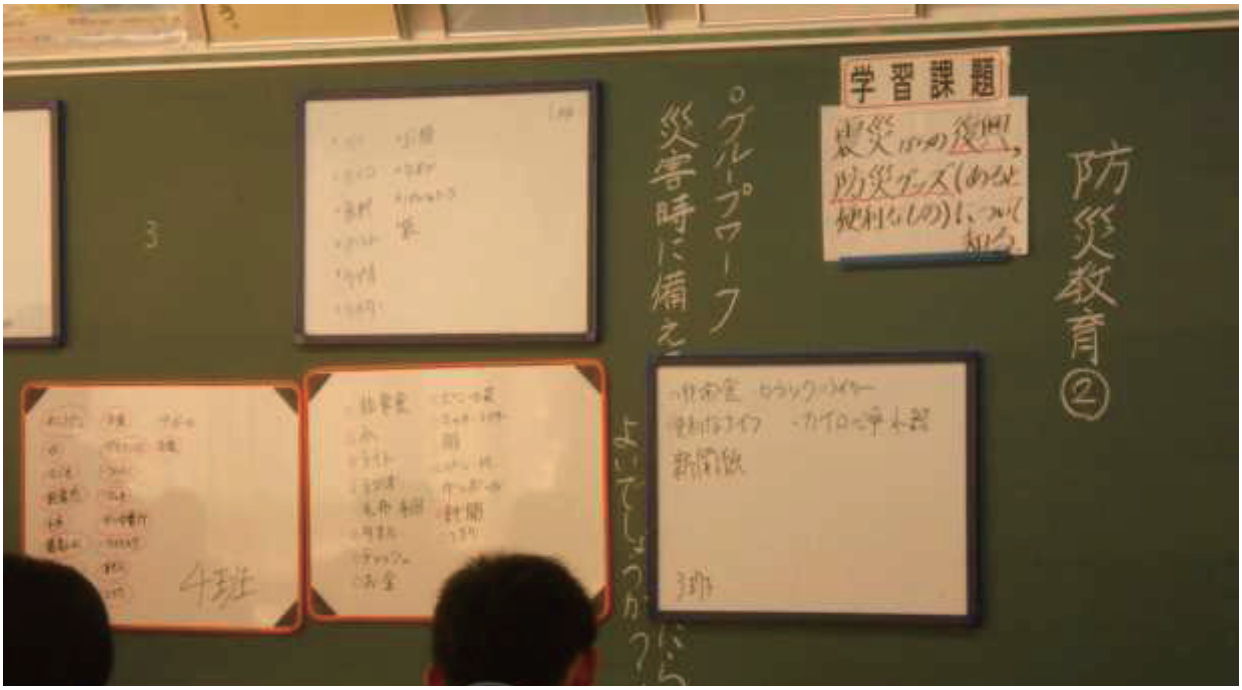
【まとめ】	**4．本時で学んだことをもとに、自分のために出来ること、困っている人のために出来ることをワークシートに記入する。**	**ワークシート** **【ポイント】** この後、全校で被災地支援のための活動を行うので、自分だけでなく、他の人のために動こうという気持ちをもたせる。
【評価】	・非常用持ち出しや家庭用の持ち出しについて考える。 ・様々な災害について知り、自分は何が出来るか考え、ワークシートに記入する。 ・被災地の現状について知り、誰かのために何かをしようという考えをワークシートに記入する。	

【授業実践の様子】





【板書例】（写真等　※黒板を使用していない場合は、スライド資料等を掲載）



学校名：新潟市立小須戸小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	○学校は河川に隣接しており，水害が最も懸念される地域である。学校は地域の避難場所となっている。 ○地域全体の土地が低く，水害の際には浸水が予想される。雨量が少し増えると増水が見られることから，普段から避難場所等について意識している方が多い。 ○小須戸大火後，避難訓練の際に重点的に学習してきたため，火災の避難についての意識は高い。その意識を様々な災害に繋げていくことが課題である。
保護者・地域・教職員等の願い	○様々な災害に出会うことが予想される。その際に必要な安全な行動についての知識をもち，主体的に判断し自分の命を守る行動がとれるようになって欲しい。
防災教育において、目指す児童生徒像	【1，2年】自分の命を大切にし，災害時に安全な行動をとろうとする子 【3年】災害時の様々な危険を知り，自ら安全な行動ができる子 【4年】地域の防災対策を知り，自分の命は自分で守ることができる子 【5年】地域の一員としての自覚をもち，災害時に自ら安全な行動ができる子 【6年】状況に応じて，主体的に判断し，自他の命を守ることができる子
補助交付期間に実施した主な取組	○小須戸町屋を守り伝える工夫　～小須戸大火から学ぶ防災～（4年総合） 自分のいのちを守るために大切なことを身近にあった大きな災害を教材とし，総合的な学習で学んだ町屋を守る人々の願いとつなげて自分たちにできることを考える機会とする。 ○自分の命を守ろう　～火災における避難訓練を通して～（全校･避難訓練） 学校内で避難する際に必要な防火扉のくぐり方，シャッターが動いたときに気をつけることなどを確認し，実際に煙が充満した部屋の中を歩いて避難する体験を通し，具体的な避難の仕方を学ぶ。
自校プランの内容	○従来の避難訓練の機会を活用し、全校児童に学年に応じた内容を指導する。 ○総合的な学習で取り組んでいる学習の中に位置づける。（町屋の大火）
自校プランを継続するための方策	○年度当初に防災教育年間計画と総合的な学習年間計画等を見直す機会を設定し、見通しをもって実施できるようにする。 ○地域教育コーディネーターと連絡を密にし、学校とコミュニティ協議会の活動の連携をはかる。 ○必要物品の手配，関係機関との連絡の取り方等について確実に次年度に引き継ぎ、活動が継続できるようにする。 ○今後の見通しとして，コミュニティ協議会の行っている防災訓練と協同で取り組める方法を来年度以降模索し，カリキュラムに位置づけていきたい。

2．新潟市立小須戸小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年			【第1回避難訓練】 ○安全な避難の仕方を学年に応じて理解し、活用して避難する。	生活科　まちたんけん 安全な歩き					【第3回避難訓練】 ○全校避難訓練「火災に備えて」			
第2学年				生活科　まちたんけん 危険マップを作ろう								
第3学年												
第4学年							総合　町屋大火に学ぶ					
第5学年				理科　流れる水のはたらき （平成23年大水災害）			総合　米米クラブ 災害でも食べられるご飯					
第6学年												
職員	第3回職会　避難経路確認				職会　児童引き渡し方法等確認							

３．新潟市立小須戸小学校　防災教育指導例

A－１ 小学校中学年 ※地－必須－２	（学習のねらい）**「災害の時に自分のいのちを守るために大切なことを考える」** **・私たちが行う防災対策について知る**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	**１．今までに学習した災害を復習し、学習のねらいを伝える** ①今までに学習した災害とその対応について復習する。 ② 学習のねらい「**災害の時に自分のいのちを守るために、大切なことは何か考える**」ことをおさえる	【といかけ】 ・今まで知っている災害は何ですか？その災害が起きた時，どうしたらいいでしょうか。 【想定される答え】 ・火事・・・「お・か・し・も」のきまり ・地震・・・頭を守る。机の下に隠れる。 **【ポイント】** ○ どのような災害でも，いざというときに，行動できるようにするためには何が大切か考えよう。
【展開】	**２．小須戸の大火について講師の方から説明を聞く。** ① 地域で実際に起こった大火の時の写真をパワーポイントで写し，感想を聞く。 ② 資料をもとに，講師の方から当時の様子や，火事の原因，火事を防ぐ工夫にどのようなことをしているのかを聞く。	【といかけ】 ・私たちの住んでいる街には、どんな災害がありそうですか？ 【想定される答え】 ・わからない　　・あんまりないんじゃないかな。 ・洪水は危ないって言ってたよ。 ・昔大きな火事があったんだって **【資料】小須戸大火パワーポイント資料**
	３．日頃から備えておくべきことを知る ① いざというときに、ちゃんと避難するために、日頃からどんな準備をしておくべきかを考え、次の点をおさえる 1)「**すぐに避難できるように、非常用持ち出し品を用意しておく**」 2)「**避難訓練を通じて、避難場所や避難経路を確認しておく** ３)「**日頃から火事を起こさないことを意識する。**」	【といかけ】 ・いざというとき，自分のいのちを守るために大切なことは何でしょう。 【想定される答え】 ・日頃から火事を出さないことを意識する。 ・避難の仕方や何が危険なのかを知っておく。 ・すぐ避難できるよう準備をしておく。 ・避難場所を確認しておく　・避難するための準備をしておく **【資料】非常用持ち出し品リストの例**

【まとめ】	**4．学習してわかったことを確認する** ① ワークシートに、「授業の感想」などを書かせて、発表させる	**ワークシート** **【ポイント】** ○ 「**自分のいのちは自分で守るという意識が大切である**」ことを確認する ○「**日頃から訓練等を通じて、避難方法を確認しておく**」ことを確認する
【評価】	・災害は，いつどこで起こるかわからない，身近なことであることを理解することができたか。 ・自分のいのちを守るためには，自分のいのちは自分で守るという気持ちが大切であることを理解することができたか ・非常用持ち出し品、避難方法を日ごろから準備・確認しておく必要性を理解することができたか。	

【授業実践の様子】





【スライド資料】

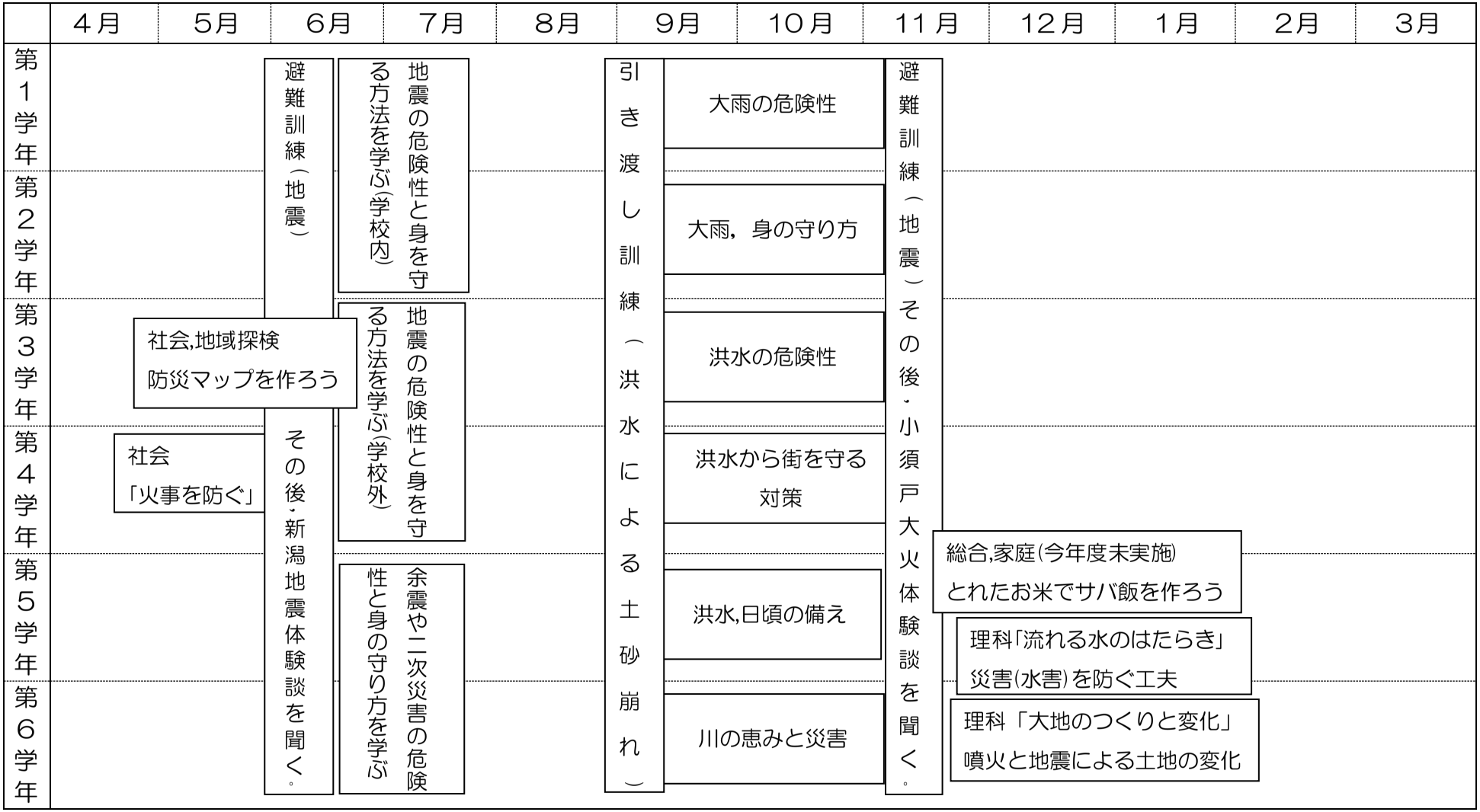


学校名：新潟市立矢代田小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・ 信濃川からは離れており河川氾濫による洪水の危険はないが，学校裏手に山が迫っているため大雨や地震による土砂崩れの危険がある。また，学校前を走る国道は起伏が激しく，大雨による冠水の危険がある。
保護者・地域・教職員等の願い	・ 地域や保護者から土砂災害や水害を想定した避難訓練の要望等は特に聞かない。また，土砂災害，水害を想定した避難訓練を経験したことのある教職員はほとんどいない。年3回の避難訓練は地震，火災，不審者が主で，これ以上避難訓練の回数を増やすことも難しいが，大雨による冠水を想定した引き渡し訓練だけでも行いたいという教職員の願いはある。 ・ 児童は比較的真剣に避難訓練に参加しているが，今ひとつ，切実感に欠ける。体験談を聞かせることにより災害の恐ろしさと共に，人間のたくましさに触れさせたいと考える。
防災教育において、目指す児童生徒像	・ 自分たちの住む地域の様子，危険性について知り，安全な避難の方法を身につけると共に，地域の防災に主体的に貢献しようとする子ども。
補助交付期間に実施した主な取組	・ 防災マップ作り。（3年生） ・ 避難訓練後の全体指導で，新潟地震体験談，小須戸大火体験談を聞き，感想，学んだこと等をまとめる。（全校児童） ・ 引き渡し訓練の実施。（保護者，全校児童）
自校プランの内容	・ 今現在行っている教育活動にプラス1で防災教育を行うことを原則として内容を考えた。 ・ 避難訓練の際に体験談を聞き，その後，県の防災教育プログラムの活用を図ったり，体験談を元に授業を行ったりする。 ・ 防災マップ作りも，地域探検の際，防災マップを持って出かけ，避難場所等を確認する。
自校プランを継続するための方策	・ 地域の防災訓練に合わせ避難訓練を行う。 ・ 学習参観に合わせ引き渡し訓練を行う。その際，防災グッズの展示等を行う。 ・ 避難訓練，引き渡し訓練の計画を地域の防災担当者，自治会長に事前に知らせ，参加を請う。

2．新潟市立矢代田小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画



３．新潟市立矢代田小学校　防災教育指導例

3 年生 **※地震必須-2 に対応**	（学習のねらい）**「家や地域で地震にあったときの身の守り方を学ぶ」** **・ 地震後の家の中や町中のイラスト,写真から地震の危険性について考える。** **・ 町探検で作ったマップから地域の避難場所を確認する。**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	**1. 地震について学習することを知る。** ① 地震の時の家や町の様子の写真をプロジェクターやモニター等で写す。 **（避難訓練事前指導の段階から教室に展示しておいてもよい）** ② 児童に写真や映像を見せた後,感想を聞く。 **（体験談を聞いた感想を述べてもよい）** ③ 学習のねらい「**家や地域で地震に遭ったときの身の守り方を学ぶこと**」をおさえる	県防災教育プログラム【地震災害編】 資 202：地しんのときの家やまちのようす 資 219～243 から適宜選択
【展開】	**2. 家庭や街中で地震にあったときの身の守り方を学ぶ。** ① ワークシート配布。 家や町中にいるとき地震が起きたら**どのような危険があるか**,ワークシートに記入させ,発表させる。 ② ワークシート配布。 地震発生直後のイラストを見ながら,どのような危険があるか伝え,**身を守るための行動**を記入させ,発表させる。	県防災教育プログラム【地震災害編】 ワークシート 02-1-①配布 **【ポイント】** 大きな地震が起きたとき,自分のいる場所(家の中なのか,公園なのか,建物の近くなのか等)によって,危険が異なること。 ワークシート 02-1-②配布 **【ポイント】** ・ 姿勢を低くして頭や体を守ること。 ・ 倒れそうなものや棚,窓,塀などから離れること。 ・ 揺れがおさまってもあわてて動き出さないこと。 ・ 安全な場所で揺れがおさまるまでじっと待つこと。 ・ 近くのおとなの指示や誘導に従って行動すること。 ・ 体験談から学んだこと(揺れがおさまり家に戻った後も玄関等は開けたままにしておいたことなど)を発表させる。

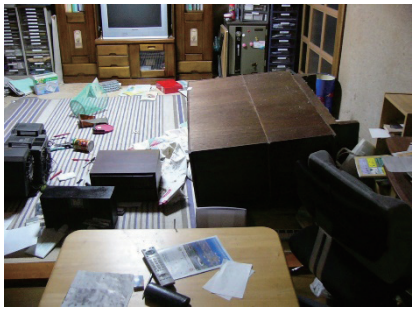
	3.　日頃から備えておくべきことを知る ①　町探検で作ったマップ提示。 **地域の避難場所を確認**させ,自宅,よく遊びに行くところからの**避難経路を考え**,発表させる。	町探検で作ったマップ提示。 (町探検以前の場合,秋葉区ハザードマップを使用) **【ポイント】** 一時避難場所,指定避難所,避難経路等確認。
【まとめ】	**4.　学習してわかったことを確認する** ①　ワークシートに、「授業の感想」「新潟地震体験談を聞いた感想」などを書かせて、発表させる	県防災教育プログラム【地震災害編】 ワークシート B-4 配布 **【ポイント】** ・　ハザードマップはあくまで目安であって、それ以上の災害も起こりえることを確認する ・　日頃から訓練等を通じて、避難方法を確認しておくことを確認する
【評価】	・　家の中や地域で地震にあったときの身の守り方を理解することができたか。 ・　町探検マップ（またはハザードマップ）から自宅周辺や通学路周辺の避難場所を理解することができたか。	

【授業実践の様子】





【スライド資料】





９）新潟市立白根第一中学校区（南区）

対象校：白根第一中学校、小林小学校、白根小学校
オブザーバー：新潟市南区総務課、白根地区公民館

①　中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第１回	平成 27 年 7 月 9 日 16：00 ～ 16：45 会場：白根第一中学校	・5/14（木）研修会の振り返り ・各校の 6/16（火）全市一斉避難訓練の取組について（情報共有） ・各校の今後の防災教育の進め方について（情報共有） ・行政及び公民館の支援メニューについて（情報提供） ・中学校区ミーティングの進め方について（意見交換）
第２回	平成 27 年 11 月 2 日 16：00 ～ 16：45 会場：白根第一中学校	・各校の防災教育の実施状況について（情報共有） ・実践から見えてきた効果や課題等について（意見交換） ・各小学校区の災害リスクについて（情報提供）
第３回	平成 27 年 12 月 11 日 16：00 ～ 16：45 会場：白根第一中学校	・各校の防災教育計画について（情報共有） ・実践から見えてきた効果や課題について（意見交換） ・南区総務課、白根地区公民館との連携について

②　各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
南区総務課・白根地区公民館	平成 27 年 6 月 26 日	ヒアリング	学校の防災教育に対する支援メニューの検討 防災教育に関係する既存事業のヒアリング・整理
白根第一中学校	平成 27 年 8 月 4 日	打ち合わせ	全校生徒を対象とした防災講座の内容及び講師の調整について
白根第一中学校	平成 27 年 9 月 18 日	講座	全校生徒対象講座「洪水災害の被害と避難方法を知り、自分の命を守る行動を考える」
白根小学校	平成 27 年 12 月 1 日	打ち合わせ	全校児童を対象とした防災講座の実施について
白根小学校	平成 27 年 12 月 14 日	講座	全校児童対象講座「地震から自分の命を守る行動を考える」
白根小学校	平成 28 年 1 月 22 日	講座	第 4 学年対象講座「地震の被害について知り、日ごろからできる備えについて考える」
小林小学校	平成 28 年 1 月 20 日	打ち合わせ	第 6 学年を対象とした防災講座の実施について
小林小学校	平成 28 年 2 月 10 日	講座	第 6 学年対象講座「洪水災害から自分の命を守る方法を考える」「非常時の備えについて考える」

【第１回白根第一中学校区ミーティングの様子】





【9/18 白根第一中学校及び 12/4 白根小学校での授業実践の様子】





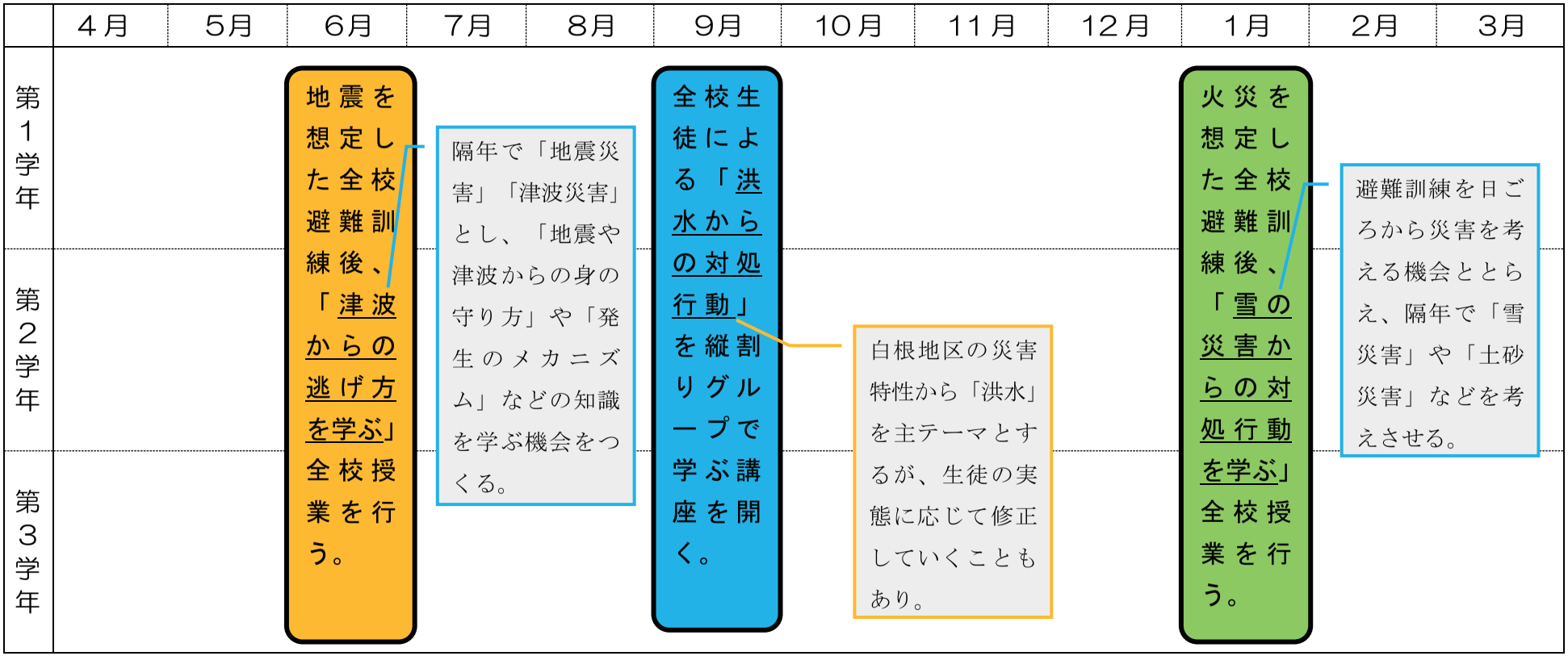


学校名：新潟市立白根第一中学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	中ノ口川と信濃川に挟まれたこの白根地区は、災害の中でも水害に特に注意が必要な地域である。生徒の一部は過去の豪雨による浸水被害を経験している。地震を含め、橋の通行に十分な注意が必要である。また、緊急時、避難所となる自分の学校と国道８号線とのルートは生徒の日常の通学路になっている。 この他、地域には古い建物や配水塔・土蔵なども残っており、道が非常に狭い場所がある。過去には地震による建物の倒壊や火災も多く発生した地域である。
保護者・地域・教職員等の願い	これまで新潟市南区は、自主防災組織員（大人）を対象に「水害に関する勉強会」を開催してきただけでなく、本校全校生徒を対象にした「防災教室」も実施してきた。この取組の裏側には、中学生に対しても「防災に関する知識の普及を図る」ねらいや期待がある。白根地区にある中学校（教職員）としても、上述した地域の災害特性を踏まえさせ、「日ごろ」から近所（地域）とのコミュニティを大切にし、「自分の命は自分で守る」判断力や行動力を身に付けてほしい。
防災教育において、目指す児童生徒像	「生きる力」としての「自己決定力」「防災対応能力」を身に付けた生徒の育成を目指す。具体的には、 ・日ごろの情報を活用して、安全な行動が取れる判断力を養う。 ・身に付けた防災知識を活かして、適正に判断し安全な行動が取れる。 ・助け合いの大切さを理解し、地域の一員として進んで貢献行動する力を身に付ける。
補助交付期間に実施した主な取組	・地震を想定した全校避難訓練の動きに合わせ、「津波からの逃げ方を学ぶ」全校授業を行う。〈平成27年6月〉 ・全校生徒による洪水からの対処行動をタテ割グループで学ぶ講座を開く。〈平成27年9月〉 ・火災を想定した全校避難訓練後、日ごろから災害を考える機会とし、今回は「雪災害からの対処行動を学ぶ」全校授業を行う。〈平成28年1月〉
自校プランの内容	① 体育祭での応援リーダーを進行役とし、全校縦割り小集団での形式を取る。 ② 「災害への対処行動をどう取るか」を設問事例から各自の「ＹＥＳ」「ＮＯ」に基づき、その判断に至った理由をグループで話し合う。 ③ 地域の災害特性や過去の災害事例とを関連付け、講座全体の意義を高める。
自校プランを継続するための方策	「ＮＰＯ法人　ふるさと未来創造堂」と連携し、最新情報を交換しながら取り組んでいく。事前に取組のイメージを伝え、生徒の実態にあった自校化を目指していく。

2．新潟市立白根第一中学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画



3．新潟市立白根第一中学校　防災教育指導例

第２回 全校生徒 （1時間 10 分）	（学習のねらい） **身近な地域でも起きる洪水災害を振り返り、災害発生時の対処行動や自分たちにできることを考える。**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	**１．洪水災害発生時の地域の状況をイメージさせる。** ① 平成 23 年新潟・福島豪雨災害を中心に、過去の災害の地域での被害状況を知る。 ② 白根地域の災害時の特徴や災害リスクについて知る。	【といかけの例】 ・「洪水災害時」に避難するという言葉を聞いたとき、あなたはどのような行動をイメージしますか？ 【想定される答え】 ・高台に避難する。 ・建物の二階へ上がる。 **【ポイント】** ○ 屋外や避難所に逃げるということだけではなく、洪水災害の避難は進展過程で異なることを押さえる。
【展開】	**２．洪水災害からの対処行動をクイズ形式で考えさせる。** ① 体育祭での応援リーダーを司会進行役とし、軍団毎の縦割り小集団での話し合い形式を取る。 ② 答えに絶対的な正解はないため、様々な考え方があることへの気付きと、なぜそう考えたかを掘り下げ、いざその時の判断材料として蓄積させる。 ③ 設問事例に対して、「ＹＥＳ」が多かったグループ、「ＮＯ」が多かったグループの代表生徒を中心に、なぜ多かったのか理由を全体に発表する。 ④ 設問毎に地域の状況や過去の災害事例を交えて解説を加える。	**＊設問事例のある「ワークシート」と「ＹＥＳ」「ＮＯ」のカード、筆記用具を持参する。** 【といかけの例】 ・「大雨の日、夕方自宅で一人。近所の人から堤防決壊の恐れを知らされ、白根第一中学校に避難しろといわれた。親はあと１時間で帰ってくる。避難しますか？」 【ＹＥＳ・ＮＯ】 ・２択の選択 【といかけの例】 ・「一人で白根第一中学校に向かった。道路は 20 ㎝程度の深さの泥水が流れている。住宅街は流れはないが、30 ㎝程度水に浸かっている。浸水した道路を通って中学校に避難しますか？」 【ＹＥＳ・ＮＯ】 ・２択の選択
【まとめ】	**３．学習してわかったことを確認する** ① 自然災害から生き抜くために大切なことを伝える。 ② 今日の学習を通じて、わかったことや気付いたことをワークシートにまとめる。	**【ポイント】** ○ 自分の命を自分で守れることが、家族や友人、地域の人の命を守ることにつながることを押さえる。

【評価】	・自然災害を「自分事」としてとらえ、主体的に考えることができたか。 ・設問事例を通じて、身近な地域でも起きる洪水災害の危険性を理解できたか。 ・自らの命を守るために、判断し、行動する力を身に付けようとしたか。

【授業実践の様子】





【生徒の振り返りシートから】

・自分の判断、日ごろの家族との話し合いがどれだけ大事なのかが分かった。あと、近所との付き合いも、いざとなったときに必要だなと思いました。〈１年生女子〉

・もし、災害が発生したとき、自分がどう行動すべきか、速く判断できるようになりたいと思った。避難をするのに、「家で一人でいたとき自分はどうするのか」親と話し合いたいと思った。〈２年生男子〉

・水害というのはとても危険だと改めて思いました。まずいつもと違うと感じたら、情報を手に入れ、例え一人だとしても避難することが大事だと思いました。自分の命は自分で守ることが大切だと思います。〈３年生男子〉

【実践を振り返って】

・設問の設定では「あなた一人だった場合」で考えさせた点に、より生徒たちは「判断し行動する」ことの重さを実感した人が多く見られた。

・「非常時のこと」であるが故に、「日ごろ」からの家族との話し合い、近所（地域）とのコミュニティの重要性にも気付いた生徒が少なくなかった。

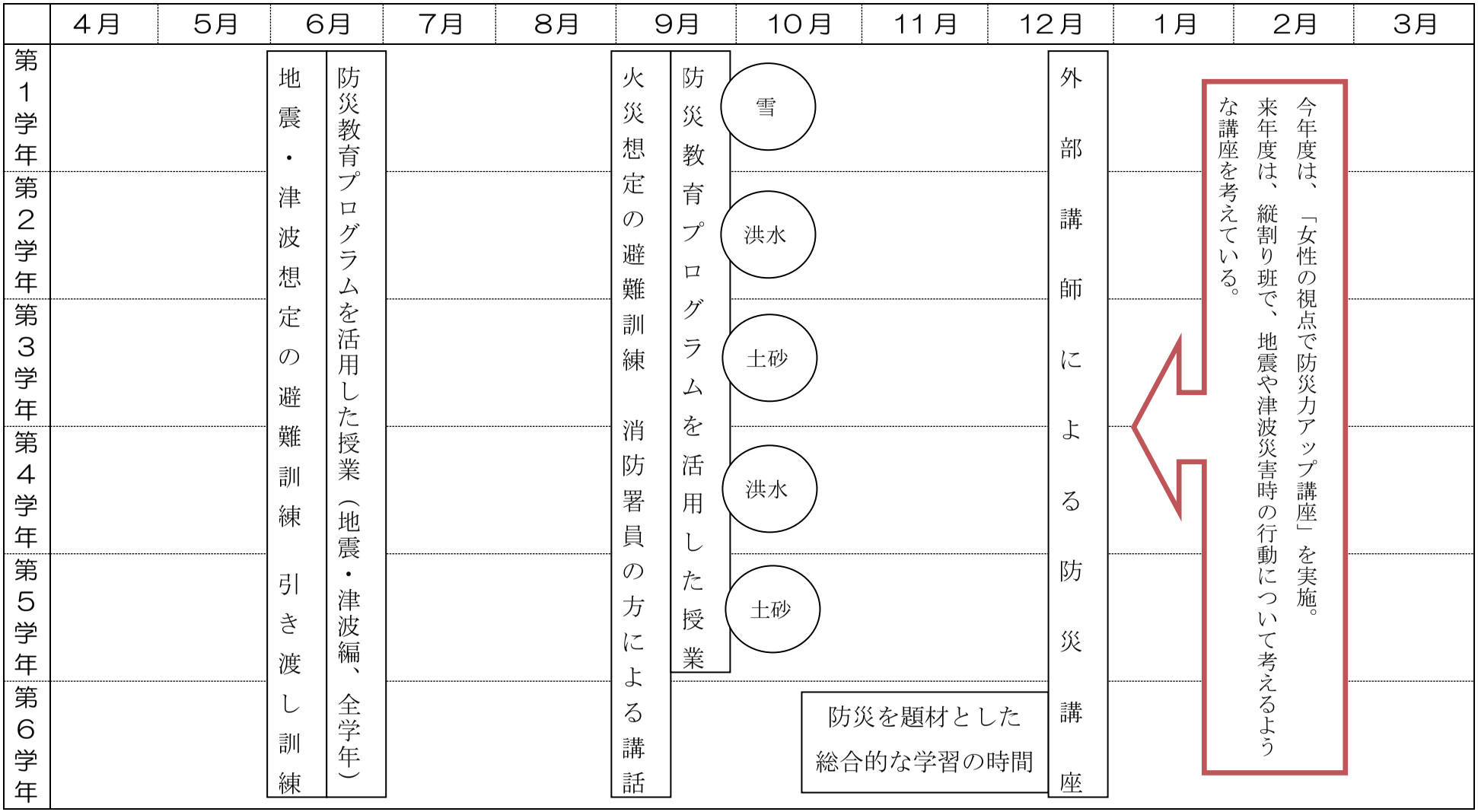
◆以上の取組は、「ＮＰＯ法人　ふるさと未来創造堂」ゲスト講師との連携による。あらかじめ講座全体の原案を受け、本校生徒の実態にあった自校化を図りつつ取り組んだ内容となった。

学校名：新潟市立小林小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	全校児童１８０名の小規模校である。校区には，田畑と住宅地が混在し，約５０名の児童はスクールバスで通学している。児童は，明るく素直な子が多い。 地域住民は学校に協力的で，学校と地域が連携しながら，教育に取り組んでいる。住民は，地域の子どもたちをみんなで見守っていこうという意識が高い。 地域は，信濃川と中ノ口川に囲まれた輪中地帯であり，地盤も低いことから，地域で起こりうる可能性の高い災害は，洪水災害である。
保護者・地域・教職員等の願い	保護者は，近年に２度の洪水災害を経験しているが，災害に関する知識と対処行動の理解が不足しており，命を守る具体的な行動について理解を深めたいと考えている保護者もいる反面，危機意識が低い保護者もいる。 地域は，児童と地域の大人とのつながりを作る交流機会として，防災教育の活動を支えていきたいと考えている。 教職員は，災害が非日常の出来事ではなく，日常の延長線上にある身近なものであることを実感させたいと考えている。児童が興味・関心をもち続け，地域のフィールドワークから体験活動を設定し，地域に根ざした防災教育の実践を通じて，学校と地域との連携を強化させていきたいと考えている。
防災教育において、目指す児童生徒像	・学んだ知識や情報を活かして適切に判断し，安全な行動が取れる児童 ・自助や共助の大切さを理解し，主体的に身を守る行動を取ったり，地域のために自分にできることを考えたりすることができる児童
補助交付期間に実施した主な取組	・地震を想定した全校避難訓練の実施　〈平成２７年６月〉 ・NPO法人ワーキングウイメンズアソシエーションによる「女性の視点で防災力アップ講座　〈平成２７年１２月〉 ・NPO法人ふるさと未来創造堂による講話，非常食の調理実習　〈平成２８年２月〉
自校プランの内容	①　地震の避難訓練に合わせて，防災講座を行う。縦割り班でクイズの解答を考えたり，理由を話し合ったりする活動を行い，正しい行動選択について学ぶ。 ②　６学年の総合的な学習の時間に，題材として防災を取り扱い，防災の知識を身に付けたり，自分たちに何ができるかを考えたりする。 ③　防災教育プログラムを活用し，５学年までに５つの災害について学ぶ。
自校プランを継続するための方策	「NPO法人　ふるさと未来創造堂」や南区役所と連携し，最新情報を交換しながら取り組んでいく。防災担当だけでなく，学級担任にも防災について授業を行う機会を作り，防災教育プログラムを活用しながら，全職員で防災教育に取り組んでいく。また，防災教育の計画的実施のために，教育計画の見直しを図る。

2．新潟市立小林小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画



3．新潟市立小林小学校　防災教育指導例

小学校高学年 ※洪－必須－5 対応	（学習のねらい） **○災害によってどんな事態が起きるかを知り、災害発生時の対処行動を考えることができる。** **○災害に備え、普段から家族とどんなことを話し合っておくべきかを学ぶ。**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	**1．災害による被害と防災の意義を知る** ① 新潟市防災課の方による「防災ミニ講演」を聞き、中越地震などの大きな災害で、どれほどの被害が出たのかを学ぶことで、災害の恐さや防災の意義を知る。	**パワーポイント＆スクリーン** 【といかけ】 ・防災ってなんだろうか 【想定される答え】 ・災害を防ぐこと **【ポイント】** ○ 「防災ミニ講演」を聞いて、防災とは、災害時に自分の命を守るためのものであることをつかむ。
【展開】	**2．親子で話し合い、防災メモを作成する** ① 災害時、焦って行動できないことがないように、何をしていけばよいのかを考える。まずは、自分の命を守ることが最優先であることをつかむ。 ② 災害時の家族との集合場所はどこがよいかを考える。「避難所」「家」「学校」といったことだけでなく、「学校の鉄棒の前」や「避難所の体育館の入り口」など、できるだけ具体的に決めておくことが重要だということをつかむ。 **3．地震発生時、自分の身を守るための行動について学ぶ** ① 防災体操を通して、「だんご虫のポーズ」など、自分の命を守る行動について学ぶ。	**防災ポケットメモ** 【といかけ】 ① 地震が起きたら、まず何をしますか？ ② 家族との集合場所は、どこにしていますか？ ③ 災害が起きたとき、どうやって家族と連絡を取りますか？ 【想定される答え】 ① わからない　机の下にもぐる　安全な場所に行く ② 決めていない　家　避難所 ③ 電話　手紙　わからない ※ 防災士の方から正しい行動について話を聞く。 **【ポイント】** ○ 新潟市防災課と連携し、防災マスコットキャラクターのジージョとキョージョから体操を教えてもらい、意欲を高めつつ、命を守る行動について学ぶ。
【まとめ】	**4．学習してわかったことを確認する** ① 自然災害から命を守るために大切なことについて学ぶ。 ② 振り返りカードに、感想などを書く。	**【ポイント】** ○ 新潟市防災課の方から話を聞き、命を守るために大切なことについて学ぶ。 ○ 児童と保護者の両方に振り返りカードを書いてもらい、来年度の学習に生かす。

【評価】	・災害によってどんな被害を受けるのか、「防災」とは何かについて理解することができたか。 ・災害に備え、家族とどんなことを話し合っておかなくてはいけないかを学ぶことができたか。 ・災害時、自分の命を守ったり、家族と連絡を取ったりするために、どんな行動を取ればよいのかについて、主体的に考えることができたか。

【授業実践の様子】






【実施後の児童と保護者の反応】（ワークシートより抜粋）

＜児童＞
・大きな地震の映像で、電柱や車が揺れているのを見て、とてもこわいと思った。
・災害の時は、携帯がつながらなくなるということを知って、どうやって家族と連絡を取ればいいのか考えてもわからなかった。家族と集まる場所を決めておくのが大事だと思った。
・体操をしながら、だんご虫のポーズなどが覚えられた。
＜保護者＞
・災害への備えについて、考えるきっかけになった。
・災害発生時の行動を具体的にイメージすることができて良かった。

学校名：新潟市立白根小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	中ノ口川と信濃川に挟まれた白根地区は災害の中でも水害に注意が必要な地域である。中・高学年の児童は、東日本大震災や同年7月の豪雨による浸水を記憶しているが、災害による避難の経験を持つ児童はほとんどいない。 災害の危険性としては、信濃川、中ノ口川、大通川流域の広い範囲での浸水の可能性がある。また、広い範囲に軟らかい地盤が分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液状化の可能性がある。津波の浸水は想定されていない。
保護者・地域・教職員等の願い	南区では各自治会単位で自主防災訓練の実施を行っており、関心のある児童は参加している。しかし、保護者によって防災への意識には温度差がある。そこで学校で避難訓練に合わせた防災学習や振り返りをしたり、全校で「防災教室」を実施したりすることにより、自然災害に対する心構えや防災への関心を高め、日頃から考えたり話し合ったりする場を広げていきたい。
防災教育において、目指す児童生徒像	○よりよい方法を考えたり、学んだことを生かしたりして安全に行動できる児童 ・日頃から災害に関心をもって情報を集めたり、いろいろな場合を想定したりしながら生活する。 ・災害時、知識や情報を生かし、より安全な方法を考えて避難する。 ・助け合いを大切にしつつ、一人でも考えて行動できる。
補助交付期間に実施した主な取組	・地震や水害を想定した全校避難訓練に合わせて、新潟県防災教育プログラムを活用した学年での授業を行う。 ・小規模訓練＜ベル訓練＞を数回行い、日常的に、緊急放送を聞き取ったり、行動を考えたり振り返ったりする活動を行う。 ・外部講師を招いて、楽しく学ぶ「防災教室」を行い、防災への関心を高めたり協力して考えたりする機会を設ける。
自校プランの内容	・「防災教室」として、全校縦割りグループ（約９名）で、クイズの解答を考えたり理由を話し合ったりする形式を取る。地域の実態に合わせて主に「地震」「水害」とその時の正しい知識や判断・対処法などを話し合ったりする。 ・「防災教室」をもとに関心を広げ、各学年での教科や総合、特別活動を使った防災学習へとつなげる。 ・避難訓練の実施に合わせて、想定した災害に関する学習を学年・学級で行う。
自校プランを継続するための方策	「ＮＰＯ法人　ふるさと未来創造堂」と連携し、最新情報を交換しながら取り組んでいく。事前に取り組みのイメージを伝え、児童の実態に合った自校化を目指していく。

2．新潟市立白根小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年			水害想定の全校避難訓練・防災教育プログラム「水害編」の実施①			休憩時の地震想定の避難訓練・防災教育プログラム「地震編」の実施①			**全校「防災教室」なかよし班で学ぶ「災害から身を守るには」①**	自然災害等を想定した「引き渡し訓練」		防災教育プログラム「津波災害編」の実施　①
第2学年												
第3学年												
第4学年		火事を防ぎ地震に備える（社会）②					昔から今へのまち作り（社会）②			災害に備えよう 避難経路と非常用持出品（総合）①		
第5学年							台風の接近・天気の変化（理科）②	流れる水の働き（理科）①		くらしを支える情報・防災に生かす情報（社会）①	自然災害と共に生きる（社会）①	
第6学年								大地のつくりと変化（理科）②				

３．新潟市立白根小学校　防災教育指導例

全校児童（45分）	（学習のねらい）**「地震から自分の命を守る方法を考える」** **・身近な場所の写真を使い、クイズ形式で地震発生時の危険を予測する視点をはぐくむ** **・様々な場所での自分の命の守り方を考え、防災の意識を高める**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	**１．地震について知っていることを確認し、学習のねらいを伝える** ① 知っている自然災害について問い、「**自然災害の中で、もっとも予測がつきにくい災害は地震である**」ことをおさえる。 ② 学習のねらい「**地震から身を守るために、どのような行動をとればよいかを知ること**」をおさえる。	※縦割り班によるグループ活動をつくっておく。 【といかけの例】 ・自然災害にはどのようなものがあるでしょうか。 ・その中で、一番予測できないものはどれでしょうか。 【想定される答え】 ・土砂崩れ、風水害、大雪、雷、地震 ・地震が最も予測できない。
【展開】	**２．クイズ形式で地震から自分の命を守る方法を考える** ① 今、この瞬間に大きな揺れの地震が起きたらどのような対処行動を取るか確認し、その理由を聞く。 ② 学校内の写真資料を見せて、以下の場所にいるときに大きな揺れの地震が起きたら**「どのような危険があるのか」「どのように行動して自分の身を守るのか」**をグループで考えさせ、発表させる。 1)　調理室 2)　図書室 3)　音楽室 ③ 地震が起こったときに、自分の命を守る方法として、ゆれがおさまるまで**「3 つのない場所でしゃがんで頭を守ること」**をおさえる。 ④ 自宅の中や学校の通学路等にも地震が起こると様々な危険があることに気づかせ、今日帰ったら家族と相談することを伝える。	【といかけの例】 ・これから 10 秒後に強い揺れの地震が起こります。今すぐ自分の身を守る行動をしてください。 【想定される子どもの反応】 ・探検バッグで頭を守る。　・低い姿勢で頭を守る。　等 **【資料】 学校内の写真** **【資料】 ワークシート①** 校内の写真が掲載されている資料（グループで場所毎に 1 枚ずつ）にグループで危険箇所を書き込ませる。 【といかけの例】 ・地震が来たときに危険な場所はどこですか。印をつけましょう。また、どのようになるのか、書きましょう。 【想定される答え】 ・食器棚が動く　・本が落ちてくる　・楽器が倒れる **【資料】地震発生時の被害写真** ※3 つのない場所とは「ものが落ちてこない」「倒れてこない」「動いてこない」場所 **【ポイント】** **○子どもの身近な場所の写真を使用し被害写真と比較させることで、地震発生時の危険を予測する視点を身につけさせる。**
【まとめ】	**４．学習してわかったことを確認する** ① ワークシート②に、わかったことや「授業の感想」などを書かせて、発表させる。	**ワークシート②** ○今日帰ったら、家族と相談して、通学路や家などで危険なところを探し、書いてくることを伝える。

【評価】	・地震発生時には 3 つのない場所（落ちてこない・倒れてこない・動いてこない）でしゃがんで頭を守ることを理解できたか。（全学年） ・地震発生時に起こる被害について理解し、身近な写真から危険を予測することができたか。（全学年） ・学んだことを生かして、自宅の中や通学路等で地震発生時の危険を予測することができたか。（全学年） ・地震発生時の危険や対処行動、避難場所について家族と話し合うことができたか。（全学年） ・家族と話し合い、事前にできる被害の軽減方法等を自分事として考えることができたか。（中・高学年）

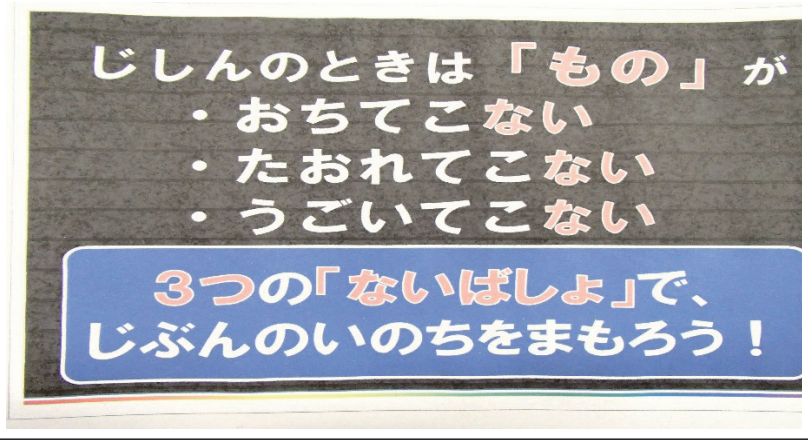
【授業実践の様子】







【板書】





【児童の感想から】（一部抜粋）

・まえにあったじしんのしゃしんを見て、こんなにものがたおれてくるんだなとおもいました。いのちは 1 つしかないからじぶんでまもりたいです。（1 年）
・いろいろなところにきけんがあるから、自分で考えてこうどうしたいです。3 つのない場所を見つけて自分でひなんしたいです。（2 年）
・家の人とも話し合い、地しんがどれだけおそろしいかも分かりました。このじゅぎょうがあってよかったです。（3 年）
・実さいに、地震になった後の学校を見たことがないので、写真も見られて分かりやすかった。（4 年）
・地震が起きてしまったときのことを予想し、実際に起きてしまったときにどうすればいいか、今のうちに考えておきたい。（5 年）
・これからは、すぐに身を守るための判断もできるようにしていきたいです。（6 年）

１０）新潟市立黒埼中学校区（西区）

対象校：黒埼中学校、大野小学校、黒埼南小学校、山田小学校、立仏小学校
オブザーバー：新潟市西区総務課、新潟地方気象台

①　中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	主な検討内容
第１回	平成 27 年 6 月 16 日 15：30 ～ 16：45 会場：黒埼南小学校	・各校の 6/16（火）全市一斉避難訓練の取組について（情報共有） ・各校の今後の防災教育の進め方について（情報共有） ・中学校区ミーティングの進め方について（意見交換）
第２回	平成 27 年 8 月 25 日 14：30 ～ 16：45 会場：黒埼南小学校	・各校の防災教育の計画及び進捗について（情報共有） ・学校における防災教育への行政機関の考え方及び支援メニューについて（情報共有・意見交換） ・新潟市西区「地震体験の日（仮称）」の提案について
第３回	平成 27 年 12 月 1 日 15：30 ～ 16：45 会場：黒埼南小学校	・各校の実践事例紹介と自校化プランについて（情報共有） ・起震車体験「西区地震体験 week」の実施（情報共有） ・その他

②　各学校へのサポート事例

対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
黒埼南小学校	平成 27 年 4 月 28 日	打ち合わせ	全校児童を対象とした防災講座の内容及び講師の調整について
黒埼南小学校	平成 27 年 4 月 28 日	講座	避難訓練（火災想定）後に全校児童を対象とした防災講座として濃煙内の避難体験を実施した。
西区総務課	平成 27 年 6 月 23 日	ヒアリング	新潟市西区総務課の学校防災教育への考え方と支援メニューについて
黒埼中学校	平成 27 年 6 月 25 日	打ち合わせ	事業説明と地域連携の考え方 年間の防災教育計画の検討 体育祭行事での防災学習メニュー紹介
大野小学校	平成 27 年 8 月 7 日	打ち合わせ	年間の防災教育計画の検討
立仏小学校	平成 27 年 8 月 11 日	打ち合わせ	全校児童を対象とした防災講座の相談と個別学年に対する授業案と講師依頼
立仏小学校	平成 27 年 9 月 11 日	講座	5 年生対象の防災講座「自然の恵みと災いを知り、洪水災害から自分の身を守る行動を考える」
黒埼南小学校	平成 27 年 9 月 12 日	講座	学習発表会終了後、児童、保護者、地域の方と毛布で担架をつくり搬送リレーを実施
山田小学校	平成 27 年 9 月 30 日	打ち合わせ	4 年生対象の防災講座について検討 起震車体験についてヒアリング

山田 小学校	平成 27 年 10 月 26 日	講座	第 4 学年対象講座「洪水災害を知り、大雨が降った時に身を守る行動を考える」
大野 小学校	平成 27 年 11 月 13 日	講座	大雨が降った時に起こる災害について知り、洪水から身を守るために自分ができることを考える
大野 小学校	平成 27 年 11 月 24 日	講座	全校対象講座「地震の危険や怖さを知り、地震が起きた時の身の守り方を知る」 起震車体験（1 年、2 年、3 年）の実施
黒埼南 小学校	平成 27 年 11 月 25 日	講座	起震車体験（全校児童）の実施
立仏 小学校	平成 27 年 11 月 26 日	講座	起震車体験（4 年、5 年、6 年）の実施
山田 小学校	平成 27 年 12 月 22 日	打ち合わせ	雨天のため中止になった起震車体験の振り替えについて　※今年は見合わせ、次年度に実施したいとのこと。

【6/16　黒埼南小学校全市一斉避難訓練時の防災講座・第２回黒埼中学校区ミーティングの様子】





【11/24　大野小学校西区地震体験 week の様子】

※西区地震体験 week は、本事業予算とは別の新潟市西区総務課の事業予算で実現したもの





学校名：新潟市立黒埼中学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・地域の一級河川である信濃川、中ノ口川が学区にあり、降水量が多くなると、堤防が決壊する、地域によっては冠水してしまう箇所がいくつかある。平成２３年新潟・福島豪雨では、実際に床下浸水などが発生している。新潟市から出されているハザードマップをもとにすると、いくつかの地域に降雨時における当地の浸水による被害想定がされている。
保護者・地域・教職員等の願い	・災害等が発生した際に、安全に配慮しながら、適切に行動できるようになってほしいと考えている。地震、火災、水害など様々なケースに分けて避難訓練をしたことがないため、状況に応じて適切な行動をすることができるよう避難訓練を通して身につけさせたい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・災害発生時に際して、安全第一にかつ整然とした行動で、事態に対処できる態度を身につけさせるとともに、自分にできることを考え、判断し、地域の防災に主体的に貢献しようとする生徒
補助交付期間に実施した主な取組	・保護者の防災への意識を高めてもらうために、多くの保護者が学校に来る体育祭で防災に関する種目をＰＴＡ種目として行った。 ・災害発生時に集団下校を行う際に、生徒が下校する経路を確認した。 ・生徒が集団下校する経路と家に帰る順番を明記した内容を自治会長に伝えた。 ・年間２回（今年度は６月・１月）の避難訓練を実施する。 ・毎年１１月に黒埼中防災の日を設定し、避難訓練後に西区役所の担当者と連携し、起震車による震災体験を行う。 ・学校が避難所になった場合を想定した訓練を行い、生徒が避難してきた地域の方の手伝いができるような役割分担を決める。
自校プランの内容	・中学校３年間の中で、１年次：地震、２年次：火災、３年次：水害・津波というように年間で取り組む災害に焦点を当てて、中学校に在籍する３年間で黒埼地区に起こりうる災害について学ぶ。 ・保護者や地域住民においても学校便りや行事などで活動の取り組みを紹介することで、保護者や地域にも防災の意識を高めてもらう。
自校プランを継続するための方策	・年度当初に地域の避難訓練日を確定し、協力してもらえるのか確認をする。協力が得られた場合は、年間活動計画に組み込み位置づける。 ・４月に行われる自治班集会にて、生徒が集団下校する経路と順番を確認する。そこで決まった内容を自治会長に伝え、災害時に協力を得られる体制を年度当初にお願いと確認を行う。

２．新潟市立黒埼中学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
第１学年	自治班集会 ハザードマップで危険箇所を確認 集団下校時のルートと順番を決める		避難訓練 １年次 地震 ２年次 火災 ３年次 水害 年間でテーマを決めて実施			体育祭 ＰＴＡ種目で防災に関する種目の実施		黒埼中防災の日 避難訓練 学校が避難所になった場合を想定 起震車による体験				
第２学年												
第３学年							ＡＥＤ講習会 （2 時間）					

３．新潟市立黒埼中学校　防災教育指導例

中学校 ※洪－必須－7対応	（学習のねらい）**「洪水時の具体的な避難方法を考える」** **・洪水時の危険性と避難することの重要性を理解する。** **・状況に応じた具体的な避難方法を考える。**

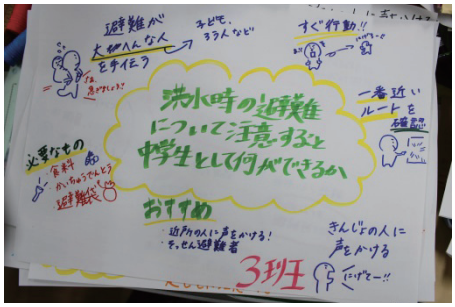
	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	**１．避難行動に関心をもたせる** ① 平成２３年新潟・福島豪雨の被害について紹介し、避難勧告が発表されたにもかかわらず、避難しなかった人が多かったことを伝える。 ② 学習のねらい「**どのようにすれば洪水から身を守り、適切に避難できるか、また、中学生としてできることはなんだろうか**」をおさえる	◇資料 231～233: 平成２３年７月新潟・福島豪雨による被害の様子 ◇資料 505 平成２３年７月新潟・福島豪雨時の避難状況 ○新潟県内・黒埼の状況がわかる資料
【展開】	**２．大雨の際の行動について想像させる** ① 一人で自宅にいるとき、大雨によって市から避難勧告が発表された場合、どのような行動をとればよいのかを問いかけ、考えさせる。 ② 西区から出されている、ハザードマップを用いて、次の点をおさえる 1)「**自宅周辺や学校周辺など、地域の洪水の危険性**」 2)「**自宅周辺や通学路周辺の避難場所**」 3)「**浸水想定図に示されている深さよりも深い浸水になることもある**」 **３．洪水時の避難について注意すべきことや中学生として何ができるかを考えさせる** **（班でファシリテーションを行う）** 1)「**すぐに避難できるように、非常用持ち出し品を用意しておく**」 2)「**避難訓練を通じて、避難場所や避難経路を確認しておく**」 3)「**中学生として、災害時自分ができることは何なのか確認しておく**」	【問いかけ】 ・あなたは一人で自宅にいるとき、大雨が降ってきて、市から避難勧告が発表されました。どのような行動をとりますか 【想定される答え】 ・家族が帰ってくるのを待つ ・携帯に電話する ・一人でもすぐに避難所に行く ◇西区から出されているハザードマップ 《指導のポイント》 ○洪水ハザードマップには「浸水想定図」と「避難場所」に関する情報が記載されている。 ○実際に書かれているものは浸水想定であって、予想されるものであるが、想定を超えるような大雨が降れば変わる可能性がある。 ○浸水の前と後ではとるべき行動が違うということ 【問いかけの例】 ・あなたは、洪水時避難をすることになったらどんな点に注意して避難しますか。また、中学生として何ができますか。 【想定される答え】 ・避難場所を確認しておく・避難するための準備をしておく・高い場所にとどまる・流れる水に近づかない ・地域のお年寄りを助けるなど

【まとめ】	**４．班で話し合ったことを発表させる** ①班で話し合ったことを発表 ②ワークシートに、「授業の感想」などを書かせて、発表させる	【ポイント】 ○「**ハザードマップはあくまで目安であって、それ以上の災害も起こり得る**」ことを確認する ○「**日頃から訓練等を通じて、避難方法を確認しておく**」 ○「**中学生として地域のためにできること**」について、心構えを確認する。
【評価】	・ハザードマップから自宅周辺や学校周辺など、地域の洪水の危険性、自宅周辺や通学路周辺の避難場所を理解することができたか。 ・ハザードマップは一つのシナリオであり、浸水想定図に示されている深さよりも深い浸水になることもあることを理解することができたか ・非常用持ち出し品、避難方法を日ごろから準備・確認しておく必要性を理解することができたか。 ・率先避難者となって地域の人に避難を促し、自分が避難先で協力する必要性を感じることができたか。	

【授業実践の様子】







【板書例】

洪水時の避難について

資料新潟・福島豪雨写真

《問》あなたは一人で家にいるとき、大雨が降ってきて、市から避難勧告が発表されました。どのような行動をとりますか

・家族が帰ってくるまで待つ
・携帯に電話する
・一人で避難する

実際は…

避難しなかった人がすごく多かった

学習課題　**どのようにすれば洪水から身を守り、適切に避難できるかまた、中学生としてできることはなんだろうか**

ファシリテーションで出された考えをまとめる。

《自分の身を守るため》	《中学生として》
・避難場所を確認しておく	・率先避難者として呼びかけ
・避難するための準備をしておく	・地域の人の補助をする
・高い場所にとどまる	・避難物資や誘導を率先してやる
・流れる水に近づかない	

まとめ

○ハザードマップはあくまで目安、それ以上の災害は起きる

○日頃から訓練を行い、避難方法や準備をしっかりする

○中学生として、地域の方のためにできることを手伝う

学校名：新潟市立大野小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・大野町は中ノ口川が信濃川に合流する地点にある。平成１６年の水害や平成２３年の新潟・福島豪雨など，過去にも頻繁に上流地域や近隣地域が大きな水害に遭っている。特に平成２３年の大雨では，大野地区も道路が浸水したり，中ノ口川が限界近くまで増水したりして避難勧告が発令されるという体験をしている・市の防災計画でも，降雨時における当地の浸水による被害想定がされている。
保護者・地域・教職員等の願い	・当地が浸水による被害想定がされているにもかかわらず，地域・保護者の防災への意識は高いとは言えず，水害を想定した避難訓練への要望も出ていない。教職員も当地における水害の体験がなく，避難訓練の必要性に対する意識が希薄である。当地の実態をよく知り，水害から住民や子どもたちを守るという意識を高めていく必要がある。
防災教育において，目指す児童生徒像	・大野町が洪水災害の発生する地域であることを十分に理解し，水害から身を守るための方法を主体的に考えたり調べたりすることで，安全な避難の方法を身に付けることができる。
補助交付期間に実施した主な取組	・全校と各学年による「洪水学習」 ・１～３年生を対象にした「地震体験学習」
自校プランの内容	①過去に上流地域や近隣地域で起きた水害について知る。 ・平成１６年の水害（五十嵐川）や平成２３年の豪雨についての映像や写真 ②大野地区は水害の危険性があることを知る。 ・信濃川と中ノ口川の降雨時における被害想定マップ ・平成２３年の大雨の様子（増水した川の写真，地域の人や保護者の体験談） ③水害に備えて，自分たちにできることを考える。（学校で　地域で　各家庭で） ・避難場所は？　避難経路は？　避難時に必要な物は？　避難できない時は？　・家族が一緒でないときは？ ④安全な避難の仕方を調べ，計画的にマップを作成していく。 ・避難できる場所（３階の建物）　・浸水しやすい場所や危険な場所　・一番安全に避難できる経路
自校プランを継続するための方策	①地域・保護者と連携した防災マップ作り（町内子ども会，集団下校，引き渡し訓練） ・町内子ども会で，各地域のハザードマップを活用して浸水箇所を確認するとともに，自治会長や子ども会の地域担当者から浸水しやすい場所や危険な場所を教えてもらい，マップに記していく。 ・集団下校時に，みんなで歩きながら浸水・危険箇所を確認したり，高学年の班長が危険箇所をマップに記したりしていく。 ・マップを集計し，さらに安全性の高い避難経路に修正し，年ごとに防災マップを更新していく。 ・引き渡し訓練時に，親子で実際に避難経路を歩いてもらい，経路と避難場所の確認をする。 ②引き渡し訓練の前時に，保護者向けに，防災教育の必要性と避難場所や避難経路の確認の仕方についてのガイダンスを行う。

2．新潟市立大野小学校「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	**生活** ＊安全な生活		**避難訓練と引き渡し訓練・避難経路の確認** ＊地震と津波・洪水	**体育** ＊着衣水泳		**避難訓練** ＊火災	**防災学習** ○大雨の危険性 ○大雨から身を守る。			**避難訓練** ＊不審者対策		
第2学年												
第3学年		**社会** 私たちのまち					**防災学習** ○雨の降り方と洪水 ○洪水からまちを守る対策					
第4学年		**社会** 火事を防ぎ地震に備える				**社会** 昔から今へと続く道						
第5学年		防災マップの修正					**防災学習** ○川の恵みと災害 ○洪水に対する日頃からの備え ○防災マップ作り				**保健** けがの防止	
第6学年								**理科** 大地のつくりと変化 **社会** 身近な暮らしと政治				

校外子ども会・集団下校
＊水害時の浸水・危険箇所の確認

＊防災学習は，県の防災教育プログラム（洪水災害編）を活用する。

３．新潟市立大野小学校　防災教育指導例

小学校全学年 ※洪-必-1,2,5対応	（学習のねらい） **「大雨が降った時に起こる災害について知るとともに，洪水から身を守るために自分ができることを考える。」**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
導入	**１　洪水災害について学習することを伝え，学習のねらいをおさえる** ① 大雨が降り続くとまちはどうなってしまうか，写真資料を基に考える。 ② 大雨による災害を「洪水災害」ということを伝え，今日の学習のねらいを伝える。	【問いかけ】 ・大雨が降り続くと町はどうなってしまうでしょうか？ 【児童の反応】 ・道路が水浸しになる。　・川があふれる。　・家の中に水が入ってくる。　・山や堤防がくずれる。　・人や物が流される。 【写真資料】 ・まちが浸水する様子　・川があふれる様子 ※「新潟県防災教育プログラム～洪水災害編～」より
展開	**２　洪水災害の写真・映像を見て，災害の恐ろしさを知る** ① 洪水災害は「大雨でまちが水浸しになってしまう場合」と「川の水があふれて家なども流されてしまう場合」があることを伝える。 ② 川の水があふれた平成２７年９月の関東・東北豪雨映像を見て感想や気付いたことを発表する。 ③「川から水があふれている中の避難は危険なこと」を確認し，「50㎝程度の高さでも流れる水（川の決壊等）では大人ですら簡単に流されること」を教える。	【問いかけ】 ・今の写真や映像を見て思ったことや気付いたことを発表しましょう。 【児童の反応】 ・怖い，大きな家も流されていた。 ・道路が川のようになっていた。 ・大雨で，堤防が壊れて，まちにどっと川の水が流れてきた。 ・家の屋根やベランダに避難している人がいた。 ・１日たっても，まちは水につかったままだった。 【写真資料】・特別警報発令　・鬼怒川決壊 ・１日後のまちの様子 【留意点】 ・「特別警報」「決壊」など難しい言葉は１年生にも分かるように説明する。 【児童の反応】 ・浅い水でも流れが速いから流されてしまうんだ。 ・外にいたら，どうしたらよいのだろう。 ・家の２階や屋根の上に逃げるしかないのかな。 【資料映像】 ・50㎝の高さでも人が流される実験映像 ※「新潟県防災教育プログラム～津波災害編～」より
	３　平成２３年の新潟・福島豪雨災害の被害について伝える ① 平成23年の水害時の「大野地域の浸水被害」について，地域の人の体験談を聞かせる。 ・当時の雨の降り方や様子 ・まちの様子 ・その時の気持ちや感じたことと自分の行動 ② 平成23年の水害時「大野地区の浸水被害」と「中ノ口川の様子」について写真資料を見せる。 ③ 地域でも洪水被害があったことを確認し「大雨が降り続くとどこでも洪水災害が起こること」に気付かせる。	【児童の反応】 ・覚えているよ。家の近くで浸水していたよ。 ・２階の部屋に避難したこともあったよ。 ・大野のまちも大雨で浸水して大変だったんだ。 ・中ノ口川があと少しであふれそうだったんだ。 ・大野で洪水が起きたらどうすればいいのかな。 【写真資料】 ・平成23年の水害時の写真（善久地区） 【問いかけ】 今日の夕方から，大雨が降り続いてあっという間に家の前の道路が15㎝（大人の足首くらい）の水に浸かってしまいました。どのように行動しますか。 【児童の反応】 ・大切な物を持って２階に上がる。 ・水が少なかったら市民会館や黒埼中に避難する。 ・天気予報など見てできそうであれば避難する。 ・親の指示を聞いて，行動する。 【資料】ふり返りのワークシート

振り返り	**4 学習の振り返りとまとめをする** ① 今日の学習で分かったこと，感想などをワークシートに書かせて，発表させる。 ② 大雨の時の行動について，家族の人と話し合ってきてほしいことを伝え，次の時間には，各学年で「洪水災害から自分の身を守る方法」 について学習することを伝える。	**【問いかけ】** 学習で分かったこと・気付いたことを書いて，発表しましょう **【児童の反応】** ・川があふれた時は大人でも流されることが分かった。 ・川の堤防が崩れることがあることが分かった。 ・どこでも大雨が降ったら洪水は起きること。 ・川は大切だけど，大雨が降ると怖くなること。 ・洪水が起きたら避難所や高いところに逃げる。 ・テレビのニュースをよく見て，逃げ方を考える。 **【資料】**振り返りのワークシート

5 各学年で洪水にそなえて，自分ができそうなことを学年の実態に応じて考える

	主な問いかけ	児童の反応
まとめ	＜低学年＞ ○大雨が降っていたらどうしますか。	・高いところに逃げる。大切な物は２階に運ぶ。 ・２階や屋根に上がり，大きな声で助けを求める。 ・食べ物や飲み物を用意して，中学校へ逃げる。 ・家族や親戚に電話で連絡する。
	＜中学年＞ ○洪水にそなえて，自分たちにできることはどんなことですか？	・早めに高いところへ避難できるようにする。 ・大切な物を持って２階に行くか，中学校へ避難する。 ・ラジオやテレビで被害情報を確認する。 ・必要な物をいざというときに備えてバックにまとめておく。 ・川には近づかない。川から遠くへ避難する。
	＜高学年＞ ○大雨が降ると住んでいるところはどうなるか。 ※ (洪水ハザードマップ) ○洪水にそなえて，自分たちにできることはどんなことですか？	・水や食料を常に準備しておき，どんな状況でも持ち運べるようにしておく。 ・何かあった時の待ち合わせの場所や連絡先を打ち合わせしておく。 ・避難場所や避難経路を覚えておく。 ・祖父・祖母の手を引いて安全な場所へ導いてあげる。 ・テレビや携帯を見て情報を集めたり，天気の変化を確認したりして行動を決める。 **【資料】**各学年別ワークシート新潟市西区洪水ハザードマップ
評価	○大雨が降ったときに，起こる災害について知ることができたか。 ○洪水災害の恐ろしさとこの大野でも洪水の危険性があることを知ることができたか。 ○洪水から自分の身を守るために，どのように行動したらよいか，備えとしてできることは何かを考えることができたか。	

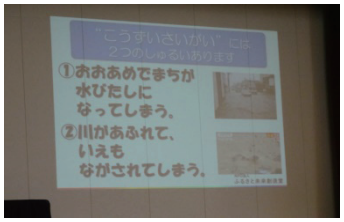
【授業実践の様子】

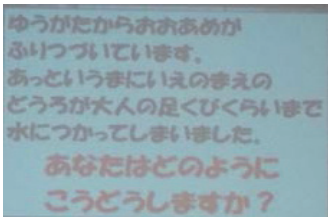


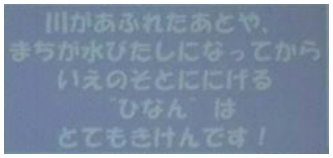




【スライド資料】







１１月に防災教育として，５日には全校で「洪水学習」，２４日には１～３年生を対象に「地震体験学習」をしました。洪水学習では，ゲストティーチャーを迎え，大雨が降った時の災害について学ぶとともに，洪水から身を守るために何ができるのかを考えてもらいました。また，地震体験学習では，地震体験車で実際の揺れを体験し，地震の怖さや地震が起きたときの身の守り方を学ぶことができました。

学校名：新潟市立黒埼南小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	昨年度，新潟市の防災教育モデル校となり，全校児童を対象として，大きく３回の防災教室を行った。その際には，児童だけでなく，保護者・地域住民も参加するなど，地域の防災意識も高めることができた。 この黒埼南小学校区の優先ハザードは，洪水である。最も身近中ノ口川が氾濫すると，板井地区・木場地区は，かなりの水害に見舞われることが想定されるので，特に洪水（水害）について重点を置いて指導していく必要がある。
保護者・地域・教職員等の願い	この黒埼地域を誇りに思ったり，この地域を愛したりするなどのふるさとを大事に思うといった「郷土愛」を児童一人一人に高めていきたい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・自然の「恩恵」と「災害」という２つの側面を知り，この地域に住み，豊かな自然と共生し続けるために，自然災害に備えた「態度（姿勢）」と「行動」を身に付け，深い郷土愛を育む子ども。 ・自然豊かなこの地域に住むために，「災害から自分の命は自分で守る」という主体的な意識を醸成し，危険を予測し，回避することのできる危険回避能力，思考力，実践力を身に付ける子ども
補助交付期間に実施した主な取組	１　避難訓練＆防災教室（４月） ２　避難訓練＆防災教室＆引き渡し訓練（６月） ３　参観日における防災教室（９月） ４　わくわく防災合宿（ＰＴＡ共催・夏休み中） ５　地震体験車（西区総務課・１１月）
自校プランの内容	１　避難訓練＆防災教室（４月） 火災を想定した避難訓練を実施した後，スモーク体験を実施した。火災時の煙の危険性を全校児童に体験させることができた。 ２　避難訓練＆防災教室＆引き渡し訓練（６月） 地震・津波を想定した避難訓練を実施し，近隣の文化財センター屋上へ保育園児とともに避難した。その後，日頃からの災害に対する備えが大事であることを学習し，非常用持ち出し品について，保護者とともに考えさせることができた。その後，引き渡し訓練を実施した。 ３　避難訓練＆防災教室（９月） 災害が起きた場合には負傷者が出ることが想定され，家庭の身近にある毛布や棒を活用した応急担架の作り方を学び，子ども・保護者とで，応急担架を活用した搬送リレーを行った。
自校プランを継続するための方策	来年度以降も，年間計画に防災教室を位置付け，避難訓練とセットで実施していく。

２．新潟市立黒埼南小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
第１学年	◎避難訓練（火事）＆防災教室（スモーク体験）	・生命尊重（道徳）	◎避難訓練（地震津波）＆防災教室（非常持ち出し品）＆引き渡し訓練			◎参観日＆防災教室（搬送リレー）		・災害時の正しい行動の仕方（学活） ・地震体験車		・雪道の歩き方（学活） ・避難訓練（休み時間）		
第２学年	◎避難訓練（火事）＆防災教室（スモーク体験）	・生命尊重（道徳）	◎避難訓練（地震津波）＆防災教室（非常持ち出し品）＆引き渡し訓練			◎参観日＆防災教室（搬送リレー）		・災害時の正しい行動の仕方（学活） ・地震体験車		・雪道の歩き方（学活） ・避難訓練（休み時間）		
第３学年	◎避難訓練（火事）＆防災教室（スモーク体験）	・生命尊重（道徳） ・私たちのまちはどんなまち（社会）	◎避難訓練（地震津波）＆防災教室（非常持ち出し品）＆引き渡し訓練			◎参観日＆防災教室（搬送リレー）		・災害時の正しい行動の仕方（学活） ・地震体験車		・雪道の歩き方（学活） ・避難訓練（休み時間）	・昔の道具とくらし（社会）	
第４学年	◎避難訓練（火事）＆防災教室（スモーク体験）	・生命尊重（道徳） ・火事を防ぎ，地震にそなえる（社会）	◎避難訓練（地震津波）＆防災教室（非常持ち出し品）＆引き渡し訓練			◎参観日＆防災教室（搬送リレー）		・災害時の正しい行動の仕方（学活） ・地震体験車		・雪道の歩き方（学活） ・避難訓練（休み時間）		
第５学年	◎避難訓練（火事）＆防災教室（スモーク体験）	生命尊重（道徳）	◎避難訓練（地震津波）＆防災教室（非常持ち出し品）＆引き渡し訓練	・台風と天気の変化（理科）		◎参観日＆防災教室（搬送リレー）		・流れる水のはたらき（理科） ・災害時の正しい行動の仕方（学活） ・地震体験車	・暖房器具の使い方（家庭）	・雪道の歩き方（学活） ・避難訓練（休み時間）	・自然災害とともに生きる（社会）	
第６学年	◎避難訓練（火事）＆防災教室（スモーク体験）	・生命尊重（道徳）	◎避難訓練（地震津波）＆防災教室（非常持ち出し品）＆引き渡し訓練			◎参観日＆防災教室（搬送リレー）	・地震による土地の変化（理科）	・災害時の正しい行動の仕方（学活） ・地震体験車	・暖房器具の使い方（家庭）	・雪道の歩き方（学活） ・避難訓練（休み時間）	・暮らしを支える政治（社会）	

3．新潟市立黒埼南小学校　防災教育指導例

全校児童 （45 分）	（学習のねらい）**「新潟地震を想定した避難訓練を通じて，地震から自分の命を守るためにできることを考える」** **・新潟地震の映像を見て，当時の体験談を聞き，地震及び津波災害の危険性を知る。** **・地震及び津波災害から自分の命を守るための行動について考える。** **・災害に対する備えの大切さを知り，日頃から家庭で備えておくことと災害時を家族と話し合っておく大切さを学ぶ。**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】7分	**1　新潟地震について知り，本時のねらいをつかむ** ① 新潟地震について知っていることを問い，新潟地震で新潟市に来た津波の高さ（約 4m）を視覚的にとらえさせ，その津波がどのような被害をもたらしたのか，当時の映像や写真資料を見せて確認する。 ② 新潟地震時の津波（高さ約 4m）について，津波を実際に確認してから逃げきれるかを問い掛ける。 ③ 本時の課題**「地震から自分の命を守るためにできることは何か」**を設定する。	※縦割り班によるグループ活動を想定 **【資料】新潟県中越地震の被害に関する写真等** ※新潟県防災教育プログラム【津波災害編】より **【教材】5mの高さを視覚で認識できる津波キット** **【資料】津波の高さと速さに関する資料**
【展開①】8分	**2　黒埼地区にはどのくらいの津波が来る可能性があるかを知り，命を守る行動を確認する** ① ハザードマップを見て，黒埼地区に来ると予想されている津波の高さを確認する。 ② 津波の強さに関する実験映像を見て，たとえ**「50cm 程度の津波でも大人ですら簡単に流されてしまうこと」**を押さえる。 ③ 地震のゆれがおさまった後，津波から命を守るために，**「すぐに高くて丈夫な建物や高い場所に逃げること」「津波がすぐに来なくても，一度避難したら低い場所に下りないこと」**を押さえる。	**【資料】新潟市津波ハザードマップ** **【教材】50cm の高さを視覚で認識できる津波キット** **【資料】津波の強さに関する実験映像** ※新潟県防災教育プログラム【津波災害編】 **【資料】東日本大震災　住宅に取り残され、救助を求める人たち（岩手県陸前高田市）** ※新潟県防災教育プログラム【津波災害編】
【展開②】7分	**3　新潟地震を体験した方から，当時の黒埼地区の様子や困ったことを聞かせる** ① ゲストスピーカーから新潟地震の体験談について，以下の 3 点を中心に話してもらう。 1）地震発生時の様子 2）新潟地震でのまちの被害 3）ゆれがおさまった後の生活で，どんなことに苦労したのか	**【資料】新潟地震当時の黒埼地区の写真** **〇ポイント** **・発災当時の地域の様子とライフライン（電気のみ）が使えなかったことから，どのようなことに困ったのかに焦点付けて話していただく。**

【展開③】18分	**4 地震が発生すると，電気・ガス・水道が使えなくなることを知り， 家庭での備えを考える** ① 日常的に使っているものが全て使えなくなることを確認し，**「日頃から備えておくことの大切さ」**を押さえる。 ② 縦割り班で防災グッズチェックリストを参考に，自分の家に必要な非常用持ち出し品を選ばせ，選んだものと選んだ理由をワークシートに書かせる。 ③ 選んだものに間違っているものはないことを伝え，**「各家庭の家族構成にあわせた備えが大切なこと」**を押さえる。	**【資料】ライフラインの被害によって，身近なものが使えなくなるイラストや写真等** **【資料】防災グッズチェックリスト（きおくみらい作成）** **【資料】ワークシート**
【まとめ】5分	**5 まとめ** ① 災害時の行動と家庭での備えの必要性について確認し，普段から家族と話し合っておく大切さを伝える。 ② チェックリストとワークシートを自宅に持ち帰り，「自分の家の非常用持ち出し品リスト」と「地震が起きたときの行動と避難場所」について家族と話し合うように伝える。	○**ポイント** **・学校で考えただけでなく，学んだことを家庭で話し合うことで，家族ぐるみで防災意識を高めさせること。** **・避難行動と避難場所を確認することで，自分だけでなく家族全員が自分の命を自分で守れることを伝える。**
【評価】	・津波の速さや破壊力について理解することができ，自分の命を守る行動について理解することができたか。 ・ライフラインが使えない状況で困ることを具体的にイメージすることができたか。 ・非常用持ち出し品がなぜ必要なのか理解することができたか。 ・地震発生時の対処行動や家庭での備えについて家族と話し合い，災害を自分事として考えることができたか。	

【授業実践の様子】

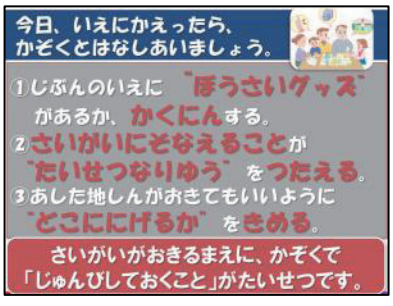




【スライド資料】







学校名：新潟市立山田小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・山田小学校区の優先ハザードは洪水である。現実に平成２３年７月の新潟福島豪雨では学区の一部（善久地区東部）が浸水被害に見舞われている。このときは大量の降雨による浸水であったが、地域付近を流れる中ノ口川や信濃川が氾濫した場合には、かなりの水害に見舞われることが予想される。
保護者・地域・教職員等の願い	・地域では、各地区ごとに年１回の防災訓練を行っており、住民も多数参加するなど防災への意識が高い。また、浸水を経験した地域があるということからも、水害に対する備えの意識が高まっている。 ・学校でも、洪水（水害）の学習を進めるとともに、水害に備えた避難訓練も行っていく必要性を感じている。
防災教育において、目指す児童生徒像	・自然を「恩恵と災い」の二つの側面からとらえることができ、「自分の命は自分で守る」という意識をもって、地域で生活する上で必要な方法や行動を身に付けている児童。 ・災害から家族、地域の人、歴史、文化を守るために、自分たちにできることを考えることができる児童。
補助交付期間に実施した主な取組	１　避難訓練及び引き渡し訓練（６月）　新潟地震体験講話。（６月） ２　リトルファイヤースクール（６月） ３　防災（洪水災害）の授業（５月～１０月） ４　防災グッズチェックリスト（１１月） ５　（起震車体験計画。（１１月））
自校プランの内容	１　避難訓練及び引き渡し訓練（６月） 地震を想定した避難訓練を実施した。まずグラウンドに避難し、津波を想定して校舎の４階へと二次避難を行った。その後、保護者への引き渡し訓練を行った。 ２　リトルファイヤースクール（６月） ４年生を対象に実施。消火体験、スモーク体験を行った。 ３　防災（洪水災害）の授業（１０月） 講師を招き、平成１６年の豪雨の様子をもとに、洪水に対する備えや、正しい行動のあり方について学習した。 ４　防災マップ作り（１１月） 地域探検で学習したことをもとに、地域における防災（特に洪水対策）に備えるマップを作成し、地域に配布した。 ５　起震車体験計画。（全校児童）※天候不順により実施できず。
自校プランを継続するための方策	・安全指導計画に位置付け、避難訓練と連動させて実施していく。 ・地域で実施している防災訓練とのタイアップを模索していく。

2．新潟市立山田小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1学年			避難訓練・引き渡し訓練				避難訓練			雪道の歩き方		
第2学年			避難訓練・引き渡し訓練				避難訓練			雪道の歩き方		
第3学年		私たちのまちはどんなまち（社会）	避難訓練・引き渡し訓練				避難訓練			雪道の歩き方	昔の道具とくらし（社会）	
第4学年		火事を防ぎ地震にそなえる（社会）	避難訓練・引き渡し訓練	地域安全・防災マップ作り			避難訓練 防災（洪水）の授業			雪道の歩き方		
第5学年			避難訓練・引き渡し訓練	台風と天気の変化（理科）			避難訓練 防災グッズチェックリスト作り	流れる水のはたらき（理科）		雪道の歩き方	自然災害とともに生きる（社会）	
第6学年			避難訓練・引き渡し訓練 新潟地震講話				避難訓練 地震による土地の変化（理科）			雪道の歩き方		

３．新潟市立山田小学校　防災教育指導例

A－１ 小学校中学年 ※洪－必須－５対応	（学習のねらい） **「洪水から身を守るために、どのように行動したらよいかを知る」**

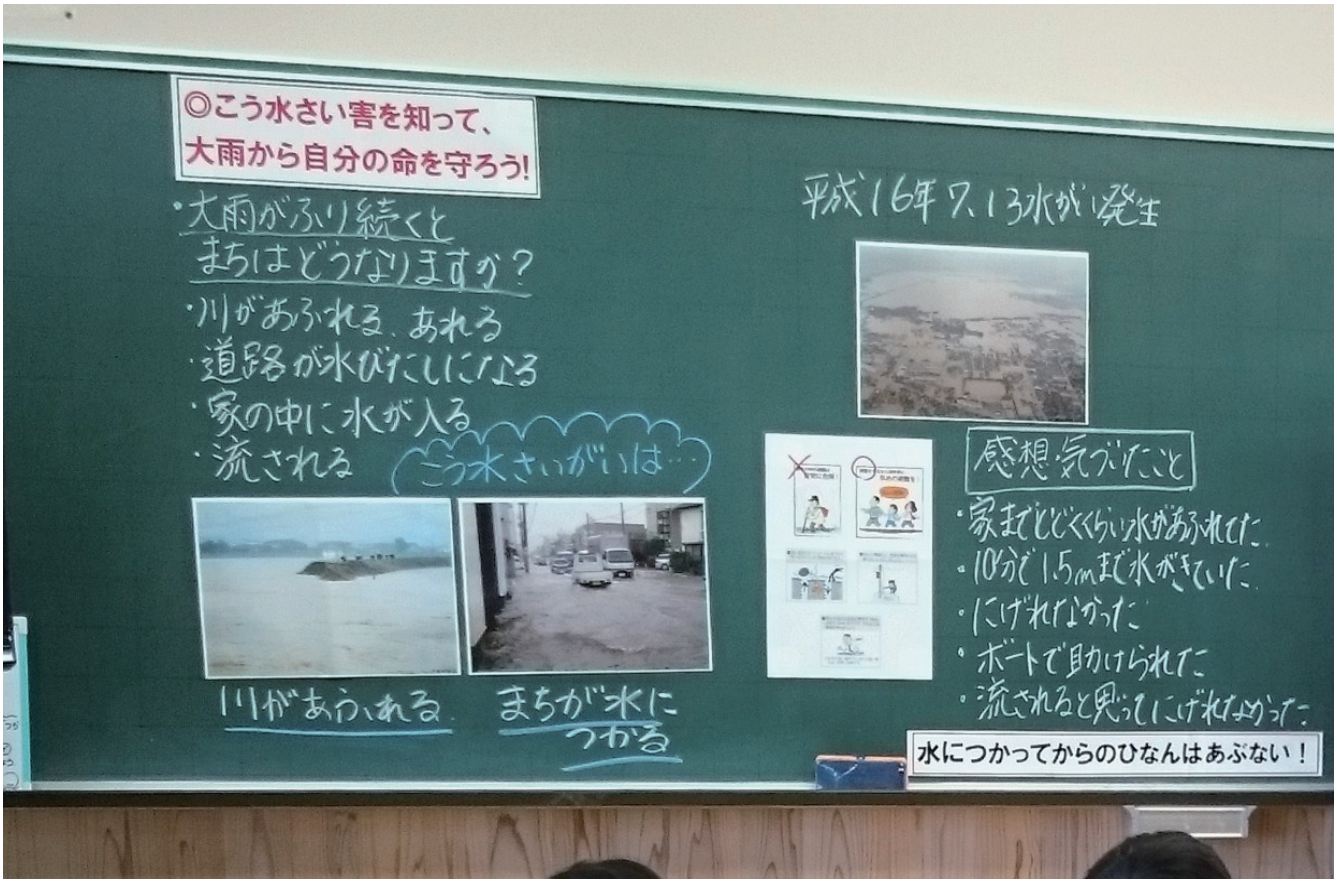
	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	**１．洪水について学習すること、学習のねらいを伝える** 「**洪水災害を知って、大雨から自分の命を守る方法について学習する**」ことをおさえる。	【問いかけ】 ・大雨が続くと、まちはどうなりますか？ **【資料①】 決壊した堤防の写真** 【想定される答え】 ・家の中に水が入ってくる。 ・まちが水浸しになる。
【展開】	**２．平成１６年の水害の様子をもとに、洪水の恐ろしさを知る** ① 洪水に見舞われた三条市の様子を収録したＤＶＤを視聴し、逃げ遅れた住民の話などから気付いたことや感想を発表し合う。 ② 浅い水でも、勢いが強ければ大人でも流されてしまうことを知る。 **３．平成２３年の水害の際に、浸水被害にあった善久地区の様子について知る。** **４．水かさが増してきた時の行動について考える。** 1)「**水があふれていなくて避難できるようなら、早めに避難する**」 2)「**水があふれてきたら、浅くても無理して避難しない**」 3)「**家の２階など、高い所に避難し、救助を待つ**」	**【資料②】ＤＶＤ「洪水に見舞われた三条」** **【資料③】 ＤＶＤ「強い水流で流される様子」** ・地域の方３名から、その当時の様子を話していただく。 **【ポイント】** ・濁った水の中では地面の様子が分からないこと、流れのある中では大人でも危ないことをおさえ、無理な行動はしないことを理解させる。
【まとめ】	**５．学習してわかったことを確認する** ・ ワークシートに、「授業の感想」などを書かせて、発表させる。	**ワークシート** **【ポイント】** ○ 「**洪水に備えて、自分の身を守るために必要なこと**」を確認する ○ 「**水害・洪水に備えて、家族で約束することを家に帰って話し合う**」ことを確認する。
【評価】	・洪水や水害が身近に起こる可能性があることが分かり、水害が起きた時にどのように行動すればよいか理解できたか。	

【授業実践の様子】





【板書例】（写真等　※黒板を使用していない場合は、スライド資料等を掲載）



学校名：新潟市立立仏小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・地域の一級河川である信濃川は護岸工事が整っており、氾濫し床下浸水などの水害が発生する可能性は低い地域と推定される。しかし、市のデータでは、津波による浸水等の被害が想定されている。現状を踏まえ、地域では、学校を巻き込んだ地域防災避難訓練が、全自治会参加で２年に１回実施されている。 ・市の防災計画でも降雨時に於ける当地の浸水による被害想定がされている。
保護者・地域・教職員等の願い	・保護者からは、水害を想定した避難訓練への要望が、その他の避難訓練同様にある。教職員のほとんどは、毎年教育計画に位置付けられた水害を想定した避難訓練を経験している。水害は学校だけの問題ではないので、地域とともに避難の心構え、方法等について、今後さらに考え、備えたい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・自分たちの住む地域の様子や水害被害について知り、安全な避難の方法を身につけるとともに、地域の防災に主体的に貢献しようとする子ども。
補助交付期間に実施した主な取組	・水害について学んだ。（児童生徒の実態に応じて全学年で実施） ・避難所での１泊２日を模擬体験する。（ＰＴＡ主催、全校希望者で実施、児童参加率３９．７％） ・自治会長、防災士、ＰＴＡ役員、教職員で地域避難訓練の計画と研修を年１回実施。 ・地域住民、保護者、小中学生による地域避難訓練を実施する。 ・遊びながら防災について学ぶ参加体験型の「あそぼうさい」を毎年実施。 ・地域を巻き込んで作成した、「手づくり防災ずきん」をかぶった避難訓練の実施。 ・地域、保護者、児童参加の防災講演会の実施。 ・起震車地震体験（４～６年）、新潟地震体験講話。（６年）
自校プランの内容	・年間１回の防災の日を決め、防災に関する取組を実施する。 児童生徒と学校職員のみならず、保護者、地域住民（公民館を含む）にも広く案内し、地域全体で防災について考える取組とし、実態に合わせた実践を行うものとする。
自校プランを継続するための方策	・年度当初に、地域住民（主体となるふれあい推進協議会を含む）と学校とで行う避難訓練を学校行事予定表に優先的に位置付ける。 ・避難訓練の計画は地域の防災訓練担当者、自治会長などと立案することとし、実施後も反省会を行い、翌年度の実践につなげる。

２．新潟市立立仏小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

■＝避難訓練　　引き渡し訓練＝◆　　□＝ベル訓練　　あそぼうさい＝◎　地域防災訓練＝●　（２年ごと）　▲防災の日

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
第１学年		◇津波のこわさ、逃げ方を学ぶ◆ ■ ▲	◇地震の危険性と身の守り方（校内）□	◎	◇大雨の危険性と身の守り方を知る	●■◎	◇土砂災害の存在と危険性を知る	□		■	◇冬季の学校、通学路に潜む危険性を知る　□	
第２学年		◇津波のこわさ、逃げ方を学ぶ◆ ■ ▲	◇地震の危険性と身の守り方（校内）□	◎	◇大雨の危険性と身の守り方を知る	●■◎	◇土砂災害の存在と危険性を知る	□		■	◇冬季の学校、通学路に潜む危険性を知る　□	
第３学年		◇津波の恐ろしさと逃げ方を知り注意する　◆ ■ ▲	◇地震の危険性と身の守り方（校外）□	◎	◇大雨の降り方や洪水について知る	●■◎	◇土砂災害の種類と前兆現象を知る	□		■	◇冬季の学校、通学路に潜む危険を見つけ回避する　□	
第４学年		◇津波の恐ろしさと逃げ方を知り注意する　◆ ■ ▲	◇地震の危険性と身の守り方（校外）□	◎	◇大雨の降り方や洪水について知る	●■◎	◇土砂災害の種類と前兆現象を知る	□		■	◇冬季の学校、通学路に潜む危険を見つけ回避する　□	
第５学年		◇津波の恐ろしさと逃げ方を知り、県の防災の歴史を学ぶ　◆ ■ ▲	◇余震や二次災害の危険性と身の守り方　□	◎	◇洪水から身を守るための備えと川からの恵みと災いについて	●■◎	◇土砂災害の発生要因と身を守る行動を知る	□		■	◇雪に対する備え、災害を学ぶ　□	
第６学年		◇津波の恐ろしさと逃げ方を知り、県の防災の歴史を学ぶ　◆ ■ ▲	◇余震や二次災害の危険性と身の守り方　□	◎	◇洪水から身を守るための備えと川からの恵みと災いについて	●■◎	◇土砂災害の発生要因と身を守る行動を知る	□		■	◇雪に対する備え、災害を学ぶ　□	

3. 新潟市立立仏小学校　防災教育指導例

小学校高学年 ※洪－必須－5 対応	（学習のねらい）「洪水から身を守るための備えと川からの恵みと災いについて学ぶ」 ～過去の水害を知り、立仏地域の人として、自分の身は自分で守る意識を家族ぐるみで高める～

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	**●自然の恵みと災いの２面性について伝え、洪水災害について学習することを伝える** 1.自然の魅力を伝える画像資料を掲示し、立仏地域の自然の魅力について発表させる。 2.自然の魅力を支えている要素について確認する。 3.「豊かな自然の恵みを受けているということは、自然により近づいて生活をしていること。自然に近づくということは、災害にあう危険があること」を押さえ、大雨が引き起こす災害として洪水災害について学習することを伝える。	プロジェクター 【写真資料】 ・自然の魅力を伝える写真 ※新潟県防災教育プログラム【洪水災害編】「自然の恵みに関する写真」及び「立仏小学校区のビオトピアの写真」等を使用
【展開】	**●洪水災害の映像を見て、災害の恐ろしさを伝える** 1. 平成16年に発生した7.13水害時の三条市の被害や体験談を伝える映像を見た感想や気がついたことを発表させる 2. なぜ、浸水した水の中を歩いて避難しなかったのか問いかけ、「川から水があふれている中の避難は危険なこと」「50cm 程度の高さでも、流れる水（川の決壊等）では大人ですら簡単に流されること」を押さえる。 3. まちが浸水する様子の写真を掲示し、浸水時の危険イラストを見せて、以下のような危険があることを押さえる。 1）歩道と道路の見分けがつかなくなる 2）川や側溝、田んぼに落ちる 3）マンホールのふたがはずれて吸い込まれる **●平成 23 年新潟・福島豪雨災害の被害について伝える** 1. 平成 23 年の水害時の「立仏地域の浸水被害」についてお話を聞く。（または知る。） 2. 立仏地域でも洪水災害による被害があったことを確認し、「大雨が降り続くと、どこでも洪水災害が起こること」を押さえる。 **●洪水災害から自分の身を守る行動を考えさせる** 1. 浸水してしまった時の避難方法を確認する。 2.「浸水前の早めの避難が重要なこと」を伝え、洪水災害から自分の命を守るためにはどうすればよいか、グループで考えさせ、発表させる。（数グループ程度）	・プロジェクター 【映像資料】 【映像資料】 【写真資料】 ・まちが浸水している写真（内水氾濫） 【配布資料】 ・浸水時の危険イラスト（体験者の話） 【写真資料】 ☆川があふれそうな状況では、「高い場所や丈夫な建物の上階に避難する」「流れる水に近づかない」「情報に注意する」など適切に対応することを押さえる。

【まとめ】	**●洪水災害から自分の身を守る行動を確認し、豊かな自然と共生する人として災害に備える大切さを伝える** 1. グループの発表から、本当にその行動をするために考えておかなければならない課題に気付かせ、自然豊かな立仏地域で生活をする人として「普段から災害に備えて、家族と災害時の行動を話し合っておくことの大切さ」を押さえる。 2. 今日の学習で気がついたことや分かったこと、感想等をワークシートに書かせる。 ※時間があれば発表させる。	【配布資料】 振り返り用ワークシート ※家庭に持ち帰り、家族と話し合った結果を書けるように作成。
【評価】	・洪水から身を守るための備えと川からの恵みと災いについて理解することができたか。 ・過去の水害を知り、立仏地域の人として、自分の身は自分で守る意識を高めることができたか。	

【授業実践の様子】







【板書例】（写真等　※黒板を使用していない場合は、スライド資料等を掲載）



１１）新潟市立西川中学校区（西蒲区）

対象校：西川中学校、曽根小学校、鎧郷小学校、升潟小学校
オブザーバー：西蒲区総務課、西川地域コミュニティ協議会

①　中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

	実施日・会場	検討内容
第１回	平成 27 年 5 月 28 日 16：00 ～ 16：45 会場：西川中学校	※コンソーシアムスタッフ不参加 ・5/14（木）研修会の振り返り ・各校の 6/16（火）全市一斉避難訓練の取組について（情報共有） ・各校の今後の防災教育の進め方について（情報共有） ・行政の支援メニューについて（情報提供） ・中学校区ミーティングの進め方について（意見交換）
第２回	平成 27 年 8 月 20 日 10：30 ～ 12：00 会場：曽根小学校	・各校の自校化プランの共有 ・小・中合同防災訓練について（意見交換）
第３回	平成 27 年 9 月 15 日 15：30 ～ 16：45 会場：西川中学校	・「11/5（木）津波防災の日」（小・中合同防災訓練）の実施内容について（検討・意見交換）
第４回	平成 27 年 10 月 21 日 15：30 ～ 16：45 会場：曽根小学校	・「11/5（木）津波防災の日」について（情報共有）

②　各学校へのサポート事例

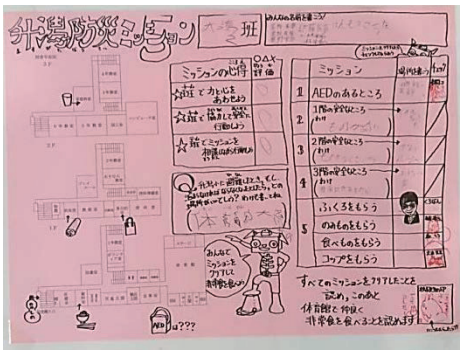
対象校	実施日	サポート種別	サポート内容
西川中学校	平成 27 年 6 月 22 日	ヒアリング	全市一斉の避難訓練の取組について 今年度の防災教育の計画について
鎧郷小学校	平成 27 年 6 月 24 日	ヒアリング	全市一斉の避難訓練の取組について 今年度の防災教育の計画について 防災講座案の検討、語り部や講師の紹介について
曽根小学校	平成 27 年 6 月 30 日	ヒアリング	全市一斉の避難訓練の取組について 今年度の防災教育の計画について
升潟小学校	平成 27 年 7 月 3 日	ヒアリング	全市一斉の避難訓練の取組について 今年度の防災教育の計画について
全校	平成 27 年 8 月 20 日	教材提供	自然災害の被害に関する画像資料の提供 避難所に関する画像資料の提供
鎧郷小学校	平成 27 年 9 月 15 日	講座	全校児童を対象とした防災講座「中越地震の体験談を聞き、家庭でできる備えを考える」

鎧郷・升潟・曽根小学校	平成 27 年 11 月 5 日	見学・サポート	西川中学校区内の 3 小学校にて、小・中合同防災訓練のサポート及び見学
曽根小学校	平成 27 年 11 月 25 日	講座・サポート	第 1 学年対象講座のサポート「防災　自分の身の守り方」 第 4 学年対象親子防災講座　保護者と一緒に「地震の被害を知り、日ごろからできる備えを考える」

【鎧郷小学校　9/15 防災講座の様子】




【升潟小学校 11/5 全国津波防災の日西川中学校区小・中合同防災訓練及び
曽根小学校 11/25 保護者参観日の様子】




学校名：新潟市立西川中学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・学区はのどかな田園地帯にある。土地が低い地域が多く、地震発生時には、液状化現象が起こる可能性が高い（液状化危険度　ランク３）。また、古い家が多く、災害発生時に建物の倒壊の危険が考えられる。 ・住民は、地域の子どもたちをみんなで見守っていこうという意識が高い。 ・曽根小学校はＨ２６年度モデル校に指定されており、現１年生が、地震発生時の避難ルートの作成を行っている。
保護者・地域・教職員等の願い	・保護者・地域からは、昨今の自然災害が頻発している状況から防災学習の実施についての要望がある。教職員は、災害に対する知識も乏しいため、専門家や地域の援助を得ながら、地域の実態にあった災害をテーマにした学習を進めたいと考えている。
防災教育において、目指す児童生徒像	・危険を予測し備えることができ、災害時に的確に行動し自らの安全を確保できる生徒。 ・他者を思いやることができ、災害時にも地域に貢献することができる生徒。
補助交付期間に実施した主な取組	・６月全市一斉の避難訓練を行った。昼休み時間に実施し、避難経路の確認や避難時の行動について自主的に考えさせるようにした。また、津波訓練で屋上に避難する２次避難を行った。 ・６月１年生を対象に総合的な学習の時間に、体験型防災学習プログラムを行った。学習内容　クロスロードと避難所体験。 ・９月１年生がおぢや震災ミュージアムそなえ館・山古志の見学を行った。 ・11月、地域の方との合同防災訓練を行った。また、学校で火災を想定した避難訓練を行った。
自校プランの内容	・地震、津波、火災について避難訓練を行う。 ・全国津波防災の日に、地域と連携した防災訓練を実施する。 ・防災教育プログラムを用いた防災授業を全学年、全クラスで行う。（１年地震災害、２年津波・雪災害、３年洪水災害）
自校プランを継続するための方策	・避難訓練実施後は振り返りを行い、翌年度の実践につなげる。 ・防災教育プログラムを用いた防災授業を実施した後、学習した内容を記録し、翌年度の資料とする。

2．新潟市立西川中学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年			体験型防災学習プログラム（一年生のみ） 全市一斉避難訓練（地震・津波想定）			そなえ館・山古志見学		地域の方との防災訓練（全国津波防災の日）（登校班別、特別活動2時間） 第二回避難訓練実施（火災想定）				
第2学年												
第3学年	防災教育プログラムを活用した授業（全学年・全クラス）年間３回以上											

3．新潟市立西川中学校　防災教育指導例

中学校 地一必2．3．5	（学習のねらい） ・これまでの身の守り方（学校外）と避難所の生活の学習をもとに、具体的な葛藤場面で自分がどのように判断し行動するかを、他者の意見を参考にしながら再構築し、より確かにする。

	学習内容（展開例）	資料および学習のポイント
【導入】	**1　今までの学習を復習し、学習のねらいを知る** ①　前時までのふりかえり ・　家庭や町中での自分の身の守り方 ・　自分の家で話し合っている避難所の確認 ・　避難所生活について考えたこと、および避難所で自分たちができること 数名に指名し、発言させる ②　本時の学習の流れについて説明と注意 ・クロスロードについての説明 ア　カード・ワークシートの配布 イ　クロスロードに正解はないということ。ただし、自分が出した答えに対してきちんと理由を述べることを伝える。	【問いかけの例】 ・自分の家で地震が起きました。どのように行動しますか。 ・避難所に向かうときに注意することはどんなことですか。 ・避難所生活についてあなたが考えたことは何ですか。 ・あなたが避難所でできそうなことはどんなことですか。 【想定される答え】 ・玄関を開ける、携帯電話で親に連絡する ・倒れそうな家や電線に気をつける ・せまい、うるさい。避難所内のマップ作り **【ポイント】** **・写真などを使用し、災害発生時のイメージを膨らます。**
【展開】	**2　クロスロードを班（5～6人）で行う** **問い1**　夕方自宅で一人。立っていられないほどの激しいゆれの地震が発生した。家の中は家具が倒れたり、壁が崩れたりして危険なので、外に避難した。強いゆれの余震が続いていて、町内の人から「西川中学校に避難しろ」と言われた。あと1時間で親が帰ってくる時間だ。あなたは西川中学校に一人で避難しますか。 ①　YES かNO の判断をする。 ②　判断した理由をワークシートに書く。 ③　裏返してカードを出す。 ④　一斉にカードをオープンし、何人がどのような判断をしているか確認する。 ⑤　班長の左の人から理由を述べていく。 ⑥　他の人の考えでなるほどなと思った内容をワークシートに書き込む。 ⑦　意見の交換をする。（以下、問い4まで続ける） **問い2**　陽が落ちて薄暗くなってきたので、あなたは自分の家から近い避難所に一人で避難することにした。避難所に向かう途中も強いゆれの余震が続いている。避難所に行くためには、道幅の狭い道を通らなければたどり着けない。道の両脇には、古い家がたくさん立ちならんでいる。あなたは、近くの避難所に行くために道幅の狭い道を通って避難しますか。	【想定される答え】 ＹＥＳ ・余震が続いており、地域の人といた方が安全だから。 ・親のことよりも、自分の身の安全を守ることが大切だから。 ＮＯ ・親と打ち合わせている避難所ではないから。 意見交換の中で 〇置き手紙などしていけばよい。 ※「避難しろと言われたから」という受動的な理由を述べた生徒に対して、変容が見られるか観察する。 【想定される答え】 ＹＥＳ　・できるだけ早く避難したいから。 ＮＯ　・家が崩れてきたら、死んでしまうから。 意見交換の中で 〇注意しながら素早く通過すればいい。 〇遠くても別の避難所にいけばいい。

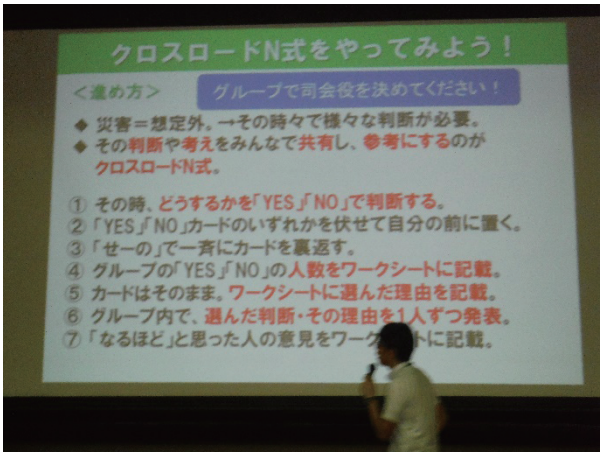
	問い３　夜８時過ぎに避難所に着いた。中に家族や友人はいないようだ。お腹がすいたので、持ってきたお菓子を食べようと思うけれど、食べ物を持ってきたのは自分だけのようだ。他の避難者もみなお腹をすかしていると思う。あなたは、その場でお菓子の袋を開けますか。 **問い４**　避難生活が始まり、３日目の昼間。余震で眠れないせいか、目の前で言い争いをする大人もいる。足の悪いお年寄りが避難してきたが、体育館に入れる場所がなくて困っている。先ほど言い争いをしていた大人が一人で場所を広くとっている。あなたは、その大人に「場所をゆずってあげてはどうか」と声をかけますか。	【想定される答え】 ＹＥＳ　・ほかの人もお腹がすいているから。 ＮＯ　・みんなが近寄ってきて分けることになるから。・ほかの人に申し訳ないから。 意見交換の中で 〇分けられたら分ければいい 【想定される答え】 ＹＥＳ　・その人がかわいそうだから。 ＮＯ　・言っても聞きそうもないから。 意見交換の中で 〇一人ではなく大勢で言いにいく。
【まとめ】	**３　学習してわかったことを確認する** ワークシートに、クロスロードをしてみた感想を書かせ、発表させる。	【予想される感想】 ・自分以外の人がどのような考えをもっているのかわかった。より良い答えを導き出すには、このゲームのようにみんなで話し合い、様々な意見を交換しあうことが大切だと思う。
【評価】	**・ＹＥＳ・ＮＯの理由をきちんと書き込めているか。** **・友達の意見をよく聞き、意見交換に積極的に参加しているか。** **・意見交換を通して、自分の避難に対する考えを深めることができたか。**	

【授業実践の様子】





【スライド資料】



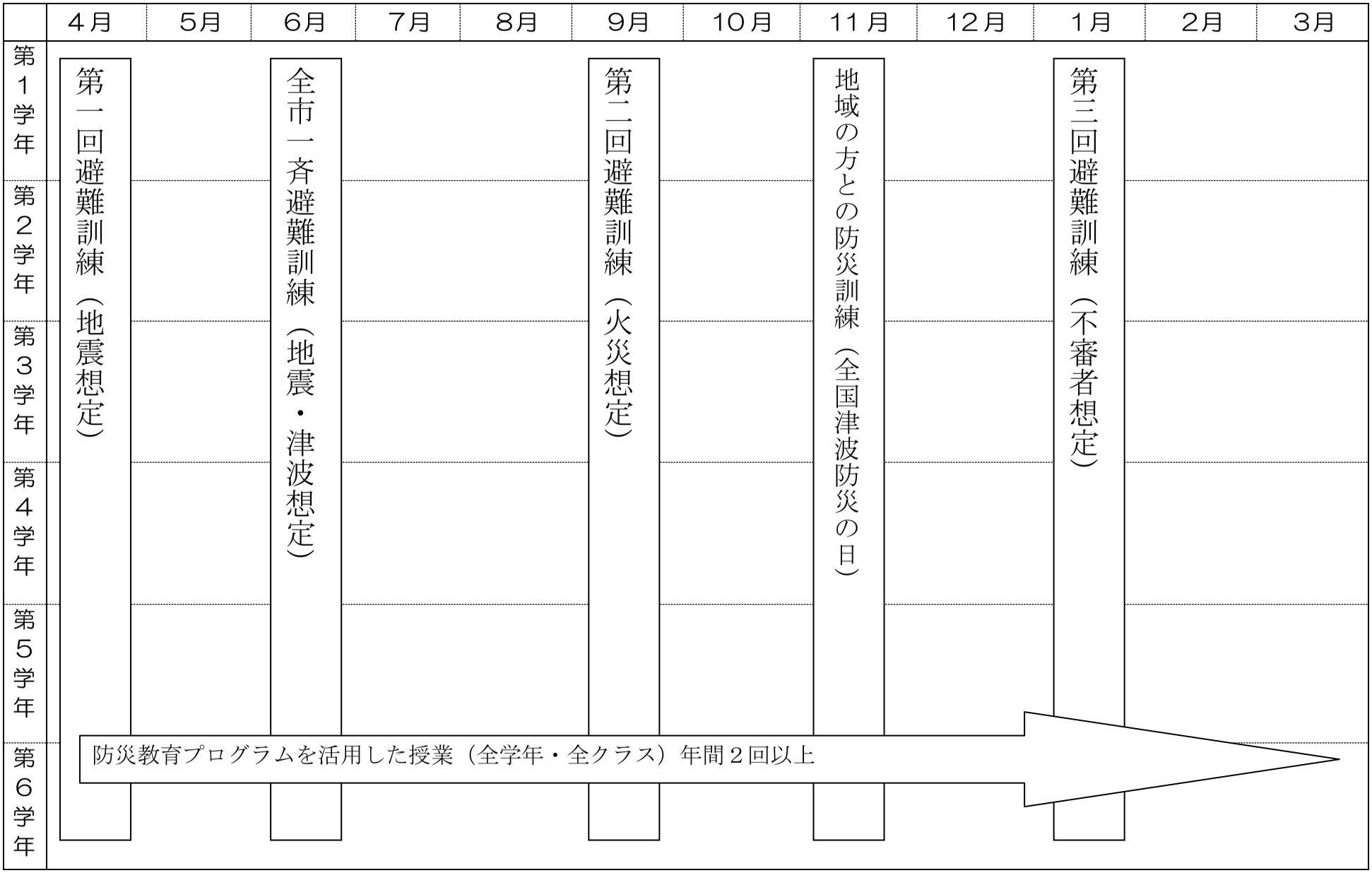
■この授業は実際には、学級単位ではなく１学年全体を対象とし、中越防災安全推進機構の指導で実施したもの。

学校名：新潟市立曽根小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・三つの集落からなる校区で、集落間は田畑が広がる。校区が広いため保護者が送迎（冬はタクシー）して登下校している児童もいる。 ・住民は、地域の子どもたちをみんなで見守っていこうという意識が高い。 ・土地が低い地域が多く、地域で起こりうる可能性の高い災害は洪水・地震・液状化である。
保護者・地域・教職員等の願い	・保護者からは、昨今の自然災害が頻発している状況から、効果的な避難訓練の実施についての要望がある。地域からは、地震・洪水災害発生時の子どもの安全管理について検討したいとの要望がある。教職員のほとんどは、洪水を想定した避難訓練や防災教育の実践経験もないため、専門家や地域の指導、援助の下で地域の実態にあった災害をテーマにした学習を進めたいと考えている。子どもが学んだ知識を自己の問題としてとらえ、行動に移そうとする態度を身につけるためには、体験機会の設定や、地域性をいかした防災教育の実施について考慮する必要がある。そのためには、学校・保護者・地域住民による教育活動への理解と協力体制が必要であり、自然災害に関する歴史から自地域の災害特性と課題を知り、災害から命を守る方法を学ぶとともに実際に行動に移そうとする態度を身につけさせたい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・災害時において自らの行動を主体的に考えることができる児童 ・地域社会における課題を調査活動や話し合い活動を通して、自己の問題ととらえ、行動に移そうとする態度を身につけた児童
補助交付期間に実施した主な取組	・４月２７日に全校で避難訓練を行った。（地震想定） ・６月１６日に全市一斉の避難訓練を行った。地震訓練でグラウンドに避難した後、津波訓練で屋上に避難する２次避難を行った。（地震・津波想定）
自校プランの内容	・地震、津波、火災、不審者対応の４つについて避難訓練を行う。 ・１１月５日全国津波防災の日に地域と連携した防災訓練を実施し、当該地域に起こりうる災害や学校が避難所になった際の様子について伝える。 ・防災教育プログラムを用いた防災授業を全学年、全クラスで行う。
自校プランを継続するための方策	・年度末までに翌年度の避難訓練計画を作成し、学校行事予定表に優先的に位置付ける。 ・避難訓練実施後は振り返りを行い、翌年度の実践につなげる。 ・防災教育プログラムを用いた防災授業を実施した後、学習した内容を記録し、翌年度の実践につなげる。

2．新潟市立曽根小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画



３．新潟市立曽根小学校　防災教育指導例

小学校中学年 ※地－選択－2対応	（学習のねらい）**「地震災害の被害を防ぐための備えについて学ぶ」** **・災害への備えについて、家族と一緒に考える**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	**１．地震災害が発生した時、身の回りに起きることを確認する** ① 災害が起こると、電気・ガス・水道・電話が使えなくなることをおさえる（イラスト・映像・クイズ）。 ② **「家庭での備えの必要性」**に気付かせる。	【といかけの例】 ・災害が起こると、困ることは何でしょう。 【想定される答え】 ・電気が付かない、水が出ない、火が使えない **【ポイント】** ○ いざというときに困らないように､家庭で日頃から準備しておくとよい。
【展開】	**２．家族の防災やくそくリストを作成する** ① いざという時に持ち出す「非常用持ち出し袋」の中身を家族で話し合わせる。 ・防災グッズチェックリストの中から、非常用持ち出し袋に入れておくものを１０個選んでプリントに書かせる。 ② 家族で選んだものを発表させる。 ・選んだものの中から一人一品と、選んだ理由を発表させる。 ③ 非常用持ち出し袋の重さを知る。 ・持ち出し袋の重さの目安（成人男性１５ｋｇ、成人女性１０ｋｇ程度であること）を伝える。 ・代表２名程度にかばんを背負わせ、机の下に隠れられるかどうか体験させる**「重すぎると、とっさに持ち出せない・自分の身を守れない」**ことに気付かせる。	【といかけの例】 ・災害が起きたとき、あなたの家で必要なものはどれですか　また、それはなぜですか。 【想定される答え】 ・懐中電灯　理由は、電気が使えないから。 ・現金　理由は、お金があれば物が買えるから。 【といかけの例】 ・防災グッズを持ち出すときは、どのようなことに気をつけたらよいだろうか。 【想定される答え】 ・両手が使えるようなかばんにする。 ・本当に必要な物だけを入れる。
【まとめ】	**３．学習してわかったことをまとめる** ① 非常用持ち出し袋について、ポイントをおさえる。 ② 非常用持ち出し品リストを再度見直し、完成させる。	**【ポイント】** ○ ①軽くて動きやすくすること②家族構成によって必要な備えやかばん選びを考えること③最初に持ち出すものと家の中に備蓄しておくものに分けること、の３点をおさえる。

【評価】	・非常用持ち出し品を準備・確認しておく必要性を理解することができたか。 ・非常用持ち出し袋の考え方と作り方について理解することができたか。

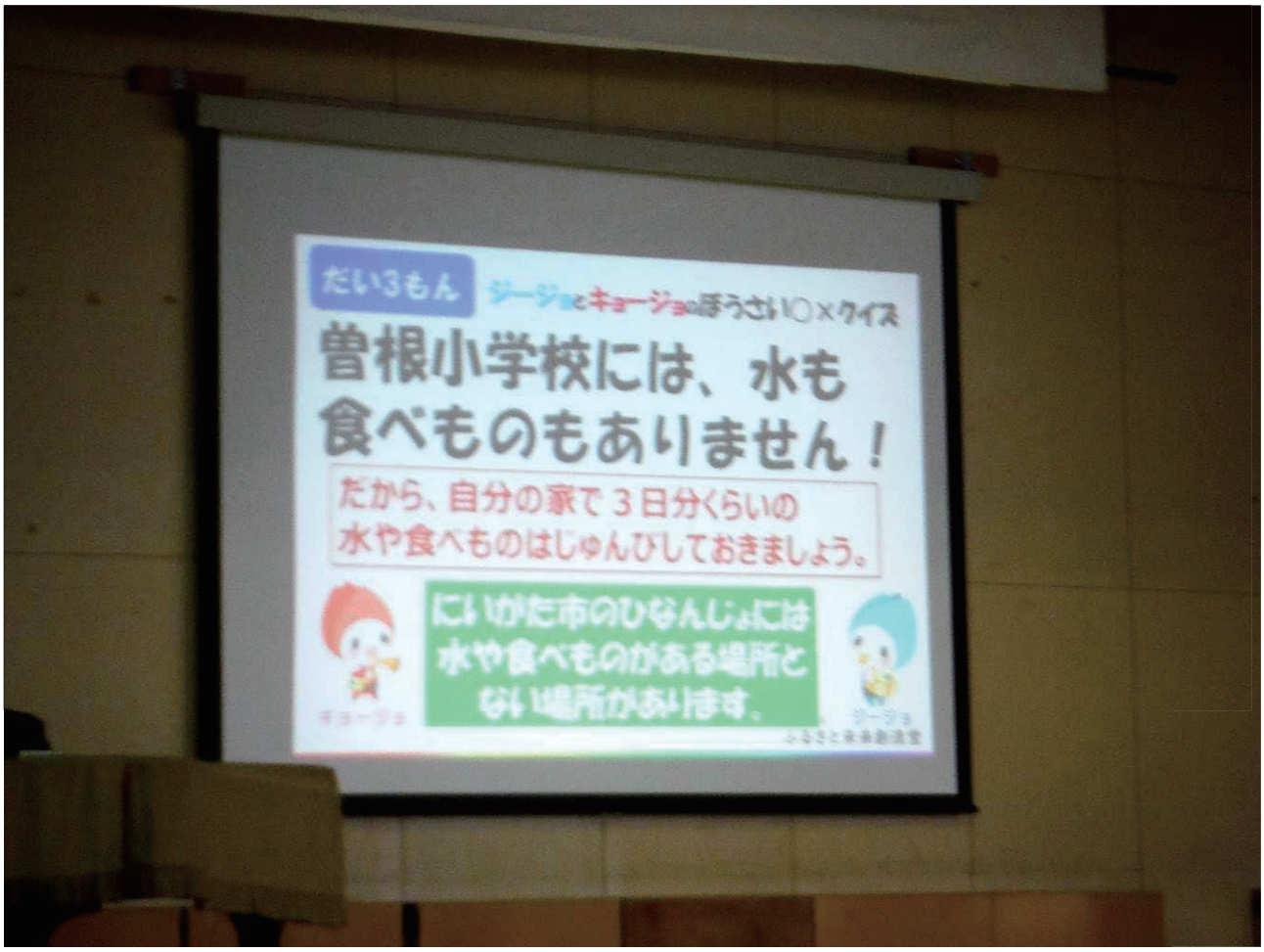
【授業実践の様子】







【スライド資料】



学校名：新潟市立鎧郷小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・大河津分水が大雨によって増水し堤防が決壊した場合には、浸水による被害が想定されている。また、巨大地震発生時には、液状化現象による被害も想定されている。 ・校区内の地域の古くからの集落では道幅が狭く、学校への避難、学校外への避難時の避難経路に不安が生じる。 ・地域合同の避難訓練を実施したことがなく、地域の防災に対する意識は低いと思われる。
保護者・地域・教職員等の願い	・地震想定の避難訓練を行った際、液状化現象の二次被害を考え、３階に避難する訓練を行った。地域、保護者から訓練の要望はなく、教職員の大半が、水害を想定した訓練を行ったことがない。今後、専門家の指導援助の基で避難訓練を実施したいと考えている。地域全体を巻き込んで、避難経路の確認なども行っていきたい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・災害時に自分で判断し、自分の命を自分で守るための最善の行動がとれる子ども。 ・災害発生時には、集団や地域の安全に役立つことのできる子ども ・防災についての基礎的基本的事項を理解できる子ども
補助交付期間に実施した（実施予定の）主な取組	・6月16日　全市一斉避難訓練の事前一斉指導。（全校一斉で体育館に集合し、シェイクアウト訓練・避難の仕方・実際の被災映像などを見て訓練の大切さについて学んだ。） ・9月15日　防災安全講座（講師の方を招き被災体験を聞き、その後縦割り班ごとに「大きな地震のあと、あなたが家族と生活するために特に必要だと思う防災グッズ」について考え、話し合い、防災に対する意識を高める。） ・11月5日　地域一斉避難訓練の実施（中学校区全体で一斉の避難訓練を行う。） ・学校が避難所になった場合の教職員を対象とした研修を行う。
自校プランの内容	・中学校区での地震による液状化現象を想定した地域一斉避難訓練を行う。児童教職員はもとより、地域に広く呼びかけ保護者への引き渡しや避難所開設の訓練及び、実態に合わせて訓練も行う。
自校プランを継続するための方策	・年度当初に、地域防災訓練の日を調査し、地域住民と学校とで行う避難訓練を学校行事予定表に優先的に位置づける。

2．新潟市立鎧郷小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	第1回避難訓練　火災想定	避難訓練の方法を学ぶ（学活２時間）	第2回避難訓練市一斉　事前一斉指導			中越地震被災者体験談を聴き、縦割り班ごとにリストを作成する。 防災講座		西川中学校区地域一斉避難訓練		第3回避難訓練　不審者想定		
第2学年		地域探検（生活２時間）										
第3学年		地域探検（社会２時間）										
第4学年		西川観察（総合２時間）										
第5学年							防災教育と私自分にできること。 道徳１時間					
第6学年							防災教育と私自分にできること。 道徳１時間					

防災教育プログラムを活用した授業（全学年・全クラス）年間２回以上

３．新潟市立鎧郷小学校　防災教育指導例

小学校 低学年 ※洪－必須－2対応	（学習のねらい）**「大雨が降ったときの身を守る行動を知る」** **・大雨で洪水が発生したときの危険性を知る。** **・大雨が降ったときの避難方法について理解を深める。**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	**１．大雨の危険性を復習し、学習のねらいを伝える** ① 大雨が降ったら町がどうなるかについて復習し、**「道路が水につかる」「川があふれることもある」**ことをおさえる。	・雨がたくさん降ると町はどうなるでしょうか？ 【想定される答え】 ・川があふれる。水たまりがいっぱいになる。
【展開】	**２．洪水時の危険性について考えさせる。** ① 大雨で町が浸水している写真や危険イラスト、新潟県三条市の浸水映像を見せて、次のような危険性があることを伝える。 （１） 浸水している中を歩くと流される。 （２） マンホールに吸い込まれる。 （３） 切れた電線から感電する。 （４） 家にも大量の水が流れ込む。 （５） 家も流されてしまうこともある。 **３・課題** 大雨がふったときには、どのようにしてじぶんのいのちをまもればよいだろうか。 グループになり、話し合いをして、どのようにして命を守ったら良いか考える。 **４・まとめ** **1)「大雨がふったら逃げないで家にいる。２階に逃げる。」** **2)「むやみに外に出ない。川の近くに行かない。」**	・大雨が降って堤防が切れて川があふれると、どんな危険があるでしょうか。 【想定される答え】 ・おぼれる。流される。家の中にも水が入る。 **【資料２１８～２１９】 町が浸水する様子** **【資料５００】浸水時の危険性** **【資料】 三条市五十嵐川氾濫の映像** **【資料２２０～２２３】 川があふれる様子** 【といかけの例】 ・大雨が降ると、川が氾濫したり、家が流されたりして命の危険もあるかもしれませんね。今日の課題はなんでしょうか。 【想定される答え】 ・逃げないで家にじっとしている。 ・二階に上がる。情報に注意する。 ・逃げる。 **【ポイント】確認すること** ○ 「**水に浸かったところは、同じ高さに見えるが、深い場所や側溝などがあり危険なこと**」 ○ 「**大雨が降ったら決して川の様子を見に行かない**」
【まとめ】	**４．学習してわかったことを確認する** ① ワークシートに、「授業の感想」などを書かせて、発表させる	**洪一ワークシート０２** **【ポイント】確認すること** ○ 「**大雨が降ったら高いところに行くこと**」 ○ 「**ニュースなどの情報に注意すること**」

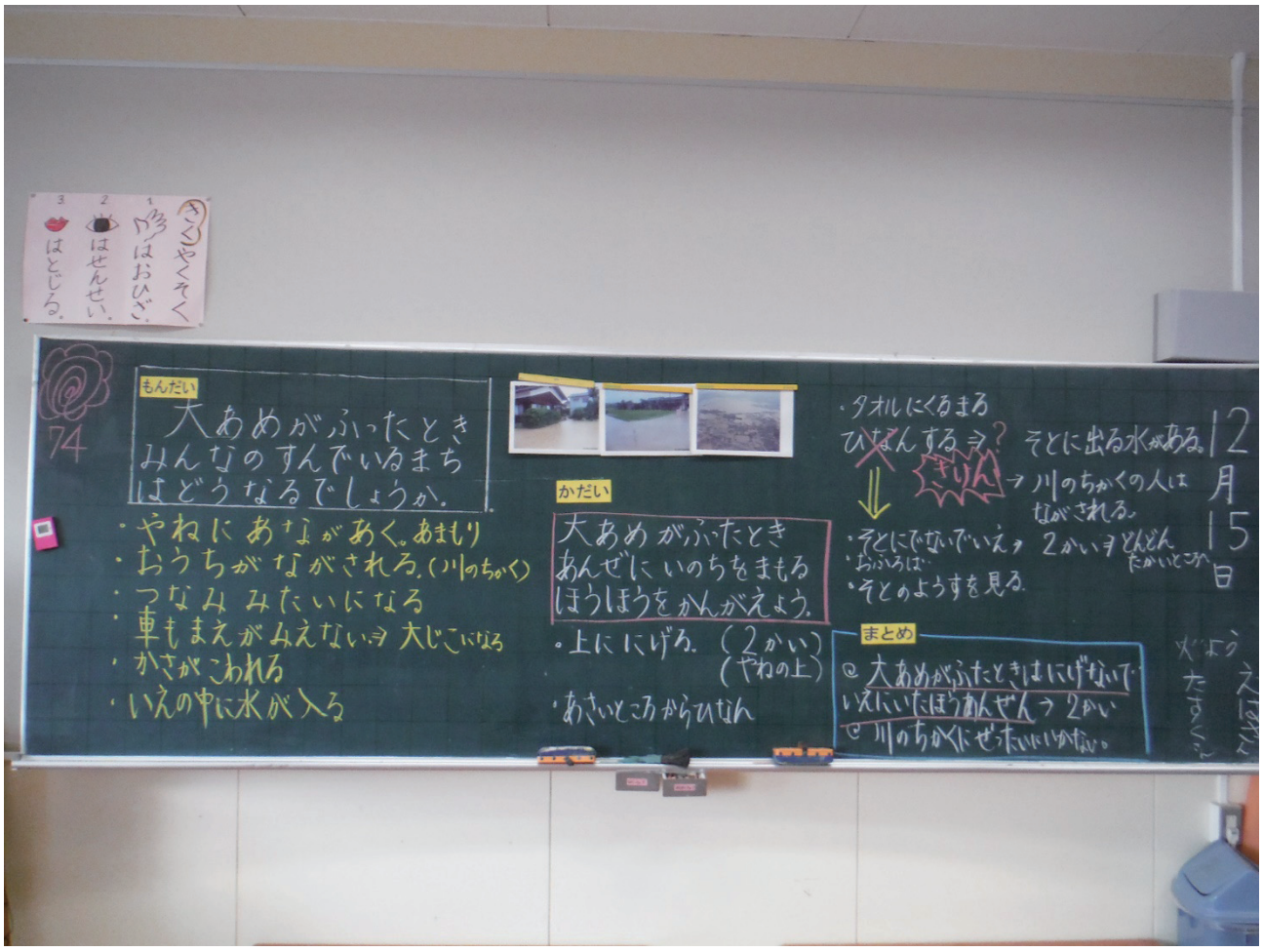
【評価】	・大雨が降ったときには、どのようにして身を守るか理解することができたか。ワークシートや話し合いの様子で評価する。

【授業実践の様子】





【板書】

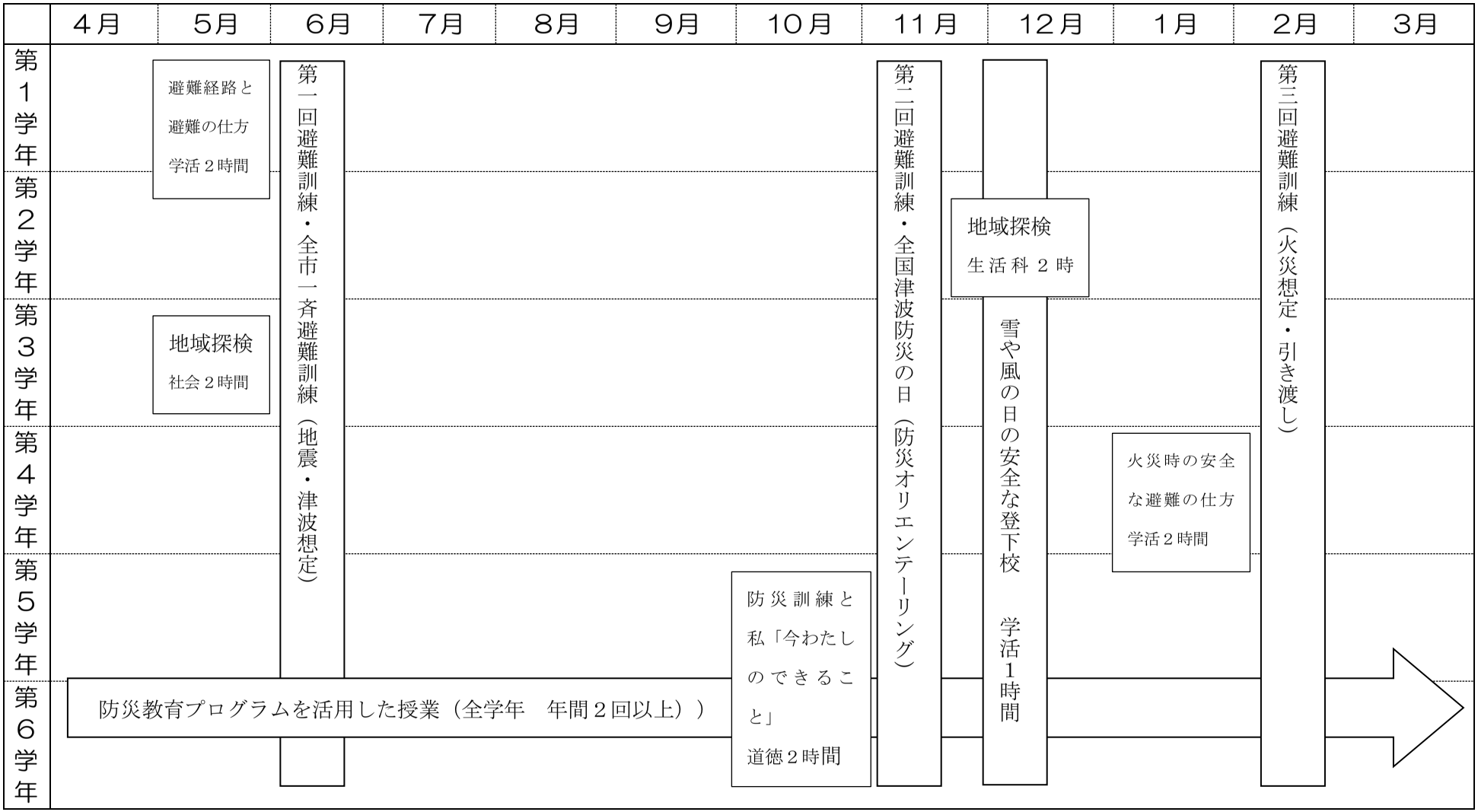


学校名：新潟市立升潟小学校

１．ふるさと新潟防災教育　自校化プラン

学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード	・新潟市西蒲区の東に位置し，校区内には田畑が広がる。 ・校区内に高い建物もなく，小学校が避難場所となる。 ・津波の災害の可能性は低いが，地震による液状化や校区内を流れる新川の増水による洪水が心配される地区がある。
保護者・地域・教職員等の願い	・昨今自然災害が頻発している状況ではあるが，保護者は海や河川から離れた地域であることから安心している。防災の意識を高めていくことが課題である。 ・保護者，地域住民と協力して自然災害に関する歴史や地域の災害特性を明確にし，地域の実態にあった災害をテーマにした学習を行っていきたい。
防災教育において、目指す児童生徒像	・自分たちの住む地域の様子や災害について知り，「自分の命は自分で守る」という主体的な態度を身につけ，具体的な方策を追求していく児童
補助交付期間に実施した主な取組	・６月１６日　全市一斉避難訓練。昼休みに地震・津波を想定した避難訓練を行った。 ・１１月５日　全国津波防災の日。５校時に升潟保育園児，西川中学校生徒（学区在住）と防災オリエンテーリング～升潟防災探検隊になって安全な場所を探そう～を行った。 ・２月９日　下校時に火災を想定した避難訓練と引き渡し訓練を行う。
自校プランの内容	・地震・津波，火災・引き渡しの避難訓練を行う。 ・１１月５日全国津波防災の日に，中学生，近隣の保育園と合同の防災オリエーテーリングを行う。 ・防災教育プログラムを用いた防災授業を行う。
自校プランを継続するための方策	・避難訓練実施後に振り返り，改善点などを明確にする。翌年度の実践につなげる ・避難訓練の計画は，保育園に立案し，合同で実施する。（年１回以上） ・防災教育プログラムを用いた防災授業実施後，学習した内容を記録し，翌年度の資料とする。

２．新潟市立升潟小学校　「ふるさと新潟防災学習」年間指導計画



３．新潟市立升潟小学校　防災教育指導例

小学校全学年 ※地ー選択ー１対応	（学習のねらい）**「地震発生時の基本行動を知り，中学生や保育園児と一緒に地震から自分の身を守る安全な場所を見つけることができる」 ○班で校内を歩いて安全な場所を探す。○安全な理由をミッションカードに書く。**

	学習内容（展開例）	資料や学習のポイント等
【導入】	**１．校内の安全な場所を探すことを伝える**	■地区ごとに集合する。
	２．安全な場所を探すポイントを伝える ① 地震から自分の身を守る安全な場所は，**「３つのない（落ちてこない・倒れてこない・移動してこない）場所である」**ことをおさえる。 ② **ミッションの内容と心得**を説明する。 **ミッションの内容** **1）各階で安全な場所を探してシートに記入する。** **2）非常食を集める。** **3）ミッションクリアしたら校長室で確認してもらう** **4）体育館に戻り，非常食を分けあって食べる。** **5）食べた終わった容器などを分別して片づける。** **ミッションの心得** 1)「**班で力と心を合わせる**」 2)「**班で協力して安全に行動する**」 3)**「班でミッションについて相談しながら行動する」**	■升潟小学校が避難所になることを伝え，自分が避難して来たらどうするか自分のこととして考えることができるようにする。 ■プロジェクターを使って調理室や図書室，音楽室などでは，どこが危ないか映像で確認する。 ・落ちてくるから危ない。 ・倒れてくるから危ない。 ・動いてくるから危ない。
【展開】	**２．班ごとにミッションに取り組み，安全な場所を探し,ミッションシートに場所と理由を記入する** ① 「３つのない」を意識して探すように見守ったり，必要に応じて支援したりする。 ② 地区別の異年齢の班がミッションの心得を守って校内を回ることができるように支援する。 **３．升潟小学校に避難して，もし泊まることになったら，どこに泊まるか班ごとに考える** ① 班で相談してミッションシートに､泊まる場所とその理由を書く。	**ワークシート「升潟防災ミッション５」** ■想定される安全な場所と考えた根拠 ・１階：体育館：広いから，物がないから。 ・２階：プレイルーム：物がないから。 トイレ：個室だから。 ・３階：コンピューター室：非常口があるから。 トイレ：３つのないが全部当てはまるから。 ■想定される泊まる場所と根拠 ・体育館：広いから，落ちてくる物がないから ３つのない場所だから ・プレイルーム：広くて安全だから

【まとめ】	**４．ミッションカードに書かれた場所は３つのない場所か，津波がきたらどうするかを確認する**	**【ポイント】** ○ 「**学校以外の場所で地震が起きても，３つのない場所を探して避難することで自分の命を守ることができる」**ことを確認する。
【評価】	・班の人全員で自分たちの身を守る安全な場所（３つのない場所）を見つけることができたか。 ・年上の人の話を聞いて行動したり，年下の子を気遣ったりすることができたか。	

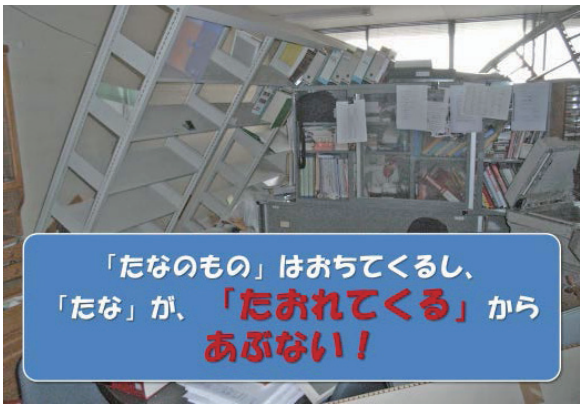
【授業実践の様子】



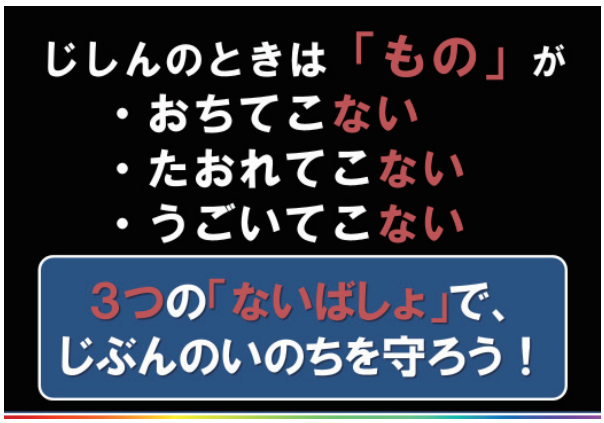


【スライド資料】









「防災教育」学校・地域連携事業
実施事例集

（平成 27 年度指定校）

平成 28 年 2 月

新潟市教育委員会

制作：新潟市防災教育コンソーシアム

・公益社団法人中越防災安全推進機構

・認定特定非営利活動法人新潟 NPO 協会



キョージョ　　ジージョ

新潟市防災マスコットキャラクター

平成 28 年 2 月

新潟市教育委員会